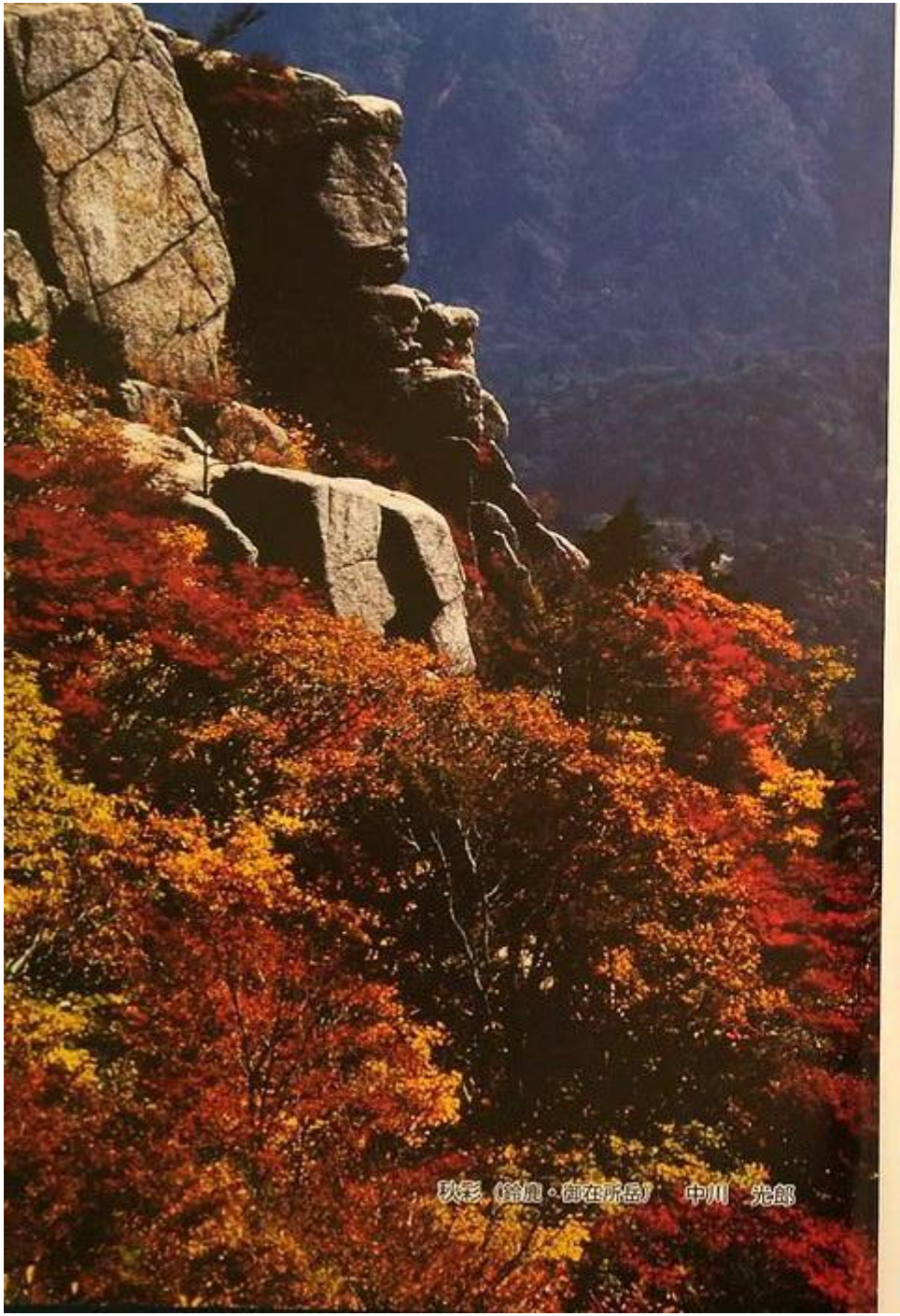


秋彩（鈴鹿・御在所岳）　中川　光郎

世界の山旅 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

ドロミテとオーストリアの最高峰展望と絶景の谷

秋のドロミテとオーストリア・ハイキング9日間

出発地 大阪・名古屋・東京
- ●9/19発……¥468,000
- ●10/3発……¥438,000
- ●10/10発……¥428,000

黄葉美のアルプスを歩き、山上のホテルに泊まる

秋のスイス・アルプスハイライト 8日間

出発地 東京
- ●9/16発……¥388,000
- ●9/30発……¥356,000
- ●10/9発……¥338,000

北極圏のラップランドでハイキング

秋のアビスコ・ハイキングとオーロラ 7日間

出発地 東京
- ●9/16発……¥418,000
- ●9/23発……¥398,000

秋のロッキー、ハイライト部分をハイキング三昧

カナディアン・ロッキーハイキング満喫(秋) 8日間

出発地 大阪・名古屋・東京
- ●9/14●9/21●9/28発……¥398,000
- ●10/5発……¥368,000

夜空に輝く神秘のカーテン、カナダの秋の魅力満喫

秋のイエローナイフ・オーロラウォッチングとロッキー縦断 8日間

出発地 大阪・名古屋・東京
- ●9/15●9/22●9/29発……¥388,000

パステル調に染まるカナダ東部の紅葉

アルゴンキンの秋紅葉ハイキング 8日間

出発地 大阪・名古屋・東京
- ●9/25●10/2発……¥538,000

ペルーアンデスを代表する内容充実のトレッキング

アンデス・ブランカ山群トレッキング 11日間

出発地 東京
- ●9/14発……¥432,000

秋色に染まる乾期のベストシーズンに

錦秋の四姑娘山ハイキングと4,000m峰登頂、九寨溝、黄龍 9日間

出発地 大阪・東京・福岡
- ●10/7発……¥398,000
- ●10/28発……¥368,000

広大な原野に咲くワイルドフラワー

花の楽園 西オーストラリアの旅 8日間

出発地 大阪・名古屋・東京
- ●9/10発……¥318,000

エベレスト山群のまっただ中の展望地へ（ロッジ泊）

エベレスト・パノラマトレッキング 12日間

出発地 大阪
- ●10/12●10/16発……¥320,000
- ●11/9●12/14発……¥320,000

ブナの原生林と氷河のマウントクック山麓を歩く

ミルフォード・トラックとマウントクック 11日間

出発地 大阪・東京
- ●11/13発……¥588,000
- ●12/7●1/4発……¥598,000
- ●12/26発……¥680,000

NZ随一のスカイラインを誇るフラワーロード

ルートバーン・トラックとマウントクック 10日間

出発地 大阪・東京
- ●11/22発……¥544,000
- ●12/22発……¥584,000
- ●1/6●1/26発……¥560,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。　http://www.alpine-tour.com

国土交通大臣登録旅行業第400号／(社)日本旅行業協会正会員 ◎ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

〒550-0003　大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F

東　京／☎03(3503)1911　大　阪／☎06(6444)3033
名古屋／☎052(581)3211　福　岡／☎092(715)1557
札　幌／☎011(711)7106　仙　台／☎022(265)4611(転送)
(株)りんゆう観光　広　島／☎082(542)1690(転送)

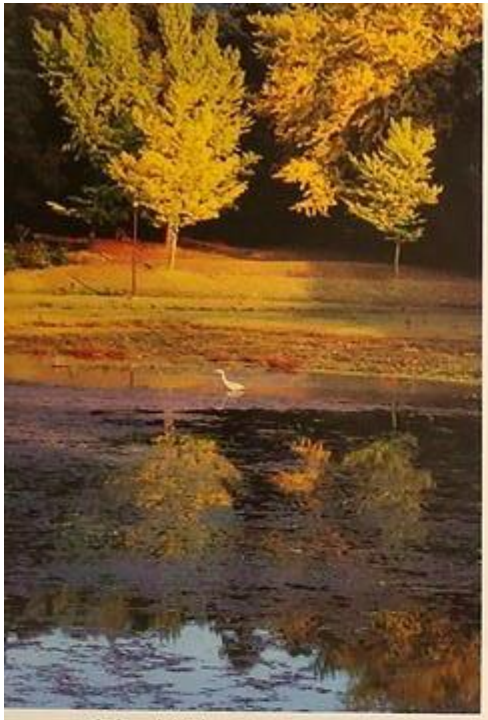
e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅

山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい。いつもの山仲間で海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会　山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのスライドを上映します。



奈良・大仏池（水面）

秋の花は萩　クサカンムリに秋
白・紅紫色の花のトンネル
ほのかな優しい香りに包まれる
九月九日　重陽の節句　菊の節句
陽数の九が重なるめでたい日
野遊びを楽しみ菊酒を酌み交わす
盃に浮かべた菊花　不老長寿
世俗を避けた「竹林の七賢」
琴と酒と清談を楽しむ
風の奏でる調べ　葉のさざめき
涼やかな香り漂う竹林の向こう
恐ろしいほど大きく鮮やかな月が
静かに静かに昇っていく
純白の光に包まれたかぐや姫
月へとその姿を溶け込ませていく

奈良・元興寺（ハギ）

Photo essay

重陽

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

京都・東山（竹林）

季節の実景

秋滝（高見山系）

撮影　武市通治

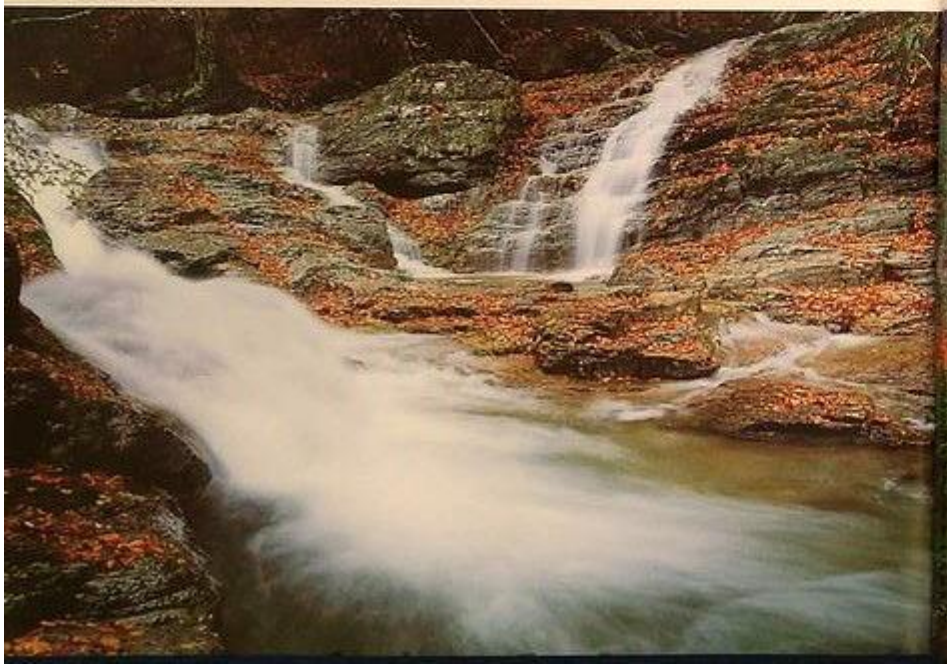
初秋

木原の滝

霧の林道

秋色

木梶の滝

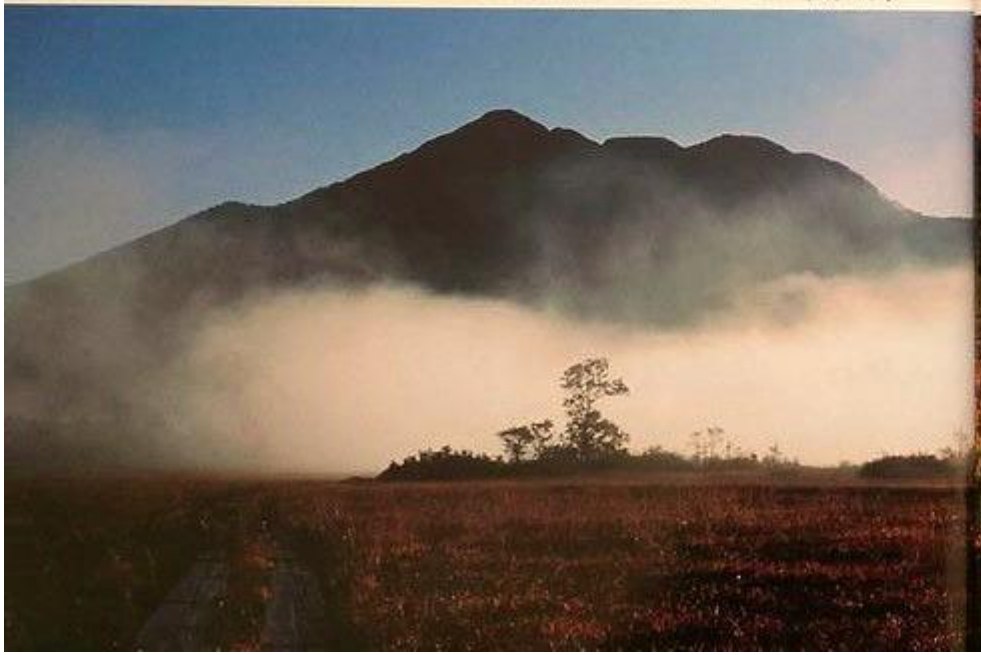


白滝

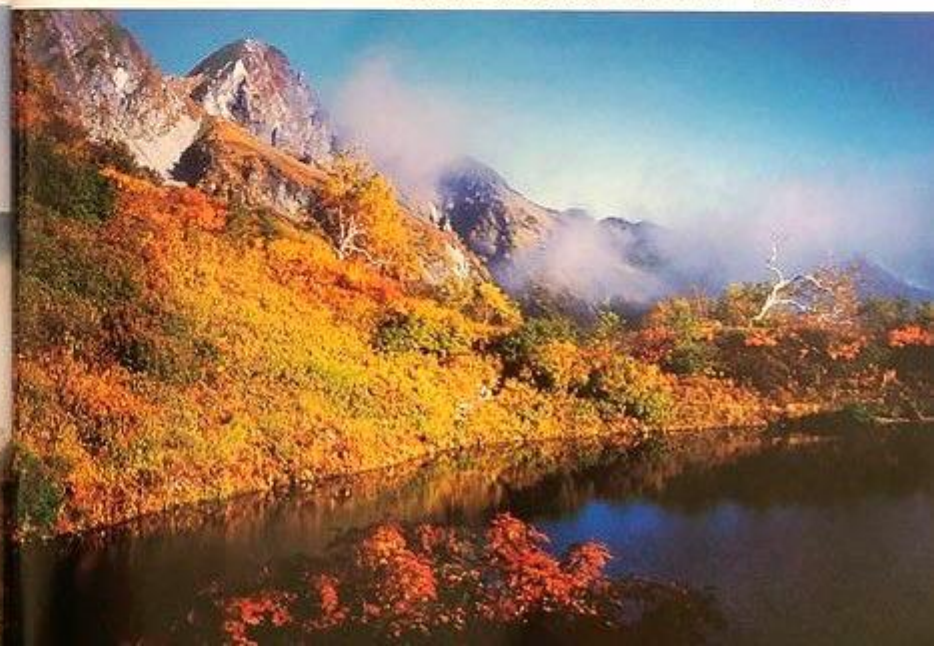
藤川谷渡渉（鈴鹿・日本コバ）　一芝　義雄

初秋の北山（半国高山）　山中　茂

早朝の至仏山と草紅葉（尾瀬ヶ原）　中川　節子



奥又白池と前穂高北尾根（北アルプス）　稲垣　勝義



新ハイキング 別冊 関西の山
'05年9・10月 初秋 第84号

●目次

表紙：松田敏男「野口五郎岳より早朝の水晶岳」（北アルプス）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の個展多数開催。（京都平安画廊、南アルプス仙水小屋、東京ギャラリー百号、他）京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

●グラビア
重陽……撮影 由井 収
季節の実景（初秋）「秋滝（高見山系）」……武市 通治 4
（口絵）中川光郎 山中 茂 稲垣勝義 一芝義雄 中川節子 奥田英一郎
随想（山のエッセイ）
夕陽と岩湧山……杉本 増生 10
山での事故・遭難1日で3件のトラブルに遭って……山田 明男 13

紀行
東北北部の山旅〈東北〉……生駒 巽峰 15
蓍麦粒山・高塚山・京丸山〈駿河〉……鷲見 守康 20
武尊山〈上州〉……木村 太郎 26
連載 標高による山の紹介シリーズ 24 △△84㍍の山
月山・七曜岳・前小河内岳・飯降山……松田 敏男 30
伊吹・弥高山〈湖北〉……田中 明 32
御池岳周遊〈鈴鹿〉……長谷川雅俊 36
富坂口から南山林道を経て鳥越峰〈比良〉……小山 誠次 38
七面山・明星ヶ岳〈大峰〉……島田浩一郎 42
鳥ヶ山〈高取〉……湯浅 康夫 48
連載 三角点を訪ねて⑯
天増川から三十三間山へ〈江若国境〉……礒部 純 62

●旗振り通信の資料V……柴田 昭彦 50
●エリヤ別徹底研究 伊能ウォーク INやまと
⑧尼ヶ辻～奉行所跡 ⑨JR奈良駅～北圓堂
⑩近鉄奈良駅～柿本人麻呂の歌塚〈奈良〉……上田 倖弘 56
●文学歴史探訪ハイク㉞
高野山町石道を訪ねて〈高野〉……松永 恵一 66
●〈山のレポート〉山の地名を歩く㉓「立山」……西尾 寿一 70

コースガイド
1 宮めぐりから大尾山〈比叡〉……金谷 昭 73
2 赤岩岳から水坂峠〈湖西〉……長宗 清司 76
3 阿弥陀ヶ峰から横道へ〈鈴鹿〉……礒部 純 78
沿線ハイキングガイド……80
サービスチェーン……83
せせらぎ……83
新ハイ関西山行計画……88
新ハイ関西山行報告……101
編集後記・広告案内……112

巻頭言

6月25日から1泊2日で「高野山町石道」と「高野三山・女人道」を例会で歩きました。両日共、梅雨晴れで真夏のように暑くなりました。まだ身体が本格的な夏の暑さになれていないので、炎天下を歩くには厳しすぎました。しかし、山中に入ると緑陰の道となり、ほぼ予定通りの参詣道歩きを楽しみました。そして、あらためて高野山の広大さと歴史の重みを実感してきました。

九度山慈尊院から大門までの町石道（本誌66ページ参照）は何と約23㌔、登りの続く道で夏に歩くにはやや長すぎました。また楠上伽藍を取り囲んで広がる周辺の山を何度ものアップダウンで周回する女人道は約18㌔で、一日で廻るにはもったいないほどにすばらしいコースでした。

やはり単に歩き通すだけでなく、古道沿いにある歴史を探訪しながらゆっくりと時間をかけて歩くべきだったと反省しています。今回のコースだと倍の4日間ぐらいに分けて歩くのがベター。熊野まではほんの序の口です。毎回反省しながら歩いています。

新ハイキング関西（代表）村田 智俊

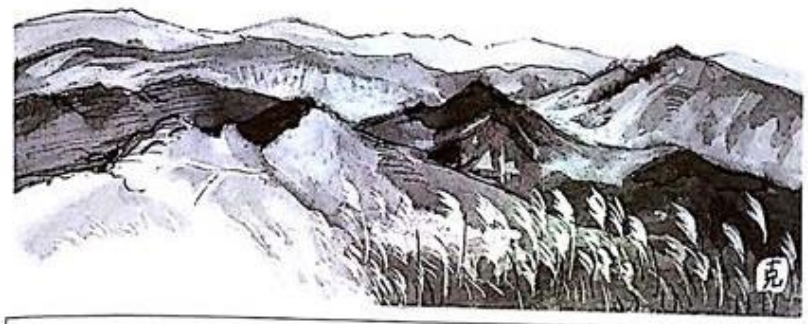
秋色の森で －戸隠－

奥田 英一郎

風の中の残り葉

小さな彩り

はんときの山の恵み（飯綱山付近にて）



夕陽と岩湧山

杉本　増生

広々とした岩湧山の山頂は薄の穂に覆われ、日盛りの陽光を浴びていた。

眼下に、南河内の平野が一望される。

「あそこが、僕の住まいです」丸本敬芝君が唐突に言った。

「向こうの山裾に、マンションが三棟、並んでいるでしょう。あの左端の、八階です」

指さす方向に、八階の部屋の窓が晩秋の陽光を照り返している。私は、初めて見る君の住まいの輝きに、目をしばたたいた。

6年前、電話をかけてきた丸本敬芝君は、久闊を叙する間もなくこう切りだした。年が明けた2月に結婚する、ついては媒酌人をお願いできないか、と。

彼が高校山岳部の新入部員当時から見知っている私は、38歳になる君の結婚についてひそかに心にかけてきた。それが、いきなりの結婚報告、しかも、媒酌人依頼まで添えて。寡黙で、不言実行の君らしい、単刀直入さだ。

晩秋の一日、君は婚約者の宏美さんを伴って来訪した。妻を横に坐らせて、私は言った。

――君とは4歳しか違わない。列席の親族より俺のほうが若輩に当たる場合も多いだろう。しかも、一介の平公務員だ。君は勤め先では本部長の重職にある。こんな俺を媒酌人に据えたら、君に恥をかかせることにならぬか。

丸本敬芝君が、ゆっくりと口を開いた。

「そんな恥なら、かいても、かまいません」

結婚1年半後の夏に健太君、4年後に千尋ちゃんが生まれた。宏美さん懐妊の知らせはなく、出産も事後報告であった。健太君は年賀状で、千尋ちゃんは中元に添えられた私信で、その誕生を知った。

世間の規矩にこだわらぬ君らしい呑気さだ、と苦笑しながら、妻と私は、祝福の品と言葉を贈った。

健太君と千尋ちゃんの誕生を挟んで、丸本君は病を得ている。多発性筋炎かもしれぬと聞き、驚いて入院先に見舞った。

「多発性筋炎」といえば、就労はもとより、日常生活すら覚つかない国指定の「難病」である。検査の結果、甲状腺の病気で、ホルモン分泌促進剤を毎日服用すれば健康人と変わらない。一生飲み続けなければならないが、薬の副作用は皆無なので心配はいらないと、言葉少なに君は語った。

随想（山のエッセイ）

ひとまず安心して暇を告げた。君は、見舞金の封筒をベッドの枕許に放り投げたまま、玄関まで見送ってくれた。6人の相部屋だ、まさか、とは思うが……寡黙に見舞を喜んでくれている君の笑顔を目にしながら、私は余計な心配をした。

今年の5月である。丸本敬芝君から私信が届いた。

今春転職した、と記してある。「簡単に報告すると」と前置してこう続いている。――勤めていた駿々堂出版の教育部門が左前になり、組織ごと大手進学塾に営業譲渡された。

本部長職として争議の渦中にあった君も、結局新しい塾に移籍した。「甲状腺機能低下症で入院したのはこの頃です」と3年前の疾病を、さらりと報告してもいる。この大変な時期に、多発性筋炎と誤診されかけた君の心労は、並々ならぬものであったろう。

「営業第一、利益一辺倒の大手塾に、私の信念、性格が合うはずもなく、また、身売りされたも同然の立場では、苦々しい思いをさせられることの連続でした。将来の展望も立たず、家族のことを考えると何とかせねばと焦る毎日でした」――それが今春の、別の進学塾への転職に繋がった。

今は、就職して仕事はそれなりに充実しているし、子どもといる時が一番楽しい、「子どもたちは本当に生きる喜びを与えてくれます」とも書いてある。

筆不精な君のこの突然の来信は、単なる「報告」ではない。人生の節目に遭遇した者が、事に処しながらいかに己が節を曲げまいと努めたか。それを、信頼する年長の友人に打ち明ける告白の手紙であろう。

私は、返事をこう結んだ。

「それにしても、出産の時と同じく、転職もまた事後報告だね。君の苦難の時を支えた宏美さんによろしく」

薄の穂が微風になびいている。澄んだ秋陽は、その薄の穂群にも、眼下の平野にも、等しく降りそそいでいる。

「この山は、僕の最初の山です」

弁当をつかいながら君が言った。

――中学三年の夏休みに、同級生と登って散々な目に遭った。径のない谷の中で日が暮れた。その体験が強烈で、高校生になって山岳部に入ったのだと。

新入部員の君を知ったのは、大学二年の春である。無口で、ひかえめな、しかし内に勁いものを秘めた少年の面影は、今も印象深く残っている。

10年来、君とは山行をともに

していない。が、こうして山の風に吹かれていると、その歳月が一挙に縮まるのを覚える。山を介して高校時代の君の成長に一役買い得た私の、喜びと誇りの感情が蘇ってくる。

「行きましょうか。4時にはお連れして、と宏美が言っていますので……」

ぼそりと告げて君は身を起こした。つられて立ち上がった私の目に、陽光に輝く君の住まいが飛びこんできた。

「岩湧山です」

八階のベランダに立って、丸本敬芝君が頂に目を注ぐ。足もとには、千壽ちゃんがまつわりついている。

1歳半の千壽ちゃんは、言葉が出ないぶん、しきりに指さしを繰り返す。うう、うう、と声を発して指さす先には、その身体がすっぽりと入ってしまうくらいの大きな落日が赤々と輝いている。

鍋を囲んで食卓につく。湯気を立てている土鍋に見覚えがある。結婚祝いにと所望されて、ピンクの小花をいっぱいにあしらったそれは、妻といっしょに見立てた品であった。

「今度は、山登りの帰りではなく、奥様とごいっしょにおいでください」

宏美さんが、子供たちに具を取り分けながら言う。訪問客を迎えて大はしゃぎの健太君は、おしゃべりに熱中して箸が進まない。千壽ちゃんは、フォークに刺したうどんを口に運ぼうとするが、大半がこぼれてしまう。宏美さんは、子供たちの世話で大わらわだ。

そんな母子の様子を、丸本君は相変らず寡黙に、微笑を浮かべた穏やかな目で眺めている。

私はふと窓外に目をやった。ゆったりとした山裾を薄闇に沈めて、岩湧山が間近く望まれる。なだらかな頂を夕日に美しく染めながら……。

目を室内に戻す。岩湧山を染める夕陽は、親子4人の家族団欒図をも、あわあわと照らしていた。

随想（山のエッセイ）

山での事故・遭難 1日で3件のトラブルに遭って

山田　明男

先日、JR史上最悪の列車事故で107名が亡くなられた。最も安全と思われた列車での事故は乗客も訳がわからないまま、亡くなられたのである。

山での事故も同じで、起きた瞬間には、本人も見ている者にもどうしようもない、アッと言う間の出来事である。

4月30日、朝5時から登り始め笈ヶ岳（おいがだけ）には10時35分に到着し、11時にくだり始めた。下りは雪を利用してお尻で滑れる所は滑ったが、2時間15分後の1400㍍付近でかみさんが雪の上で足を滑らせた。雪の無いササの上でも止まらず、小さな木の無い所から、崖下へ姿を消した。

小さな木は生えていたがちょうど2㍍程が無く、ここから落ちた。しかし、ここから落ちたのが運が良かった。3㍍程の崖下には残雪があり、雪壁の下に頭から突っ込んだが、リュックがクッションになったようで怪我は無く、少しの打撲だけで歩くのにも全く問題なかった。すぐに「助けて、落ちたー」と声が聞こえたので大丈夫だとわかったが、一時はどうなったのか心配した。

私も滑ったのは見たが、ほんの2、3秒で全く手出しができなかった。かみさんも私を見ていて、「どうした?」という顔をしていたと、後で話してくれた。

自分では滑るはずのない所で足を滑らせたから、体勢が横になり止まれなかったようだ。そのときの状況で運不運があり、今回は幸運だったが気をつけないといけない。その後は、慎重にくだったから登りと同じ位の時間がかかった。実際、私も足が疲れていて速くはくだれなかった。

野猿公園のジライ谷は朝方渡渉できたのだが、気温が上がった午後は水量が二倍にもなっていて飛び石が見えなくなり、川が渡れない。渡渉する場所を探すが見当たらない。1人が「ドボン」して犠牲になれば済むので、私が長靴のまま水に入って渡った。膝上まで水がきて冷たかったが、その時はまだ体が流されるほどの水量ではなかった。

下流に大岩があり、その下を水が流れていて大岩が橋のようになっている。その大岩に登るのにロープがあればよく、より安全に渡れるので、西側にあったトラロープを大岩のほうに回して垂らした。同行の2人と川を渡れなかった他のグループ4人も大岩を伝って西側へ引き上

随想（山のエッセイ）

げた。

その時の水量は三倍にもなっていて、もしトラロープが無ければ全員渡れず、東側に取り残されたままであったろう。この日は30人程がここから入山していたし、泊まりの人も10人程はいた。

翌5月1日、朝から登る人がすでに駐車場に来ていたが、朝方には水量は元に戻っていた。

その朝、中宮温泉の上空を飛ぶヘリの音で目が覚めた。数台のヘリが遭難者を探しているようである。

隣の旅館に泊まったグループの1人が戻ってこないという。30日朝4時に出発した18人グループで、最後に山頂へ着いた男性2人のうちの1人らしかった。

疲れて動けなくなっている男性1人を、ルートから外れたカモウリ平で見たというグループに、同日9時半頃「ブナオ山」で出会い、話を聞いた。

彼らは昨日私達と笈ヶ岳山頂で出会った3人だったが、疲れて動けない人を1人にしておいてはいけない。

下山した18人グループの人達は、単独別行動をしたと言っているようだが、本当のところはわからない。東京から来た寄せ集めのグループらしく、統率はとれていないようだし、参加者のレベルが初級者から健脚者までバラバラのようだと、私も追い抜いたときに感じた。

この山に来るのは無謀と思われる初心者がいたのも事実であろう。今年は雪の条件がよくて全員が山頂までは行けても、下山のことも考えて歩かないと帰りに動けなくなるか、転落事故を起こしかねない。動けなくなってしまったら他の人に助けを請わなくてはいけないのに、それもしていないようだ。

グループ行動なら最後尾を誰かが見ないといけないし、単独で残してはいけない。

7年ほど前、目の前で倒れられた女性が亡くなる事態に遭遇しているが、私もがそばを離れていたらと思うとぞっとする。私がそばにいてすぐ他の人を呼べてよかったと思っている。

また、下山中に動けなくなっている人を見たら下へ連絡すべきであろう。今回、私達は先に出発していたので出会わなかったが、今後の山行の時に今回の教訓を生かしたい。

カモウリ山まで行けば電話が通じることを知っているので、下山中にもし私達と出会っていたらと悔いが残る。

その後、旅館に電話して確認したが、怪我のことなどはわからないが助かったそうで、良かった。

東北百名山（青森・岩手・秋田）

東北北部の山旅

生駒聳峰

東北

東北の山は北の青森県から始める。今までに下北半島の縦道石山・釜臥山・吹越烏帽子は登っているので、今回は津軽半島の袴腰岳から始める。9月の初め、まだ30度を超す暑い大阪を後にし、一路北陸道を北上する。途中サービスエリアに一泊し、津軽半島蓬田村の海岸まで来て泊まる。翌日は平館の不老不死温泉から袴腰岳を目指した。

袴腰岳（707㍍）4等

ガイドブックに記載された温泉からの林道は、数100㍍で通行不能、源四郎沢の登山口までは車で入れない。荒れた林道は所どころ崩れている。登山口の道標に「竹ノ子平1㌔」とあるが、沢沿いの道はすっかり草に覆われ、歩いた跡も無い。稜線の竹ノ子平に登り着き、縦走路と合流する。後はなだらかな道だが、先日の台風で折れた枝が散乱していた。この稜線の1時間半の縦走はけっこう長い。やがて道は山頂を半周し、今別側からの登山路と合流して山頂に到着した。

一組の夫婦が先着していた。今別の林道から登ったと言う。短時間で登れるが林道は悪路とのこと。途中に1等三角点のある丸屋形岳の登山口もあると言う。以前、私が登った時には無かった林道が出来たらしい。

山頂は双峰で、奥のピークに4等三角点があった。展望はすばらしい。陸奥湾越しに下北半島が、さらに遠く北海道も霞んで見えた。目の前には大やぶ漕ぎで登った丸屋形岳が、こんもりと盛り上がり、山腹に林道が長々とのびている。いったいどこに入口があるのだろうか。

不老不死温泉（300円）で汗を流すが、銭湯並みの設備である。同名の日本海側の温泉が有名だが、こちらが元祖だ

との話であった。
〈地形図〉
2万5千＝袋月・陸奥平館・大川平

天皇山（57㍍）2等?

ガイドブックに天皇山の名を見つける。おもしろいので立ち寄ってみる。鯵ヶ沢のメロン畑のなかの丘で、地形図には天皇山とあるが、地元では高山稲荷社と言われている。登山口には赤い鳥居が立ち、大きな絵馬が掲げられている。山頂の稲荷社の屋内には、大きな日の丸旗や軍艦旗が飾られ、やはり天皇と関係があるらしい。ガイドブックには、安徳天皇の行在所の伝説に依るとある。三角点は数字が削られて等級が不明だった。
〈地形図〉2万5千＝鯵ヶ沢・森田

東北北部の山旅付近略図

暗門の滝

山ではないが百名滝の一つ、暗門の滝を訪ねる。白神山地が世界遺産に登録され、その中にある滝を見るために大勢が訪れる。滝までは渓谷沿いの道を1時間程歩く必要があり、軽いハイキングともいえる。観光バスも多く寄るが、川沿いの道は増水すると通行不能になる。私の訪ねた時も通行止であった。ツアーの人達は残念なことである。私は翌日再度訪れ、入山協力金300円を支払って入る。しかしまだ水量は多く、所どころ水没していた。長靴を履いてきてよかったが、登山口のセンターでも貸してくれるらしい。短靴の人はあきらめて引き返していた。

滝は三段で、第一の滝から岩壁伝いの登りになる。第二の滝を過ぎると、第三の滝の飛沫が猛烈で、最後の滝には近づけなかった。外国の観光客に見せても恥じない名滝である。
〈地形図〉5万＝川原平

梵珠山（468㍍）3等

青森県民の森の梵珠山は、駐車場やトイレの設備があり、遊歩道が整備され1時間程で登れる。その名の通り信仰の山で、山頂には七地蔵がまつられている（六地蔵はよくあるが）。展望台からは、岩木山や八甲田連峰が望まれる。登山道にトチの実がたくさん落ちていた。
〈地形図〉
2万5千＝大釈迦・源八森・青森西部・油川

櫛ヶ峯（1517㍍）

登山口は八甲田の猿倉温泉である。登山口に泊まる予定で温泉に到着すると、折から下山してきた中高年グループが、11時間もかかり、きつかったとフウフウ言っている。それを聞いて私も恐れをなし、早々に退却を決める。もう老年の身では無理はできないし、明日の天気が良

くないのも理由にしよう。
〈地形図〉2万5千＝酸ヶ湯・八甲田山

十和田山（1054㍍）3等

十和田湖畔字樽部の駐車場に車を止める。案内板には、登山口に駐車スペースが無いからここに駐車するよう記されている。標識に従って車道を登山口に向かう。道は有料のバラ園に入って登山口となる。尾根までひと登り、後は稜線伝いで山頂に到着する。登路の周囲一面はブナ林であった。

山頂の展望は良いが、折からの雨霧に遮られ、全く何も見えない。

下山の時に、ブナの古木に白いキノコを見つける。キノコは余程知識がないと危険であるが、図鑑の毒キノコに類似のものが無いので大丈夫と、妻は尻込みしていたが、1㌢ばかり採集した。下山後地元の売店を覗くと、同じキノコが売られていた。「ブナハリダケ」とのことであった。大変おいしかった。
〈地形図〉2万5千＝十和田湖東部

十和利山（991㍍）

十和利山の登山口は迷ヶ平で、ここは交通の要所で、みやげ物屋や食堂がある。広い駐車場やトイレがあり、ここに駐車する。登山道を入って行くと、道は東と西に分岐する。東廻りは急坂だが短時間で登れる。急坂は登りのほうがよいので、東廻りに入る。今日は天気も良く、山頂では十和田湖を始め、田代平の風力発電機群、昨日登った十和田山、さらに1等三角峰の戸来岳（三ツ岳）も望まれた。

下山は西廻りの道をくだる。昨日たくさんキノコを採ったので、今日もあるかと妻共々ブナの古木を探しながらくだる。そうして、一本の古木から再びたくさんのブナハリダケを得た。

下山後、新郷村にキリストの墓を訪ねる。以前にも記載したことがあるが、背後にそびえる戸来岳の名もヘブライに通じ、何か関連があるのかも知れない。今は立派な記念館も建っている。村には温泉もある。
〈地形図〉
2万5千＝十和田湖東部・戸来岳・中滝・清水頭

藤里駒ヶ岳（1158㍍）2等

世界遺産の白神山地の山で、遺産に登録されてからとくに登山者が多くなった。登山口の藤里町に向かう途中、鷹巣町で世界一の大太鼓を見る。直径3㍍を超す大太鼓は、一見の価値があった。

世界遺産のビジターセンターを過ぎ、渓谷沿いの林道に入る。幅も狭く曲がりくねり、太良峡で舗装も切れて砂利道になる。この黒沢林道も、先日の台風で荒れていた。キャンプ場、ブナ林風景林と過ぎ、登山口に到着すると、きれいなトイレ舎や案内板が設置されている。

登山道は尾根廻りと田代湿原経由と二本ある。湿原を見る道を選んで湿原に行くと、折から1人の男がおりて来て、「こちらの道はきついから尾根道を登ったほうがよいですよ」と言った。しかし、一周するなら急坂を登りにするほうがよいだろうとそのまま登った。ところが急坂と悪路の連続で、尾根道が70分のところを二倍近い時間を費やした。山頂には方位盤と2等三角点が設置され、白神山地の山々が展望された。

下山には尾根道をくだる。こちらはよく整備されて歩きやすく、大部分の登山者はこの道を往復していた。ここでも世界遺産の山とて、ツアーの団体の姿も見

兜明神嶽

られた。

〈地形図〉2万5千＝真名子・羽後焼山・冷水岳・尾太岳

兜明神嶽（1005㍍）

盛岡から宮古に向かう国道106号線沿いにある山で、全く名の通り兜を伏せた形である。兜の鉢の部分が岩山で、裾野の森林から頭を出している。まさに誰が見ても兜と言うだろう。国道の兜明神社の鳥居の所に車を止める。神社の横から登山道がのび、穏やかな森のなかを登って行くと岩峰に到着する。山頂には小さな神社が建ち、早池峰山から岩手山が望まれた。

〈地形図〉2万5千＝区界

薬師岳（1645㍍）3等

早池峰山の南にある薬師岳は、登山口も同じ小田越にある。少し下の河原ノ坊には広い駐車場と管理事務所があり、日本百名山を目指す人達が大勢やって来る。早池峰山はここより上の小田越からのほうが楽に登れるが、と思いつつ小田越に行くと、ここには全く駐車場が無い。路肩もロープが張られて駐車禁止になっている。監視小屋には番人がいるので駐車できない。こちらは薬師岳なので、峠を乗り越して山小屋の入口に行くと、二台ばかりの駐車スペースがあった。

登山道は小田越からの尾根コースと、山小屋のある沢からとにあり、尾根から一周することにする。尾根道はダケカンバのなかの岩の重なる急坂で、案外とハードであった。山頂はハイマツとシャクナゲの高原で、早池峰山が大きく広がる。双眼鏡で覗くと、河原ノ坊からの道に点々と登路表示が見える。山頂が雲間から見えたり隠れたり、今日も早池峰山には大勢の人が登っているはずだが、こちらの山は全く人影さえ無かった。下山は山小屋のほうにくだったが、こちらのほうがいくぶん道が良かった。

〈地形図〉2万5千＝早池峰山・高檜山

鯨山（610㍍）2等

釜石市の北にある鯨山は、八合目の無線中継所まで車で登れる。林道は砂利道であまり良くないが、ゆっくりと車を走らせる。上部のNTT専用道も開放されていて、アンテナ前の駐車場に到着する。ここから登山道がのびていて、簡単に山頂に到着した。

眼下には三陸海岸が広がっていた。石造の鯨山神社の前には、石の獅子頭がたくさん飾られていた。下山時、林道に地元ナンバーの車が見えたので、声をかけるとマツタケ採りですと、大きなマツタケを見せられた。さしあげられないがと、匂いだけを嗅がせてくれる。金にすると万を超す収穫量で、ちょっと食指が動いたが、素人では採れないだろう。

六角牛山登山口

真昼岳登山口

〈地形図〉2万5千＝大槌

六角牛山（1294㍍）2等

遠野物語で有名な遠野市の郊外にあり、「ろっこうし」とは特徴のある名である。早池峰山・石上山と共に遠野三山と呼ばれ、1等三角点の早池峰山と石上山はすでに登頂しているので、六角牛山に登ると三山を登ったことになる。今年は異常気象で台風が10回も上陸し、天候不良の日が多い。遠野でも3日間も停滞させられ、登頂した日も小雨模様だったが、もう待ち切れずに登った。

郊外の六角牛山神社から砂利の林道を3㌔ばかりで、登山口に到着する。道はよく整備され、広葉樹林のなかを登って行く。一合目ごとに表示が立ち、五合目くらいから本格的な登りとなる。八・九合目は岩混じりの急坂で、山頂が近づくと、小さな小屋からラジオの音が聞こえてきた。小屋には初老の男が1人酒を飲んでいて、奥の石囲いの中に神様がまつられていた。お参りで御神酒を捧げているとのことで、この神社は登って来た村の六角牛神社でなく、反対側の登り口にある六神石神社の奥宮とのことであった。

雨雲のため展望は得られなかった。下山時に、林のなかでたくさんのクリの実を拾う。親指の先くらいの小さいものなので、誰も拾わないのか多く落ちていて、2㌔ばかりも拾った。妻は登山よりクリ拾いのほうが楽しそうであった。

〈地形図〉2万5千＝遠野・陸中大橋

真昼岳（1060㍍）2等?

秋田県側から峰越林道を登る。奥羽山脈を横断する峠が登山口で、すでに標高は900㍍もある。後は展望の良い稜線の歩行で、一つのピークに登ると、山頂神社の影が見えた。このコースは簡単すぎて、少し物足りないかも知れない。山頂には、まだ木の香も新しい真昼岳三輪神社の社殿が建ち、10人くらいは休め、山小屋を兼ねている。

眼下に千畑町あたり、刈り取り寸前の田が黄金色に輝いていた。鳥海山は霞んでいるが、和賀岳・薬師岳が厳しい山肌を晒していた。それにしても、簡単に高山気分を味わえる楽しい縦走路である。

〈地形図〉2万5千＝真昼岳

まだいくつかの山々を目指したが、本当に今年は天候不良で、何日も雨に遮られた。

（平成16年秋）

新ハイ例会自然観察山行

蕎麦粒山・高塚山・京丸山

駿河

鷲見守康

2004年春、新ハイ例会山行で南アルプス深南部の沢口山から蕎麦粒山を縦走したときから、この縦走を京丸山塊へつなぎたいと思っていた。ルートとしては、高塚山から京丸山へ進むコースもあるが、京丸山はアプローチに苦労する山なので、下山した後も大変だろう。一方、高塚山から竜馬ヶ岳のコースは、竜馬ヶ岳・岩嶽山の山域がヤシオツツジの特別天然記念物地域に指定されており、ヤシオの開花時期に合わせれば楽しい山行になるに違いないと考えた。

両ルートともガイドブックによればやぶがひどく初心者には無理と紹介されているが、高塚から竜馬への取付は以前に見ているし、平成16年の春、岩嶽山から竜馬ヶ岳へと歩いたとき、ササやぶのなかに高塚方面に進むトレースも確認している。高塚から竜馬間以外は、しっかり整備され何の問題もない。「よし、行こう!」と計画した。

しかし、高塚から竜馬へのコースは思いのほか難しく、竜馬だと確信して登った山頂には、何と「京丸山」の山名札がぶら下がっていたのである。

予定の蕎麦粒山から高塚山・竜馬ヶ岳・岩嶽山までの縦走には、9～10時間を要すると思われた。林道歩きを含め久しぶりの日帰りロングコースなので、時間短縮のため歩行開始点を山犬段とし、国道から南赤石林道を走り、バスで直接山犬段に入ることとした。南赤石林道沿いにある山犬段には過去にマイカーで入ったことがあるが、山岳地帯を貫く林道は常に土砂崩れがあり、路面状態も悪い。バスで走ることなど無理だと考えていたところ、昨年、土砂崩れのための大がかりな改修工事が行われた。

三ツ合付近から樹間越しに望む高塚山

ちょうどその時期に沢口山から大札山縦走の例会山行を実施し、このことを知ったのだが、その後の「舗装も少しずつのばす予定です。現在、普通車でも大丈夫です」という役場の話から、長期間の工事により林道はかなり改善され、「バスで入るチャンスがきた」と考えた。

バスは、大札山中央登山口まで快適に走った。地道になっても杉川林道との分岐点まで無理なく進めたが、やがて法面があちこちで崩壊し、路面状態も次第に悪化してくる。運転手は明らかに緊張度を強め、車内にも張りつめた空気が流れだした。

やっとの思いで、5時過ぎ山犬段に到着。バスを停車させるや運転手は振り返り、「ここまで来るのはバスでは無理です!」と叫んだ。表情は引きつっていた。私は「ご苦労さんでした」と言うしかなかった。山犬段は気温も低く、風が吹き荒れていた。とりあえず、バス車内や避難小屋で朝食をとった。

6時過ぎ、強風のなか、山犬段を出発。蕎麦粒山まではひと登りだ。スズタケが幅広く刈り払われた道は、ツガやブナの大木が点在する。30分で山頂に到着。東から南方面の展望が良く、富士山の景観もすばらしい所だが、本日はかすかにしか見えない。

蕎麦粒山から縦走に入り、高塚山を目指す。道沿いにはバイカオウレンのほか花はほとんどなく、まるで冬枯れのような雰囲気だ。五樽沢のコルを経て三ツ合に近づく頃、南に竜馬ヶ岳が見え、西に高塚山が姿を現してきた。竜馬も高塚も奥深くに位置するため、その山容はこのあたりからしか望めないだろうと考え、カメラを向けた。三ツ合で小休止の後、南西に向きを変えた。相変わらず、開花している草木は何もないが、シロヤシオの見事な原生木が並ぶようになった。

8時半過ぎ高塚山に到着。順調なペースだ。やぶ漕ぎに入る前の大休止とする。私は氷水と濃縮カルピスを用意してきたのだが、きょうの気温では口にする気にはなれない。メンバーが寛いでいる間にルートを確認する。広い山頂から西に導く赤テープは京丸山だ。2等三角点の標石に朽ちた板がもたれかかり、京丸山へと表示している。南に黄色のテープが枝からぶら下がり、はっきりした踏み跡がある。「なめくじ山岳会」が設置した「杉川林道へ」という小さな板の案内もある。「これだ」と私は確信した。「竜馬ヶ岳」という案内はないものの、方角は妥当だし、一度沢までくだり、「なめくじ小屋」を経由するという情報も聞いている。

9時過ぎに高塚山を出発。ササのなかの踏み跡を南東にくだる。けれど、すぐ先行きに不安をもつ。かなりの急傾斜となるうえに、ササの斜面はけもの道なのか、あるいは登山者がルートを求めてさ迷ったのか、幾筋も踏み跡状にササが倒れている。数多い倒木がさらに様相を複雑にしている。岩石のゴロゴロした斜面に出ると、道はいっそう不鮮明となり、行く手をササが阻む。ササの薄い方向へと大きく西に振って進むが、すぐササやぶに突入してしまう。

私のすぐ後についてルートファインディングを手伝ってくれていた三井さんと仲谷さんから呼び声が上がる。先頭の私が隊列から離れてしまったようだった。道無きやぶ漕ぎとなり、19名という集団では、少なからず動きにくくなってきた。

さらに西に進んで、尾根の東側から西側に出るとササやぶのなかに一直線に下

降している踏み跡があった。直感的に「これだ」と私は思った。「なめくじ小屋」に導く道だろう。けれど、何の案内も無いから確信がもてない。前方には、疎林をのせた尾根が見える。竜馬へつながる尾根だ。立ち止まってパーティが追いつくのを待ち、三井さん、仲谷さんと話し合う。竜馬へつながる尾根を眼前にし、私たちには、眼前の尾根は高塚山頂からいったん京丸山方面に進み、そこから分岐するのだろうという考えが浮かんできた。

こうなると、このまま沢へ下降するのはかなり勇気が要る。この大集団では、ルートが見つけられなければそこから戻ればいい、というわけにはいかないのだ。いったん高塚へ撤退して出直そう、と三井さん。確かな道がわからない以上、やはり撤退すべきだろう。

撤退と決め、最初に仲谷さんが先頭に立った。ササの密生したやぶの急斜面を登るのはかなりの消耗戦である。しばらく進んで私が先頭に立つ。まもなく稜線上の踏み跡に出て、10時半、高塚山に戻った。1時間半ほどササの海をさ迷ったわけである。

再度の高塚山での休憩後、ともかく西の京丸山方面に進んでみることにする。「駄目なら、本当に撤退すればいいですよ」と、少々気落ちしている私をサブの狩野さんが慰めてくれる。休憩後、改めて出発。

赤テープを拾いながら広い尾根を京丸山方向に進むが、かなり薄いササやぶのなかでも、倒木などのためあちこちにルートがあるような情景である。間もなく、いくつかある赤テープを選択し、南に進路を振って竜馬ヶ岳のコースに入った(と思った)。「これで大丈夫だ」と自分自身に言い聞かせる。赤テープは要所要所に付けられ、たんたんと歩く。相変わらず、尾根には花がなかった。

この後、薄いササやぶを抜け、五つほどのピークを越えて行くのだが、その間、竜馬ヶ岳を目指しているものと頭から信じて疑わなかった。多分、パーティの誰もがそうだったのだろうと思う。鈴鹿の武藤さんも地図を眺めながら、途中のピークを高塚と竜馬の中間に位置する1314m(ピークだと信じた。けれど、瞬間とはいえ「アレ?」と心に疑問符が浮かぶようなことは実はいくつもあったのだ。第一、いかにも距離が長かった。また、2万5千の地形図を見ればわかることだが、高塚と竜馬の間に五つものピークはない。進行の方角も南ではなく、西に振っていたのは明らかだが、コンパスさえ見なかった「思い込み」が、心に浮かんだ疑問符をことごとく打ち消してしまったのだ。

竜馬ヶ岳(京丸山)直下の鞍部で、道は尾根の東側から西側へとカーブしていく。まさに竜馬ヶ岳への登りの様相で、武藤さんらに「もう竜馬ですよ」と声をかけた。それにしても、竜馬の北斜面は

蕎麦粒山・高塚山・京丸山付近略図

こんなにササやぶは薄くなかったはずなのに、という思いが頭をよぎる。登り切って、山頂に着く。

開放的な平坦地に地元の登山者2人が優雅に寝そべっていた。「アレ?」という疑問符がまたしても一瞬心に浮かんだ。以前と大分様子が違っている。もっと森厳とした空気が漂っていたのにと感じながら、とにかく到着したのだから「ヤレヤレ」という安堵感に満たされてザックを降ろす。

すると「京・丸・山と書いてある……」と武藤さんが呼ぶ。何を馬鹿なことを言っているのか、と心の中でつぶやきながら樹木にかけられた山名札を見た。何と、「京丸山」となっているではないか。慌てて「ここは京丸山ですか?」と地元の登山者2人に声をかけた。2人は質問に驚いた風情で身を起こし、きょとんとした表情で「京丸山ですよ」と答える。私はガクゼンとした。頭の中が真っ白になった。次々と到着するメンバーに先着の武藤さんらが事情を説明している。

京丸山の山頂

「なかなか来ることのできない京丸山だから、これでもよかったですよ」と狩野さんや三井さんらが慰めてくれたが、私は「遺難」したような心理状態に陥っていた。混乱した頭で、まず下山ルートを確認し、バスの迎えの手配をしなければ、と焦った。地元の登山者2人に下山ルートを尋ねる。「ぼくら、まだ高塚からのルートを歩いたことないんですけど、道はあるんですか?」と相手も質問してくる。精神的に余裕のあるときなら、得意然として教えるところかもしれないが「ありますよ」と質問を遮るように素気なく答え、下山ルートの件に話を戻した。

次は、バスの迎えの手配だ。「まず食事をしたら」とすすめられても、もはや食欲さえわかない。腰を降ろす余裕もなくそそくさとビールを飲み、握り飯を一つ口にした。

山犬段を出発する際万一を考え、運転手にはペンションと連絡をとってほしいと頼んでおいたことが幸いだった。ペンションに電話を入れると運転手はすでに到着し、昼寝していると言う。時刻を見計らい、私たちの下山口にバスを回送してくれるようオーナーに依頼。オーナーは、奥の林道ゲート前まではバスは入れないかも知れない、と言う。やむを得ず、石切集落で待機してもらうことにした。何時頃になるのか、と聞かれても私には所要時間が読めない。「新ハイキングでしょ? ガイドはいないんですか? 何かあったらあなたの責任ですよ」、思いがけない事態にオーナーも動揺しているのか、責めるような言葉が続いた。

30分ほどの昼食休憩後、下山を始めた。メンバーの中に京丸山を登ったことのある人もいることがわかり、少し気持ちが落ち着く。30分で裸地状の林道に出合い、間もなく、地道だが路面状態のいい広い林道となり、左に祠が見えて下降する道

を分けた。その下降する道を山頂にいた2人の登山者が降りていく。2人が教えてくれた、林道をショートカットするルートらしい。間違ったとはいえ、京丸山へ来てしまったのだから、多少遠廻りでも京丸の里にポツンと残された藤原本家を見ていこうと、そのまま林道を進み、さらに30分ほどで藤原本家に到着し、誰もいない庭で休んだ。

藤原本家から、長い長い林道が続いた。1時間20分ほどでゲートに出た。このゲートから石切集落までさらに10㌔もあるというのだ。誰もがぐったりしている。

実は、ゲートまで20分ほど前の所で、私たちはたった1人の頼りがいのある「救援隊」と出会っていた。ペンションのオーナーが心配して「派遣」してくれたのだ。元営林署で働いており、今も時々山を歩いているという純朴そうな人で、腰にはナタとノコギリをぶら下げていた。その「救援隊」がオートバイで走り、石切集落で待機するバスを誘導して来てもいいと言う。昨日の南赤石林道のことがあるので、運転手はまず尻込みするだろうが、路面状態などの道路状況をつぶさに「観察」したこの人なら、説得できるかもしれない。私たちの期待を背にオートバイは出発した。私たちには、まさに山中で出会った「月光仮面」であった。

運転手を説得できない場合も想定し、少しでも石切集落に近づこうと、私たちは疲れた足を引きずるように林道を歩いた。間もなくして、誰かが「バスの音がする！」と叫んだ。あまりに期待が大きいとそんな幻聴が聞こえることがあるし、第一、こんなに早く来るはずがない。が、音は次第に誰の耳にも届くようになった。明らかにエンジン音だった。

林道にバスが姿を現し、見る見る大きくなってきた。助手席にはあの「月光仮面」が乗っていた。

後日、高塚山から竜馬ヶ岳のルートを、インターネットで改めて調べてみた。ほとんど山行記録がないなかで、「なめくじ小屋～竜馬ヶ岳～高塚山～蕎麦粒山」と縦走した記録一件を見つけた。

その記録によれば、「南赤石林道から分岐する杉川林道よりなめくじ小屋に入って泊まり、翌日、なめくじ小屋からルートは見失うも主稜線に出てトレースを見つけ竜馬へ登頂、竜馬から稜線沿いに高塚を目指した。竜馬からの下りは、稜線を忠実に辿ると杉川側（東側）に入ってしまうため、経験者の忠告にしたがい、京丸川寄り（西側）にルートを取り直して稜線のトレースに乗った。高塚への登りになると背丈以上のササ藪に倒木が被いかぶさり、ササ藪の密度も高く、体力を消耗、やっと密藪の急登を過ぎると傾斜も緩くなったものの、いつの間にか京丸山への稜線に出ており、東側にルートをとって高塚に達した」とあった。

（平成17年4月23日歩く）

≪コースタイム≫

〈22日　晴れ〉（集合）岐阜駅23・00（バス）

〈23日　晴れ〉（バス）山犬段5・10～6・05—蕎麦粒山6・35～40—五樽沢コル7・15—三ツ合7・50—高塚山8・35（9・00に出発し高塚山に戻る）10・30—京丸山13・00（昼食）13・35—林道出合14・15—藤原本家14・50～15・00—林道ゲート16・20～45（バス）ペンション17・35（泊）

≪地形図≫

2万5千＝蕎麦粒山・高鄂・気田・門桁

少人数の山旅企画

山旅人（やまたびと）

最大でも22名まで限定募集の少人数企画。
限定7名・10名・12名の企画も多数あります。
どんなに少人数でも登山専門スタッフが2名～3名同行。
下記のコースはほんの一例です。
是非、パンフレットをご請求下さい。

これからのツアー登山　七旅人（なたび）

募集定員7名限定・スタッフは2名同行。
ひとクラス上の山旅。

航空機利用　鹿児島県　NO.189
世界遺産の島 屋久島へ
宮之浦岳から縄文杉縦走
上級　技術 2　体力 5
出発日 11/7(月)・11(金)・15(火)
期間 3泊4日
旅行代金 147,000円
7名限定　5名より催行
食事条件 朝3 昼1 夕3（無人小屋は自炊）
宿泊 ①②縄水服②新高塚小屋
❶伊丹空港(9.00予定)→鹿児島空港→屋久島空港→安房(泊)❷安房→淀川登山口…花之江河…宮之浦岳(1,935m)→新高塚小屋(泊)❸新高塚小屋→縄文杉…ウィルソン株…トロッコ道→荒川登山口→安房(泊)❹安房→島内観光→屋久島空港→鹿児島空港→伊丹空港(18:00予定)
九州最高峰の宮之浦岳からの荘厳らしい眺望と静かな夜の縄文杉は絶対登山者だけの特権。
コースデータ ①12km・8時間・標高差585m ②12km・8時間・標高差700m

梅田・大津発　長野県他　NO.167
立山連峰と富山湾絶景の深田を歩く
黒部峡谷 下の廊下
上級　技術 3　体力 4
出発日 10/15(土)
期間 2泊3日
旅行代金 98,000円
7名限定　5名より催行
食事条件 朝2 昼0 夕2
宿泊 ①ロッジくろよん②阿曽原温泉小屋
❶梅田(7:30)→大津(8:40)→扇沢<トロリーバス>黒部ダム→くろよん(泊)❷くろよん→内蔵助谷出合→十字峡→S字峡→阿曽原温泉(泊)❸阿曽原温泉→水平歩道→欅平<トロッコ>宇奈月→各地(21:00頃)
スリルある岩壁を歩き国谷峡を堪能。
コースデータ ①2km・40分 ②14km・9時間・標高差400m ③8km・5時間・標高差400m

梅田・大津発　岐阜県他　NO.152
飛騨高原の最高峰
能郷白山
初級　技術 2　体力 2
出発日 9/11(日)・25(日)・27(火)
期間 日帰り
旅行代金 13,800円
7名限定　5名より催行
食事条件 弁当付
梅田(7:00)→大津(8:10)→温見峠→能郷白山(1,617m)→<往路を戻る>…温見峠→各地(20:00頃)
ジャンボタクシーで温見峠まで入り、周遊ルートで能郷白山へ。
コースデータ 4.5km・4時間・標高差610m

秋のおすすめコース

フェリー利用　熊本県他　NO.202
阿蘇五岳登頂
中級　技術 2　体力 3
出発日 11/20(日)
期間 3泊4日
旅行代金 47,000円
22名限定　12名より催行
食事条件 朝1 昼0 夕1
宿泊 ①②船中泊②白水温泉
❶大阪南港フェリーターミナル(8:30)→<1等客室・船中泊>→❷→別府観光港→仙酒峡<ロープウェイ>大口里→中岳(1,506m)→高岳(1,592m)→阿蘇山西→登山口→烏帽子岳(1,337m)→登山口→登山口→新湯山(1,279m)→登山口→白水温泉(泊)❸白水温泉→上色見→俵子岳→草千里(1,408m)→草石峠下→(入湯)→別府観光港→<2等客室・船中泊>→❹→大阪南港フェリーターミナル(8:30)
阿蘇盆地にみえる阿蘇の王座に全山登頂。
コースデータ ①11km・6.5時間・標高差500m ②5km・4時間・標高差550m

南大阪・梅田・三宮発　岡山県　NO.206
関西から百名山「四国」へ直行
剣山・高丸山・御塩山・大山
初級　技術 1　体力 2
出発日 11/27(日)
期間 2泊3日
旅行代金 54,000円
22名限定　12名より催行
食事条件 朝2 昼0 夕2
宿泊 ①新見千屋温泉②鬼羽山
❶千代田(6:30)→富田林(6:50)→昼弁寺(7:20)→梅田(8:00)→三宮(8:45)→登山口→麓営合→剣山(962m)→登山口→新見千屋温泉(泊)❷新見千屋温泉→登山口→高丸山(980m)→登山口→高江峠→御塩山(920m)→登山口→鬼羽山(泊)❸鬼羽山→登山口→大山(343m)→麓営合→湯郷温泉(入湯)→各地(19:00頃)
剣山にある日本百名山と同名(1)の、剣山(けんざん)、高丸山、御塩山(みたけさん)、大山(おおやま)の四連べ。
コースデータ ①3km・3時間・標高差350m ②4km・2時間・標高差300m/3km・1.5時間・標高差320m ③1km・2時間・標高差340m

憧れの名峰へ
時間をかけてゆっくり楽しみたい。少人数でゆったりと山行がしたい…そんな方へお勧めの山旅人本紙には約200コース掲載。

登山ばかりでなく花や歴史、温泉を楽しむ山歩き等「初級・入門の山旅特集」では気軽に参加出来る山歩き、初級や入門コースを約50コース掲載。

パンフレットは無料でお送りします。
下記までご連絡下さい。

■旅行企画・実施
国土交通大臣登録旅行業1703号　旅行業ツアー登山協議会会員
株式会社チュ.オ.ツ.リスト
堺市田出井町1-1-100

■受託販売
兵庫県知事登録旅行業者代理業第138号
株式会社チュ.オ.ツ.リスト 山旅人
西宮市門戸正18-38　☎0798-56-1026

母なる慈愛の樹林を歩く

武尊山

上州

木村太郎

JR新大阪駅で青春18きっぷに押印を受け、東海道線で東京駅へ。山手線で上野駅へ廻り、高崎線・上越線と乗り継ぎ水上駅へ向かう。快速と普通電車しか乗れないので、早朝に大阪を出たが、水上到着は夕刻になった。目的地の上州武尊山の山麓、武尊橋バス停を少し登った青木沢ロッジに宿をとって登山に備えた。

台風17号が通り抜けたばかりで、当分天候は安定するという予報を聞いて来たのだが、夜半目覚めると雨がロッジの屋根を叩いていた。雨音で眠れない一夜を過ごし、翌朝、雨中の山歩き覚悟で身仕度を整える。雨を気の毒がったロッジのご主人は、登山口まで車で送ってくれた。

谷川岳はロープウェイが運んでくれる。赤城山は迫、遥の山で簡単に山頂に立てる。群馬県の山では武尊山だけが登りごたえのある山と、ご主人は車の中で熱っぽく話した。武尊山の日本武尊伝説にまつわる話も聞きたかったが、その間もなく登山口の武尊神社に着いた。

日本武尊の東征については、伊吹山や神坂峠など各地に伝承が残されている。武尊山の日本武尊伝説は、武尊山の名に伝えられているが、拠るべき文献には記されていない。武尊神社は貞観時代創建とされ、古社の雰囲気に満ちている。武尊神社の境内下に、日本武尊が水垢離をしたという裏見の滝がかかる。

武尊山山頂（沖武尊）

蓬莱滝の別名があり、裏側からの滝を見に来た車が駐車場に数台止まっているだけ。日本百名山にあげられているとはいえ、雨中を山歩きする物好きなどいない。この日、樹林の山めぐりを始めてから帰り着くまで誰ひとり出会わなかった。絹のような細い雨だが、終日降り続いた。

小さな沢を徒渉してすぐ、剣ヶ峰への道と分かれ、須原尾根に上がる支尾根に

取り付く。よく踏まれた道だが、一晩の雨でぬかるみはじめている。登るにつれて何本かのオオシラビソの倒木を見る。先日の台風で幹もろとも倒れたらしく痛ましい。自然の猛威を耐えぬいたブナの茂る山道を登る。

不動明王の木札が立つ大岩のそばをすり抜けて、急勾配になった坂道を登り切る。道標の傍らにブナの大木があり、藤原の里上ノ原からの登山道と合流する。『日本百名山』によれば、深田久弥は須原尾根をたどり、沖武尊と前武尊を越え、川場温泉にくだったという。山中の無人小屋に泊まるなど、夫人を同行しての山歩きは大変だったようである。

須原尾根道の梯子

山岳宗教の修験者の山には、岩場にクサリや鉄梯子を取り付け、行場がつくられている。昔から修験道として歩かれている武尊山は、深田久弥流に言うなら、登拝者に畏怖の念を起こさせるための道具立てが山に設けてある。静かな樹林の須原尾根道をたどり行くと、予備知識どおりに、急峻な岩場を登るための梯子とロープが現れた。

梯子をこなすと、次は屏風状の大岩が行く手を塞ぐ。おそらく巨大岩には霊が宿るとされ、修験者が行場にしたのだろう。ロープに手助けをたのみ、大岩を乗り越えたが足が滑りそうだった。胎内行場という木札の立つ湾状にえぐられた岩場には、太いクサリが垂らしてあった。手袋を脱ぎ素手でクサリをつかむが、それでも手が滑って握り返した。

再びハシゴが現れ、慎重に登り切った露台に大日如来の木札があった。難所をクリアできたのか、行者ころげの木札が立つ急坂道を過ぎるあたりから、頂上へ誘う歩きやすい尾根道に変わる。森林限界を超えたハイマツとシャクナゲの山道は、オオシラビソの原生林の傘から外れたので、小雨とはいえ雨滴がまともに全身を水浸しにする。

たどりついた上州武尊山の最高峰、沖武尊（2158m）は奥武尊が転化したものという。沖武尊頂上は、谷川連峰や日光の山々が見渡せるはずなのに、雨に

加えて濃霧に包まれ視界ゼロである。まるで大海原の神合に浮く小島からの眺めのように、まわりは灰色の世界で、沖武尊近くの友峰の影すら見えない。

小さな瓦礫を敷きつめた沖武尊頂上に、その小石を重ねたケルンが立つ。そばに1等三角点がそれなりの重量感で埋まる。脇に御嶽山大神と彫られた石碑があり、信仰の山である証を示している。深田久弥の文では、前武尊には日本武尊の銅像、川場剣ヶ峰には普寛行者が祭祀されていたという。

日本武尊伝説の信憑性には疑いがあろうとも、武尊山開山が普寛行者の手でなされたのは事実のようだ。木曾御嶽山の王滝口登山道を開いた普寛行者は、御嶽信仰の普及をはかり関東一円で講社の結集につとめた。享和時代に武州本荘駅で遷化する時に、「なきがらはいずくの里に埋むとも心御嶽に有明の月」の辞世を残している。

普寛行者により種がまかれた御嶽信仰の武尊山は、幾時代を過ぎた今でも修験道の山として崇められている。山を尊しとする気持ちは、現代の登山者にも受け継がれている。尊ばれる山へ足を向けたいのは、私1人ではないであろう。山名方位盤のかたわらに坐り、ロッジの握り飯をほおばる。温みが残っていて、添えられた山菜もおいしかった。

沖武尊のすぐ東肩に三叉路の道標が立つ。中ノ岳からセビオス岳をくだれば片品温泉への道。家ノ串から前武尊をくだれば川場温泉への道である。明日は谷川岳を登るので、水上温泉を今夜の宿にすべく武尊高原キャンプ場への道標にしたがう。途中剣ヶ峰から朝の登山口に出て、水上駅行きのバスが通る武尊橋まで歩くつもりである。

頂上直下は前のめりになりそうな急坂で、まわりは美しいササのスロープである。背丈を超えるハイマツの道になり、いくつかのコブを乗り越えて行く。急下降するやせ尾根に付けられた山道は細く、濡れたササが体にこすり合羽はずぶ濡れになる。山腹を左手に捲きだすと、別名西武尊の剣ヶ峰へはわずか100㍍のT字路に出る。

ひと息ついて見上げれば、剣ヶ峰への道はかなりの急坂である。登っても何も見えないと自分自身を納得させ、長い武尊神社への道標をくだる。荒れた急坂道で安定して歩けない。露出した木の根で足が滑り、バランスを失い尻餅をついて合羽が泥だらけになる。岩稜とクサリ場が続く川場尾根への道を選んでいたら大変なことだったろう。

急坂がゆるむと湿原のような水溜まりが随所に出てくる。いくつかの大小の沢を徒渉し、ゴアテックスの山靴なのに水が染み込んでくる。樹林帯なので雨脚がやわらいだことが救いである。半日近くを山に浸り、樹林に抱かれていれば、人恋しくなるときもある。雨を防いでくれる瑞々しい樹林の、細やかな労りに友情を感じることもある。

雨を抱き込むだけではなく、樹林は真夏の灼熱をさえぎり、放出するフィトンチッドでまわりを清浄にもする。森に生息する鳥獣や昆虫らの糧になり、木の実や草花を育てる雨水も蓄える。修験道の山で父に似た剛毅な武尊山に、私はあこがれてきた。だがこの日は、母なる慈愛の樹林と共生する武尊山に変身していたのである。

群馬生まれの近代詩人、萩原朔太郎の詩が浮かぶ。私の「さびしい人格」を樹林が包んでくれている。朔太郎になり、「わが見知らぬ友よ早くきたれ」と呼びかければ、雨にざわざわと樹林は鼓動していた。朝渡った最初の沢の徒渉地に帰り着いて、泥だらけの山靴を洗う。感謝をこめつつ、補助足になってくれたストックの泥も落とした。

父なる武尊山をくだり終えた。母なる樹林の庇護がなくなり、林道に出ると雨脚が強まった。裏見の滝に寄り道をする余裕もなく、武尊神社から武尊橋までの長い車道歩きにかかる。途中で土砂降りになり、宝台樹キャンプ場の屋根のある共同炊事場で雨宿りをした。名もない山の虫けらが、樹林の木陰で雨露をしのいでいる風情であった。

ああいつかも、私は高い山の上
へ登つて行つた、けはしい坂路
をあふぎながら、虫けらのやう
にあこがれて登つて行つた、山
の絶頂に立つたとき、虫けらは
さびしい涙をながした。

（「さびしい人格」より）

萩原朔太郎の詩集「月に吠える」に書かれている虫けらの気持ちになって、私は武尊山に登った。雨と霧の武尊山では何も見えなかったが、私には美しい武尊山の映像があった。「自然はどこでも私を苦しくする」と朔太郎は告白している。「ぼんやりした心で空を見てゐるのが好きだ」と書いた朔太郎は、本当はその孤独の魂を、故郷の自然から癒されていたとみるべきであろう。

あくる日、大きな荷物を背負った谷川岳肩ノ小屋の若いご主人と連れになり、天神平から天神尾根を登った。

快晴の谷川岳のトマの耳から見つめ直した武尊山は、逞しい男性的な山容を誇っていた。きのうとは様変わりした青空の下、きのうの苦闘を知らない顔で武尊山が微笑んでいた。

（平成16年9月2日歩く）

《コースタイム》

武尊神社（40分）須原尾根分岐（50分）須原尾根合流（1時間）沖武尊（1時間10分）剣ヶ峰直下T字路（1時間30分）須原尾根分岐（40分）武尊神社（1時間20分）武尊橋バス停

《地形図》

2万5千＝鎌田・藤原湖
昭文社＝「谷川岳・苗場山・武尊山」

新製品紹介
◆ウォーキングライト◆
オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追及した日帰りから一泊用のノンフレームのMIDIザックです。
☆26ℓ☆
・カラー　ブルー×ネイビー・レッド×ネイビー
ワイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
・重量　820g
・素材　ナイロンU・リップ
・価格　¥10,500
イモック山遊行くらぶ
屋久島を歩く
11月20～24日
宮之浦岳～永田岳縦走
白谷雲水峡
詳細はお問合せ下さい。
イモックと
呼んで下さい
OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBE
〒653-0039 神戸市長田区日吉町3丁目1番30号
カナゾノビル2F
TEL (078) 621－5851
FAX (078) 621－3528
営業時間／13:00～20:00　毎日曜日不定休

標高による山の紹介シリーズ 24

松田敏男

新ハイ関西84号

標高△△84mの山

月山（1984メートル 東北）
七曜岳（1584メートル 大峰山脈）
前小河内岳（2784メートル 南アルプス）
飯降山（884メートル 越前）

月山

月山では、下山道に選んだ湯殿山道がよかった。姥ヶ岳の緑色の大きな山体を視界いっぱいに眺める位置に建つ装束場の避難小屋に泊まったことで、たいそう印象深い山となった。

山頂からその小屋までの間にはニッコウキスゲの群落がいくつもあり、特に清々しい沢の流れ沿いの群落は美しい風情があった。

当初は山頂から念仏ヶ原への道を予定していたが、視界が悪すぎたので簡単かつ安心の湯殿山道に変更した。仏生池小屋や月山神社の方々の驕りの態度に強い不快感を抱いた後だったにもかかわらず、変更した道中はそんな気持ちを帳消しにしてあまりある美しい所だった。

（平成10年8月1日～2日歩く）

⋀コースタイム⋁

月山八合目（5時間）月山経由、装束場避難小屋（1時間15分）湯殿山神社

⋀地図⋁昭文社＝「朝日・出羽三山」

七曜岳

大峰山脈の北半分の主だった山のなかで、尖峰の行者還岳が未登だったので、これに登ることとその南北の主稜線を初めて歩くことを目的にして、また歩き出しの洞川からレンゲ坂谷道を登ることを付録の目的にといった感じで、1人でバスに乗って洞川に入った。

目的にしていた所が予想通りとか、それを上回る良さが発見できると満足するものだが、まずレンゲ坂谷は静かで良かった。新緑の緑陰が爽やかで日差しの強い初夏だったが、谷沿いで涼しかった。

テント場の小笹の宿の緑はとても美しく、水が豊富に流れていて極上のテント場だった（後に小笹の宿避難小屋では恐しいことが起きると何かで読んで、今後は1人では泊まらないと思ってしまったが）。

翌日、大普賢岳に近づくにつれ満開のシャクナゲの群生が出迎えてくれて、充実感いっぱいで大普賢岳の山頂に着いた。その先が初めて歩く道なので期待感が高まり、今回の山行のハイライトといった場所だった。

胸のすく高度感いっぱいの七曜岳の山頂でそれまでの鼓動が最高潮に達した。稲村岳とバリコヤ谷の頭の峨峨とした連嶺、大普賢岳の東方へ落ちるゴツゴツとした山稜、弥山と八経ヶ岳のおおらかで優美な稜線など、実に見応えのある山頂だった。その前後にはクサリ場などのちょっとした難所もあって、岩場と暗い樹林との佇まいがいかにも修験の山といった趣があり、その雰囲気から抜け出た七曜岳の明るい頂きとの対比が実に鮮やかで魅力的だった。

（平成14年5月25日～26日歩く）

⋀コースタイム⋁

洞川（5時間30分）小笹の宿（4時間）七曜岳（5時間30分）行者還岳経由川合

⋀地図⋁昭文社＝「大峰山脈」

大普賢岳（七曜岳より）

七曜岳付近略図

前小河内岳

ずいぶん前の話だが、南アルプスの高山裏小屋を出て三伏峠へ行く途中の登山道にオコジョが死んでいた。少し口から血を吐いた形跡があった。私は恐る恐るその屍を持ち上げて、登山道の脇の木陰の草むらに横たえた。その日は夏の太陽が真上からじりじり地球をあぶっているような暑さだった。

それから1時間余り後だったと思う。前小河内岳に登り着いてひと息入れようと山頂の小さな広場に坐って休憩している時、背後から一匹のオコジョが私に向かって忙しく鳴き出したのが聞こえた。チッチ、チッチと私に声をかけているように思えてならなかった。

（昭和61年8月9日歩く）

⋀コースタイム⋁

高山裏小屋（5時間）前小河内岳（1時間30分）三伏峠

⋀地図⋁昭文社＝「塩見・赤石・聖岳」

飯降山

銀杏峰へ登る予定で山の会の4人で宝慶寺側から入ったが、積雪が多くて装備不十分のため途中で撤退した。それでどうしようかと4人で相談し、道路地図だけでも見当をつけて登れそうな大野市の西山の飯降山にした。

コンパクトなかにも自然がよく残っていて、最後の黄葉見物ができ、予想外の充実山行だった。

（平成10年11月23日歩く）

⋀コースタイム⋁

大野市飯降（3時間）飯降山（2時間）飯降

⋀地形図⋁2万5千＝越前大野

秋の花巡り

伊吹・弥高山（やたかやま）

田中　明

湖北

平成15年の秋、伊吹町（現在は米原市）が、伊吹山五合目から東南にのびる弥高尾根に向けて登山道を切り開く工事をしているのに行き合った。

いつか歩いてみようと昨年の初夏（6月29日）に友を誘ってルートファインディングを楽しんだ。その時の自然林が続く尾根のすばらしさを知ってもらいたいと、秋（10月16日）に新ハイ例会に組んでこのコースを歩いた。

私にとっては四度目になる弥高山で、三宮神社からの花歩きが楽しい。薄暗い照葉樹林帯の歩きにくい登山道沿いには、イナカギク・コメナモミ・ノブキなどが咲いている。ひと汗かくと、ハンググライダーの教室がゲレンデで繰り広げられているのに出合う。一合目のスロープが広がっている。

ホソバアキノノゲシ・ナンテンハギ・ナギナタコウジュ・センダングサ・メナモミ・ヒキオコシ・ヤマハッカなどが咲き誇り、草原に一歩足を踏み入れると、メハジキ・ツリガネニンジン・コウゾリナ・カワラナデシコなどもまだきれいに咲いている。草むら一面に白く見えるのはウシハコベだろうか。目立たないが、ハイメドハギ・オオニシキソウ・ヤハズソウまで雑草のなかに見つけられる。花観察では、他の山歩きの人達にどんどん先を越されてしまうがやむを得ない。

ヤマラッキョウ

天候もよくなって鈴鹿の山々、特に霊仙山が手の届くように指呼の間で、西には琵琶湖の湖面が真っ青に広がっている。まるで絵に描いたようである。

花に展望に楽しみながら、五合目までで唯一樹林帯が続く二合目あたりには、マユミの果実がまだ青く、ヘクソカズラが黄土色の実を見せてあちこちにツルを這わせている。ここにはアケビの実が見

ハクサンフウロ

伊吹・弥高山付近略図

られるはずと探してみるが、無残にも枝がへし折られて実は採られた後である。植物観察を楽しみにやって来る人たちを欺くとは許せない行為で、悲しい限りである。

ほかにも多くある。ノイバラ・ヌルデ・コクサギ・イボタノキ・イヌザンショウ・ツルウメモドキの果実を見る。

道沿いにはメヤブマオ・アカソ・メナモミが見られ、紫色の花をつけるナギナタコウジュ・ヤマハッカなどの山野草があちこちに咲いている。

三合目あたりまで上がってくると、ピンクのハクサンフウロが咲いている。刈り込まれたササ原には赤紫色のひょうきんな姿のヤマラッキョウと、鮮やかな紫色のリンドウが共に大群生で広がっている。

この景色には、みんな唖然としたようにカメラタイムである。

草原に這いつくばっての写真撮影は異様な雰囲気で、これだけ人が多いともういいやと誰かの声がするが、満面の笑顔が並んでいる。

紫色の花ならほかにもあった。ナンテンハギというマメ科のクサフジに似た野草であるが、この一帯のどこにでも咲いている。

次々とカメラタイムが続くため、何とかメンバーを押し上げるのに苦労する。そんなことから、今日は三合目の花の散歩道に寄ることは難しい。惜しいなあとの声に非情にも先を目指すことにした。

足元には真っ白な無垢（むく）で清楚なリュウノウギクが群生し、ノコンギク・イナカギクもこの時季なら伊吹ではどこにでも見られる。

センニンソウの赤い実に白いヒゲがのびている横には、これまたボタンヅルの黄色の実にも白いヒゲがのび放題だ。なぜか並んでいるのが方々に見られ、相違点などの観察にはまことに好都合である。日当たりのよい斜面にはヤクシソウが黄色くたくさん並んでいる。

三合目の広いお花畑を楽しんだ後には、ややきつい登りが待っている。このあた

メハジキ

りからは樹木の種類が多く楽しめる。
いろいろ観察してみよう。ガマズミ・マユミが赤く色づいた果実を見せ、アオツヅラフジは黒くなっている。白い粉をつけるのはもう少し時間がかかるのだろう。
他の木にからんでいるのはツルウメモドキだ。この果実もおもしろい姿が見られる。黄色い薄皮がはぜると、中の赤い実が見えて何とも可愛い。聞けば、その姿から茶人が床の間の花としてよくつかうらしい。
まだまだある。春から初夏にはあたりをいい香で迎えてくれるコクサギにも、おもしろい姿の緑色から薄黄色になりかけている実が見られた。
ミツバウツギの果実もおもしろい、ハートのような姿でぶら下がっているといえばわかってもらえるだろうか。
カンボク・クマヤナギはややマイナーな樹木で説明し難いが、ヘクソカズラはその可哀相な名前からよく知られた黄色い実でどこにでも目につく。これから先どんどん色づいていくだろう。
急かせたメンバーがようやく五合目の小屋前のベンチに到着した。見上げる伊吹山の頭は一面のガスがとれず、七合目あたりより下しか見ることができない。残念だなぁ……頂上も見たかった。との声もどこかさびしそうだ。仕方ない。お昼にしよう。
やがて、誰ともなくさあ行こうとの声で立ち上がり、小屋裏のススキの生い茂る入るもままならない道をかき分けて進むこととなった。
するとすぐにあっ、あのサッカーボールみたいなのは何？　との声に振り向くと、キノコ類のオニフスベだ。これは食べられるがおいしくないらしい。
出だしからびっくり仰天であったが、道らしくない細い道を進むと、日当たりのよい足元にオッタチカタバミ・コナスビが黄花をきらきら輝かせて咲いており、ヨウシュヤマゴボウは終わりを向かえているのがあちこちに見られた。
次なる花は時忘れだろうか。10月のこの時期にタチツボスミレが何株も見られ、タツナミソウ属のミヤマナミキやシソ科のニシキゴロモも時を間違えた花たちだ。
あたりにはサンショウ・ガマズミも見ることができ、たしかこのあたりにはイボタノキもあったはずだと探しながらの山歩きも実に楽しい。
このコースのいいところは、植林地帯の無いことだろう。自然林がいろいろあり、なかでもマルバマンサク・リョウブ・アカシデ・クマシデ・サワシバなど、ウツギ・カマツカ・アズキナシ・シナノキなど種類も豊富である。鹿の足跡を道案内にして山道を行くとはこのことだろうなどと話しながら進むと、小広い休憩ポイントがある。
ここで、下りの谷筋歩きでヤマビルの洗礼を受けないよう、各自用意した塩やスプレーで万全の対策を講ずる。これで今日のヒル被害には大丈夫だろうと立ち上がった。
881㍍ピークを捲いた後の平らな所

からは、普段見ることのない頂上の測候所が見えるのに、またいつもとは違う伊吹の山城に踏み込んだのに、今日は残念だなぁと、一瞬感慨めいた気分になった。このあたりはやや道が不明瞭なので、単独行は注意したい所である。
道々には、リュウノウギク・イナカギク・ヒメシオン・ヒヨドリバナ・ヤマハッカなどが咲いている。やがて、この尾根で一番の標高ではないが、838・7㍍の弥高山に到着。
最初に歩いた6月には、このピークと三角点探しにやっさもっさしたのが、ついこの前のように思い出される。短いササ原のなかに12㌢四方の4等三角点は、シロモジとウリカエデの若い3㍍くらいの樹木の中間に約10㌢ほどの頭をひっそりと覗かせていたが、我先にとタッチして挨拶する。
三角点に触るいつもの気分とはなぜか違う。ほとんど触られた様子もなく、見た目にも石肌がごつごつしている感じを受けたのは私ひとりではないだろう。一同、弥高山はここかとの安堵のため息らしきものが漏れて休憩となった。
気持ちもおさまった頃、誰かの「この花は何ですか」との声で、ムラサキが咲いているのを見つけた。根が紫の染料として使われ、今日では絶滅寸前の植物種となっている。
この後のコースは上平寺尾根ではなく、弥高尾根コースを進む。指導標に従いよく踏まれた登山道をくだると、大堀切という真新しい案内が出て、その部分だけが盛り土で高く積み上げられている。
どうやら、戦国の世に城が攻められるのをこの土手でワンクッションおく戦法の道具として用いられた跡であろう。弥高寺があった頃は百ヶ寺近い多くの寺で栄え、東西68㍍南北59㍍の広さを誇ったという。500年前には弥高寺本坊が建ち、後には刈安尾城と呼ばれる城郭に変貌した。「兵(つわもの)どもが夢の跡」で、古文書も残っているようだ。
ここの標高は高原ホテルの立つ伊吹三合目とほぼ同じ714㍍であるが、その頃はこれだけの標高でも生活に支障をきたす寒さではなかったようだ。
下りばかりの道でいとも簡単に先へ進み、たしかこのあたりにエビガライチゴが咲いていたと探せば、毛蟹(けがに)のような赤茶の実らしきものが多数見られた。
近くの水場には、小さめのツリフネソウがたくさん咲いていた。
ヒルが出るのではと心配した谷筋を最後に通過したが、好天で誰ひとり被害に遭うことはなかった。
平野神社の鳥居横に着くと、川沿いにイブキソバの花が咲いている。花に見惚れながら後を振り返ると、ガスのとれない伊吹山が、まるで泣いているような姿で我々を見送ってくれていた。

（平成16年10月16日歩く）

《参考タイム》
上野三宮神社9・00—一合目10・00—三合目11・20—五合目12・05（昼食）12・35—広場13・20〜30—弥高山14・00〜25—平野神社15・25—ジョイ伊吹15・50（バスがすぐに来たので薬草風呂に入らず、車中解散）
《地形図》2万5千＝関ヶ原

ハードな山行

御池岳周遊

長谷川　雅　俊

鈴鹿

この時期なら残雪も少なくやぶ漕ぎも楽だろうと、4月末、御池岳を一周するハードな山行をした。

コグルミ谷出合を4時21分出発。しばらくして薄明りになってきたのでヘッドランプを消す。多少なりとも周囲が見えるのならライトを灯けないほうが全体を見渡たせるので安全だし、鹿や猪に出会える楽しみも倍増する。

長命水で清水を一杯飲み、近藤岩の手前でヒトリシズカを写真に撮る。近藤岩とはコグルミ谷から尾根道へのトラバースポイントにある大岩のことだが、名前の由来は、御池仙人氏が「僕が死んだらこの大岩をお墓としてお参りして欲しい」と言われ、小生がかってに近藤岩と命名しただけなのである。去年の大雨の土石流で大岩の基部が一部欠けてしまったので、仙人氏が入滅されるまでもつのかどうかいささか心配である。

カタクリがちらほら咲いている尾根道を登り、天ヶ平に6時1分着。ツメタミズを過ぎ道池から真の池に至り、南池、サワグルミの池、ウリハダカエデの池と足早に過ぎ、丸池に7時14分着。朝食のオニギリを一個食べてすぐに出発、西側急斜面を降りる。落石に気をつけながら歩きやすい所を230度の方角へ降りると、尾根が現れたのでそれにのる。

この尾根はゴロ谷第一左俣谷右岸尾根で、通称ゴロ一と呼ばれているらしい。890㍍付近にかなり立派な窯跡がある。こんな所にも人が入って炭焼きをしていたのかと驚く。これで下まで降りられるという安心感が得られ、ホッとする。

予定では、前回同様途中から306度の方角へ向かい、冠谷、冠大滝、アザミ谷、ゴロ谷へと行くはずだったが、つい弱気虫が騒ぎ出し、時間短縮で、直接ゴロ谷に降りてしまった（ああ、これではずかしい山行になってしまった）。

8時38分出発、しばらく行くとゴロ谷もかなり荒れているように感じた。去年の6月に来た時にはこんなにひどくはなかった。690㍍と720㍍で鹿（カモシカ?）の死体がある。冬を越せなかったのだろうと合掌する。

足元に気をつけながら進むと、9時39分に廊下に突き当たり左へ曲がる。ショウジョウバカマやイワウチワがたくさん咲いていたので写真を撮る。ツルツルの濡れた岩場を何とか登り切ると、目の前にゴロ谷大滝が見えたが、小生にはとても直登する技術はない。右手のT字尾根へ抜ける急斜面を木につかまりながらよじ登り尾根芯にのる。

ゴロ谷大滝手前の廊下

いつも単独行なので気をつけていることは、こういう急斜面の登下降やトラバースでは最悪の場合を想定し、落ちても絶対に大丈夫な所を選ばなくてはならない。ここで落ちたらヤバイかな？　と思う所は絶対に通らないことが単独山行の基本だと思う。

10時16分に大滝上の沢に降り、60度へ歩き出す。このままっすぐ進めばボタン岩の下に出るが、それでは何となく能が無いので左斜めにトラバースして登り、970㍍地点から水平にトラバースしてゴロ谷第四尾根に12時15分到着。

途中、ヒトリシズカ・ニリンソウ・ヤマルリソウ等がたくさん咲いていたので、写真を撮りながらののんびり山行。直登するのはシンドイのでさらに斜めにトラバース。

1035㍍付近でまだツノのある鹿と出会う。先々週もツノありの鹿を見かけたが、抜け落ちる時期は個体によってかなり差があるのだろうか？　そういえば去年は通行手形（ツノ）を11本も授かったが、今年はまだゼロ……

13時40分に風池西のテーブルランドに到着、とりあえずここまで来ればホッとする。チンタラと適当に歩いて中池から北池に寄ると、池の真ん中でカエルが大声を出して交尾の真っ最中……　うらやましそうに指をくわえて眺めた後、瞑想尾根から県境稜線へ抜け、天ヶ平に15時19分と、ここまでは小生にしてはわりと順調だったが、最後に大失敗をしてしまった。

尾根下降は支尾根に入り込む危険があるので気をつけねばならないが（これで連続四回目）、つい横着をしてコンパスをチェックするのを忘れてしまった。

いつも右へ振られるので今日はと気をつけていたら左へ寄りすぎてしまい、急な斜面を滑り降りた所は何とコグルミ谷第一左俣谷だった。

う～ん、こんなアホな私ですが、何とか無事に下山できました。良かった！

（平成17年4月29日歩く）

▲参考タイム▼

コグルミ谷出合4・21—長命水5・01—天ヶ平6・01—真の池7・01—丸池7・14—ゴロ谷8・38—ゴロ谷大滝9・46—ゴロ谷第四尾根12・15—テーブルランド13・40—北池14・14—天ヶ平15・19—コグルミ谷出合16・20

▲地形図▼2万5千＝篠立・竜ヶ岳

リトル比良の古道を追って

富坂口から南山林道を経て鳥越峰

比良

小山誠次

今回はリトル比良の古道をたどるのを第一目標として登山計画を立案した。

実は去る10月17日、大炊神社から岳観音堂跡、岳山を経てリトル比良の山道をたどっていたところ、鳥越の最も標高の低い場所で、右に分岐する古道に気がついた。おそらく鴨川方面への下山路になりうるであろうと判断したので、予定を変更してその古道をたどった。

最初はそれほど道も崩壊していなかったが、だんだんと怪しくなり、ついに完全な崩壊箇所に達した。どこに進むべきか、ルートファインディングを楽しんだ。予測した通りに再び古道が見つかれば幸いで、ウラジロが密生した古道をたどったり、倒木で視界が全く遮断された所に道が続いていたり、しばらく行けば、また崩壊箇所に遭遇する。何度かルートファインディングを要する箇所を経て、道なりにかなり下山したと思う頃、小さな谷川に出合った。後は谷川に沿う道が続いているので、これをたどると何回か渡り返した後、林道に飛び出した。この地点で標高350㍍である。この林道は道端の看板によれば、南山林道と命名されている。林道はそのままバス路線まで続いていて、富坂口バス停近くに降りて来た。早く下山しすぎたので、バスを待つ間に昼食タイムとしたくらいである。

以上のような経緯のなかで、その古道を下山途中、もう一本の山道が合流しているように思えた箇所があった。それを逆にたどってリトル比良に登頂してみたいと考えたので、11月3日、いよいよ実行する日がやってきた。

平成16年11月3日、滋賀県の降水確率は南部10％／30％、北部30％／50％なので、可及的早期にリトル比良に登頂し、下山ルートは、空模様を見ながら考える

（写真1）鳥越峰（左）とピーク693

ことにした。

8時14分京都駅発の湖西レジャー号に乗車した。電車から眺める比良山系は、山頂あたりは一面茶色に染まり、凝視すれば紅色が点在している。中腹より麓は針葉樹による濃緑色なのであろう。しかし、天気予報に反して、山頂はきれいに見渡せる。これはラッキー！

近江高島駅に到着、9時発の畑行きの江若バスに乗車した。車内は登山客がいっぱい、1分遅れで富坂口に到着。ナイフ・ストック・タオルと手袋の準備を整えて、9時20分に勇んで出発した。

バス停から百数十㍍戻り、バス路線上で砂馳川を渡った所に、右手に南山と書かれた木柱が倒れている。ここが林道の始点である。

林道に廃棄自動車が三台放置されている民家近くを離れ、右手下方には砂馳川に流れる鉢ノ木谷が続いている。路傍のススキが道を半分おおうなか、今の時間帯は進行方向に太陽が昇ってくるので眩しい。しかし、太陽が雲の陰に入ったとき、正面に鳥越峰とピーク693を双耳峰のような形で遠望できた（写真1）。

出発から30分後、鉢ノ木尾の下端部と出合い、続いて砂馳川を渡った。これからはカーブが多くなるが、場所によっては鉢ノ木尾がよく見渡せる。それから15分後に取付点に到着した。しかし、実はこの林道がどこに通じているのか少々気がかりなので、そのまま林道をたどることとした。

南山林道は益々高度を上げ、カーブも強くなるが、4分後林道は断崖になって終点となる。いったい何のための林道なのかと考えてしまう。元の取付点まで往復8分間の寄り道であった。

さて、取付点からは10月17日にたどった谷川沿いの道を逆向きに歩くが、やはり人の踏み入らない道の登りと下りでは様子が異なり、前回素通りできた箇所でも迷いそうになってしまう。やっと何回か渡り返した後、左手の山道を登高することになった。このコースは紅葉をほとんど目にすることがなく、黄葉のみの灌木帯で、針葉樹は取付点付近に多かった。その点、針ノ木尾のほうが紅あり黄あり緑ありで、変化に富んでいる。

取付点から35分後、ようやく10月17日に通過した石垣の残っている場所に到達した。この石垣は炭焼き窯の跡であろう。ここで標高520㍍である。小休止と共にこれからの方向を検討した。しかし、後で考えれば、ここで目にした石垣はとうてい10月17日に通過したものではなかった。なぜなら、鳥越の最も低い場所で標高530㍍であり、10月17日の下山開始時刻からすれば、誤差を考慮しても20～30㍍しかくだっていないはずはなかったからである。恐らく全く別の箇所を誤認

リトル比良・鳥越峰付近略図

したのであろう。

しかしながら、その時はまだそれに気づかず、石垣の場所からたどるべき山道も少し先は全く不明瞭なので、山道の通例として目前の高所を目指してジグザグ歩行を開始した。

この山域は広葉樹林帯だが、比良山系の他所で見るような太い幹のブナ科樹木は全く見当たらない。昔の炭焼きのときに伐採されてしまったのであろうか。

ようやく稜線上にたどり着き、標高590㍍で鉢ノ木尾がよく見渡せる場所に達した。そして、そこには先ほど見失った古道がしっかりと稜線上に続いている。結局、途中は不明瞭だった古道に再び巡り合った。標高590㍍ということは、標高上はすでに鳥越を超していることになる。しかし、間もなく古道は三度完全に崩壊していて全くたどることはできなくなったが、もうあえてたどらなくとも、目前の最も高い山頂の尾根筋にのったように思えたので、一歩ずつやぶ漕ぎして進んだ。

すると突然、進行方向左手より複数の若い女性の笑い声が聞こえてきた。先ほどの石垣を出発してから45分経っている。しかと凝視すると、木々の枝葉の隙間から大きな岩の上に2、3人が腹這いになっている姿を見た。すぐにオーム岩だとわかった。

そこで、現在地点を知ろうとコンパスを出して測ると、磁北線の東66度である。筆者は単独行のときは常に地図に磁北線を引いて持参しているので、こういうときは便利である。さらに、高度計でも目測でも、オーム岩とは高度的にほとんど差異がないので、鳥越峠の支尾根上の標高650㍍付近にいることがわかった。実際上は、高度が既知で目標物と略同高であれば、現在地同定は一箇所の目標物との方位測定だけで十分である。結局、リトル比良の最も標高の高い山を直登していることになる。改めて若い女性の声はよく響くものだと感心した。

後は50㍍ほどの登高が残されているだけで、11時59分、リトル比良の登山道に無事出合った。出発直後、南山林道から双耳峰を遠望したが、本日たどった古道は、おそらく本来は鳥越峠かあるいはピーク693との鞍部に達しているのではないか、と考えるのが自然だった。

到達地点の傍らには、逆さイカ型のような、またケヤキのような、ちょっとおもしろい形をしたブナの大木があったので、写真に収めた（写真2）。その後、鳥越峠の分岐点に向かい、さらに見張山方面に進んでちょっとした場所を見つけ、昼食タイムとする。登頂地点は分岐点から歩いて1分の距離だった。

本日はここから見張山経由で近江高島駅に向かうことにした。関西電力マイクロウェーブ反射板の所の展望所からは、今夏真っ盛りのときに登高した旧高島町・志賀町町界尾根が、滝山から続く平坦な尾根に重なってよく眺望できる。前者は右肩上がりなのに、後者はその後方で平坦である。

この道は岳山経由の道よりも歩きやすく、また名所の表示が大変親切である。まず、上の鼻打、鉄砲岩、寒風、こうだ谷、ろくわ石と続いて見張山に到る。

こうだ谷は、山道の左右に支谷源頭の草付きがU字型で広がり、大変気持ちのいい桃源郷然とした風景が続いている。気分的には誘われるまま降りて行きたくなるが、しばらく行けば、必ず狭くてやや急な支谷の水流に出合って難儀することは目に見えている。

（写真2）おもしろい形のブナの大木

（写真3）ろくわ石

もう一つの強く印象に残っているのはろくわ石である（写真3）。そもそも、ろくわ石の意味は？　と考えて、帰宅後に江戸語辞典で調べたら、「ろく」は人相用語とあるので、「わ」は輪で丸いということか。なるほど、写真を見ればよくわかる。なかなかおもしろい石である。

その後すぐに見張山に到達した。14時7分だが、午後の降水確率が50％という予報を思い起こさせるように、西空から雲が流れてきた。ここから近江高島駅まではまだ小1時間かかるので、早々と退散する必要に迫られた。

本当は長法寺跡や打下城跡にも立ち寄りたかったが、本日は省略して下山することにした。先ほどの名所表示は、下の鼻打、馬の足形と続いている。

ここからは山王谷に沿うやや急な下山路で、植林地帯のなかでは上空の様子が全く不明なので、ひたすらに急いだ。途中、一部は赤色の実線コースとは言えないな、とも思いながら、谷に沿ってなおもくだった。その甲斐あってか、雨に遭わずに日吉神社に到着し、本日の山行の無事を感謝した。

5分後に近江高島駅到着。ホームから西空を眺めていると晴れ間も広がっている。これだったらもっとゆっくりしてくるのだったと、はなはだ残念がりながら、15時23分発の新快速で京都に戻った。

本日当初の目標の、リトル比良の古道を追う計画は四割達成、六割はいつもの道なき登高であった。

（平成16年11月3日歩く）

≪コースタイム≫

富坂口バス停（30分）鉢ノ木尾下端部出合（15分）取付点（4分）林道往復（4分）取付点（35分）石垣（19分）稜線上の古道（17分）オーム岩眺望（14分）登山道（1分）鳥越峠分岐点（1分）昼食場（44分）鉄砲岩（30分）見張山（9分）長法寺跡分岐（5分）馬の足形（25分）日吉神社（5分）近江高島駅

≪地図≫

昭文社＝「比良山系」

山と渓谷社＝「比良・北山東部」

2万5千＝北小松

川瀬峠から奥駈道へ

七面山・明星ヶ岳

大峰

島田浩一郎

舟ノ川源頭にある七面山は、かつてはアプローチが非常に不便であったが、今日ではマイカー利用により、王子製紙の開いた林道を奥深く入り、登山口まで行け、日帰り登山も可能である。しかし、車利用だと往復登山とならざるをえず、そのまま奥駈道を行くことはできない。

そこで、4月29日から5月1日の3日間、公共バスのみの利用で、七面山から奥駈道まで踏破し、奥駈道を明星ヶ岳へ至り、最後は天川川合にくだる計画を立て、好き者の杉村仙人と2人で、えっちらおっちら出かけることにした。

バスで行くとなると、大阪方面から一番便利そうなのは近鉄下市口駅から中庵往行きに乗り、天川和田で下車し、川瀬峠を経て舟ノ川に至るコースが考えられた。初日は舟ノ川源流の七面谷沿いの林道を歩き、二木屋谷との出合（ちょうどこのあたりで、七面谷は地獄谷と名を変える）でテントを張る計画である。

さて、何とか下市口駅発8時45分発のバスに乗り込んだ。下市口駅では、約25人ほどの登山客がいたが、みんな川合経由洞川行きに乗り込み、中庵往行きは、我々のほかには帰省の娘さん1人と、ぶらり旅行風情の若者2人だけであった。対向車もほとんど無く信号も無いので、バスは予定より早く走り過ぎ、途中で何回も時間調整のため停車した。窓外は新緑とシャガの花が春の陽を浴びて美しい。どうやら、この娘さんとバスの運ちゃんとは知り合いらしく、聞くともなく2人の会話が耳に入ってくる。

「もうあれから何年もたったんやな。お母さん、そういえば朝まだ暗いうちから店の前でそわそわしてたな。5日までいるのか。お母さんも喜ぶねえ。店もちょうど連休で忙しいやろからねえ」

どうやら、運ちゃんと娘さんの母親が、小学校か中学校かの同級生らしい。川合で娘さんは下車したが、お母さんがバス停に出迎えに来ていた。さて、若者の1人は天河弁財天前で下車し、残りは我々ともう1人の若者だけになった。運ちゃんが「どこで降りるのか」、と聞いてきたので、「川瀬峠に登りたいので天川和田です」と応えると、「それならそこの

七面山西峰頂上

発電所の手前の橋の所で停めてやる」と言う。地図を見るとそこが登り口で、好都合なので降ろしてもらった。

10時20分、発電所脇の小さな橋を渡り、杉木立のなかの急斜面を登る。川合から門前山への登りに似たきつい斜面だ。3日分の荷物を背負い、特に食料・酒関係を充実させすぎたため、肩にザックがずしりと重い。あえぎながら、過ぎゆく鉄塔の本数を数えて気を紛らせながらぐんぐんと高度を稼ぐ。やっとのことで川瀬峠（約1100㍍）へ着いたのが12時10分。檜木立を伐採した陽だまりのなかでドッジボールのようなおにぎりをほおばる。家内に感謝。

七面山・明星ヶ岳付近略図

12時45分に舟ノ川を目指し、奈良県大塔村篠原方面へくだり始めた。明るい斜面をしばらくくだると塩谷沿いの高捲き道になる。岩屋滝を過ぎたあたりに道の上下に巨岩があり、かつての修行場であったのか何か異様な妖気を発散しているようだ（仙人談）。

昭和55年版のエアリアマップには岩屋滝を少し過ぎたあたりから舟ノ川のスギノセという所に直接行けるルートが書いてあった。この道を行くと篠原経由よりも1時間以上節約できそうだ。最新版および国土地理院の地図には記載されていないが、もしかして存在するのではないかと慎重に分岐を確認しながら進んだ。すると案の定、東へと向かう踏み跡があるではないか。思いのほか道幅も広い。地図とコンパスで確認しながら、どんどん進んで行くとだんだん道幅が狭くなって、急斜面沿いになってきた。

それでも構わず進んで行くと、ついに所どころが崩落していて寸断している。何ヶ所か恐怖心にかられながらも無理に壁にへばりついて降りていったが、ついにっちもさっちもいかなくなってしまった。そのとき先を行く杉村仙人が悲鳴をあげた。「枝に引っかかってメガネが落ちてしまった」

見ると彼の足元は垂直に数㍍切り立った崖になっており、その崖に落ちるすれすれの彼の足元の地面にかろうじてメガネがひっかかっているではないか！「足を動かすな！　おっさんの右足のすぐ横にある」彼は左手で崩れ落ちそうな斜面の脆い岩をつかみ、崖側に体をしゃがませてひねりながらメガネをつかもうとするが、なかなか触れない。少し触れたが余計にメガネは崖に落ちそうになる。重たいザックを担いでいるのでバランスを崩し、メガネとともに杉村仙人の巨体も落下しそうだ。

巨漢が奈落の底に落下しそうになり、冷や汗が噴出と思ったまさにそのとき、何とか中指と人差し指でメガネをつまみあげていた。杉村仙人は、これからは予

川瀬峠から奥駈道へ

七面山・明星ヶ岳

島田浩一郎

大峰

舟ノ川源頭にある七面山は、かつてはアプローチが非常に不便であったが、今日ではマイカー利用により、王子製紙の開いた林道を奥深く入り、登山口まで行け、日帰り登山も可能である。しかし、車利用だと往復登山とならざるをえず、そのまま奥駈道を行くことはできない。

そこで、4月29日から5月1日の3日間、公共バスのみの利用で、七面山から奥駈道まで踏破し、奥駈道を明星ヶ岳へ至り、最後は天川川合にくだる計画を立て、好き者の杉村仙人と2人で、えっちらおっちら出かけることにした。

バスで行くとなると、大阪方面から一番便利そうなのは近鉄下市口駅から中庵往行きに乗り、天川和田で下車し、川瀬峠を経て舟ノ川に至るコースが考えられた。初日は舟ノ川源流の七面谷沿いの林道を歩き、二木屋谷との出合（ちょうどこのあたりで、七面谷は地獄谷と名を変える）でテントを張る計画である。

さて、何とか下市口駅発8時45分発のバスに乗り込んだ。下市口駅では、約25人ほどの登山客がいたが、みんな川合経由洞川行きに乗り込み、中庵往行きは、我々のほかには帰省の娘さん1人と、ぶらり旅行風情の若者2人だけであった。対向車もほとんど無く信号も無いので、バスは予定より早く走り過ぎ、途中で何回も時間調整のため停車した。窓外は新緑とシャガの花が春の陽を浴びて美しい。

七面山西峰頂上

どうやら、この娘さんとバスの運ちゃんとは知り合いらしく、聞くともなく2人の会話が耳に入ってくる。

「もうあれから何年もたったんやな。お母さん、そういえば朝まだ暗いうちから店の前でそわそわしてたな。5日までいるのか。お母さんも喜ぶねえ。店もちょうど連休で忙しいやろからねえ」

どうやら、運ちゃんと娘さんの母親が、小学校か中学校かの同級生らしい。川合で娘さんは下車したが、お母さんがバス停に出迎えに来ていた。さて、若者の1人は天河弁財天前で下車し、残りは我々ともう1人の若者だけになった。運ちゃんが「どこで降りるのか」、と聞いてきたので、「川瀬峠に登りたいので天川和田です」と応えると、「それならそこの発電所の手前の橋の所で停めてやる」と言う。地図を見るとそこが登り口で、好都合なので降ろしてもらった。

10時20分、発電所脇の小さな橋を渡り、杉木立のなかの急斜面を登る。川合から門前山への登りに似たきつい斜面だ。3日分の荷物を背負い、特に食料・酒関係を充実させすぎたため、肩にザックがずしりと重い。あえぎながら、過ぎゆく鉄塔の本数を数えて気を紛らせながらぐんぐんと高度を稼ぐ。やっとのことで川瀬峠（約1100㍍）へ着いたのが12時10分。檜木立を伐採した陽だまりのなかでドッジボールのようなおにぎりをほおばる。家内に感謝。

七面山・明星ヶ岳付近略図

12時45分に舟ノ川を目指し、奈良県大塔村篠原方面へくだり始めた。明るい斜面をしばらくくだると塩谷沿いの高捲き道になる。岩屋滝を過ぎたあたりに道の上下に巨岩があり、かつての修行場であったのか何か異様な妖気を発散しているようだ（仙人談）。

昭和55年版のエアリアマップには岩屋滝を少し過ぎたあたりから舟ノ川のスギノセという所に直接行けるルートが書いてあった。この道を行くと篠原経由よりも1時間以上節約できそうだ。最新版および国土地理院の地図には記載されていないが、もしかして存在するのではないかと慎重に分岐を確認しながら進んだ。すると案の定、東へと向かう踏み跡があるではないか。思いのほか道幅も広い。地図とコンパスで確認しながら、どんどん進んで行くとだんだん道幅が狭くなって、急斜面沿いになってきた。

それでも構わず進んで行くと、ついに所どころが崩落していて寸断している。何ヶ所か恐怖心にかられながらも無理に壁にへばりついて降りていったが、ついににっちもさっちもいかなくなってしまった。そのとき先を行く杉村仙人が悲鳴をあげた。「枝に引っかかってメガネが落ちてしまった」

見ると彼の足元は垂直に数㍍切り立った崖になっており、その崖に落ちるすれすれの彼の足元の地面にかろうじてメガネがひっかかっているではないか！「足を動かすな！　おっさんの右足のすぐ横にある」彼は左手で崩れ落ちそうな斜面の脆い岩をつかみ、崖側に体をしゃがませてひねりながらメガネをつかもうとするが、なかなか触れない。少し触れたが余計にメガネは崖に落ちそうになる。重たいザックを担いでいるのでバランスを崩し、メガネとともに杉村仙人の巨体も落下しそうだ。

巨漢が奈落の底に落下しそうになり、冷や汗が噴出と思ったまさにそのとき、何とか中指と人差し指でメガネをつまみあげていた。杉村仙人は、これからは予

備のメガネを持っていこうと反省していた。呼吸を整えてから補助ザイルを使って元の道まで苦労して戻った。

これでもう近道は諦め、篠原へいったん行くことにした。逆に1時間ロスし、篠原に着いたのが15時15分。人影は見えず、隠れ里の風情の村であった。川べりの斜面に民家がはりつくように点在している。たまに、渓流釣り師が通りかかり挨拶を交わす。

「釣れましたか?」

「少しね」

疲れ果ててはいたが、ここで気弱になると、奥駈道どころか七面山までも危うい。気力を振り絞り地獄谷まで林道を歩けるだけ歩き、どこかでテントを張ることにした。杉村仙人は先ほどの災難はやはりあの巨岩の妖気のせいだといい、厄落としのため、巨岩の方を向いて手を合わせ真言を唱えた。惰性で足を前に出し、ゆるゆると30分ばかり歩いていただろうか、通りかかった車が我々の横で停車し、中から30代くらいのお兄さんが声をかけてくれた。

「お宅らどこまで行くんかい?」

「地獄谷まで行ってテントを張るつもり」

「そうか。わしもこれから七面山に用事があるから、積んでったろかい?」

まさに地獄に仏であった。2人共満面に笑みを浮かべ飛び乗った。舗装は途中で無くなり、地面に出っ張った石に揺られながら、軽四トラックの荷台で仰向けになった蛙のような格好で、振り落とされまいと必死に車の荷物の留め金をつかんで地獄谷まで一直線。

相当距離があった。あのまま歩いていたら途中の湯の又あたりでくたばっていたかもしれない。おかげで16時30分に地獄谷へ早々と着くことができた。下車した後、話を聞いたら、車のお兄さんは大峰が世界遺産に登録されてから任命された自然公園指導員であった。今から七面山登山口に標識を立てに行くとのことである。最近は七面山に登る人も増えているらしい。幸運なことがあって、何とか当初の予定地へたどり着き、地獄谷入口から少し入った「ハコノ淵」と呼ばれる付近で幕営した。

仙人はさっそく滝壺で水浴び。苦労して担いできた鶏肉・シャケ・白菜などの四川鍋を食した。焚き火をし、吹き上げる火の粉を見ていると、次第に心が太古の昔に戻り、時間を超越していくようだ。満天の星を眺めるため夜中に何回もテントを這い出し、少々寝不足の一夜を過ごした。

2日目、4時半起床、6時出発。七面山登山口に向かってひたすら林道を歩く。かなり斜度のある道でどんどん上がって行く。40分ほどで登山口に着くと昨日のお兄さんから聞いていたのだが、荷物が重いせいか1時間経っても到着しない。おかしいなあ、もしや見落としたのではと内心思いながら行くと、7時20分頃に林道が左右に分かれている所に着いた。この林道を東へ東へと行くと地獄谷の奥深く入り、神仙平と呼ばれる所まで入り込んでしまう恐れがある。また、予定の時間をかなり過ぎているので西へと向かう道が正しいかと考え、少々不安はあったが右の道を選択した。道の真ん中に落石がゴロゴロしており、昨日のお兄さんの車もこれでは通れないなあと思いながらも間違っているという確信がもてず、地図上は七面尾に向かっているので、構わず歩いて行くと、7時50分ついに七面尾との交差点まで達した。七面尾に道があれば縦走してやろうと考えていたのだが、道は無い。南斜面が切り立っている。ついに間違いを確信し、元の分岐点に戻った。1時間のロス。分岐点を今度は直進すると、10分ほどで昨日のお兄さんが立てたのだろう、真新しい標識が立派に立っている七面山登山口に到着した。

8時45分、思いのほか時間がかかったのを悔やみながら、いよいよ七面山への登りを開始した。杉林のなかをいきなりの急登で苦しい。どっと汗が噴き出す。40分ほどで七面尾の鞍部に達し、ほっとした。

七面山から奥駈道への稜線

ウグイス・ルリビタキなどの小鳥のさえずりが癒してくれた。眼前には明星ヶ岳が立派である。ここからは七面尾のやせ尾根を登りつめることになる。やせ尾根の上に檜の根っ子がまるで毛細血管のようにしっかりと張り付き、ちょうどロープを張り巡らしたようになっているので、恐怖心を感じることなく登高できる。しかし、一歩間違えば、断崖に転落の危険もあるので慎重に小ピークを越えて行く。樹上を渡り歩く猿になった気分だ。しかし猿と違って体が重く苦しい。何もかも捨て猿になれば楽だろうに。とくに七面山頂上直下の草つき道の直登は胸突き八丁だ。

10時55分、やっとのことで到達した西峰(1619㍍)の頂上は明るく開けて展望が良い。明星ヶ岳は迫力がある。東峰(1624㍍)へは約15分で達する。東峰直下からは、西峰の西側にあるアケボノ平の草原の鮮やかなライムグリーンが輝いて見えた。東峰の南には500㍍の南壁が切り立っているが頂上からは望めない。東峰の頂上直下から、奥駈道へと向かう一筋の踏み跡があり、11時45分に出発した。

踏み跡程度の道ではあるが、広いササ原のなかのプロムナードで気持ちが明るくなる。倒木などもあまり無く、方向さえ間違わなければ大丈夫だ。バイケイソウの緑が地面から顔を出し始めている。しばらく行くと大峰山脈の主稜が眼前に現れ、仏生ヶ岳・釈迦ヶ岳といったジャイアントが圧倒的な迫力だ。奥駈道には、楊枝ノ森の北斜面を捲いて突っ走った。時間に余裕が無かったので、昼食はチーズ・クラッカー・カロリーメイトを適当に口に放り込んで、水で流し込んだ。私が早く奥駈道に達したいばかりにサッサと進んでいると、後ろから、「オーイ、こらー、姿が見えんかったら、わからんようになるやないか」と杉村仙人の少し怒った声がした。2人共、早朝6時からの苦行による疲労で苛立っている。

13時、ついに奥駈道に合流した。しかし、ここから明星ヶ岳までは3時間かかり、2日目の幕営場となる狼平までは、レンゲ道を経由してさらに1時間30分ほどかかる。しかも、夏山を思わせる暑気

のため水の消費が早く、2人共あと500ミリリットルほどしかペットボトルに入っていない。舟ノタワで、10人ほどの登山者がうまそうにビールを飲んでいるのを尻目に、2人の鉢巻おじさんは、とにかく急いだ。水さえあればここでキャンプできるのにと思いながら……

禅師ノ森付近の縦走路は土砂崩れのため大きく崩壊しており、このままではいずれ縦走できなくなってしまうのではないかと気になった。後方の景色を振り返ると、釈迦ヶ岳の彼方までずっと峰々が続き、手前には神仙平の優しい広がり、その右手には七面山の双耳峰。思えばはるばる来たもんだ。このあたりから疲労がピークに達し、水もほとんど無くなり、希望的観測からか、明星ヶ岳前衛の峰々を本峰と錯覚し、間違いと気づくたびに疲労度が増していった。所どころで残雪を踏みしめて行った。ふと見ると、明星ヶ岳頂上を示す標識が立っている。2人してやれやれと喜び近づいてみるとそのような標識は無い。疲労のすえに2人いっしょに幻覚を見たのだろうか。

杉村仙人が下山後調べたところによると、かつてこのあたりで遭難があったらしい。目標に到達するのもわずかだと思ったのに、その目標はさらに遠ざかる、このような時挫折感を感じ何もかも嫌になる、これは人生でも同じことかもしれない。また、本当は到達していないのに、自分で都合よく解釈し、ゴールを至近なものにしてしまうことも……

何度かの失望の後、ようやく昨年9月以来の明星ヶ岳に到達でき、やっとひと息ついた。残りの水を飲み干し、高崎横手へと向かう。わずか半年しか経っていないのに、標識は風雨で破れ、道も荒れていた。山道を維持することの難しさを感じる。

我々は小走りで高崎横手へと向かった。いったいどこにこんな体力が温存されていたのだろうか。先ほどまでの疲れは何だったのだろう。そして何とか17時30分に狼平に着いた。

例年になく残雪の多い弥山川のほとりにテントを張り、まだ刺すように冷たい渓流でひと風呂浴びる。体から湯気が立ち昇り、今回の山行も何とか無事終わりそうな安堵感に包まれ、一気に寛いだ。

早朝から歩きづくめで疲労困憊したようだが、何とか計画を達成できた。ふと学生時代から既に30年が過ぎようとしていることを思い浮かべながら、いい年したおっさん2人よくやったな、とその夜は焚き火を昨夜とはまた違った気分で眺めた。チーズフォンデュと特製カレースパゲティをつくり、酒を思う存分飲み、2人で人生を語り合おうとしたが、わずかの酒で早々と深い眠りに陥ってしまった。(平成17年4月29日～5月1日歩く)

《コースタイム》

近鉄下市口駅（バス1時間24分）天川和田（1時間40分）川瀬峠（2時間）篠原（3時間）地獄谷入口〈泊〉（1時間30分）七面山登山口（1時間40分）七面山西峰（15分）七面山東峰（1時間20分）楊枝ノ森（3時間）明星ヶ岳（1時間10分）高崎横手分岐経由狼平〈泊〉（4時間）天川川合

〈地形図〉

2万5千＝南日裏・辻堂・釈迦ヶ岳・弥山

（問い合わせ先）

奈良交通バス ☎0742（20）3100

（宿泊）

狼平避難小屋（20人収容、無人、通年）

9/6(火) 入場無料 要予約

■八甲田特別講演会10:30～12:30
&錦秋の国内セミナー

■海外セミナー 13:30～15:30

■場所 ※ご希望のセミナーのみのご参加でも結構です。
大阪駅前第3ビル12F会議室

日本の秋は美しい。喧嘩の夏が過ぎると足早にあきの気配が忍び寄ってくる。秋、目も覚めるような青空のもと、新雪に輝く峰峰と錦織りなす木々の鮮やかなコントラストが私たちを秋色輝く世界へと導く…。さあ秋山へ行こう。。。

錦秋の国内スライドセミナー

秋の東北を知り尽くす！八甲田山荘「芦沢吉朗氏」を迎えて！

日本アルプス・東北の紅葉スライド上映会

1936年生まれ。学生時代より山に登る。八甲田山麓に八甲田山荘を起業しガイド組織を確立。現在は八甲田山を中心に、岩木山・白神山地など東北の山々をガイドし冬季の山へも足を伸ばす。八甲田山荘の友の良いにまん。

ゲストスピーカー
芦沢吉朗氏（あしざわよしろう）

日本の秋は美しい。喧嘩の夏が過ぎると足早に秋の気配が忍び寄ってくる。秋、目も覚めるような青空のもと、新雪に輝く峰峰と錦織りなす木々の鮮やかなコントラストが私たちを秋色輝く世界へと導く…。さあ秋山へ行こう。。

山旅専門アミューズトラベルでは今秋のオススメ山旅情報満載の「錦秋の国内スライドセミナー」を開催します。東北の山を知り尽くした「八甲田山荘芦沢吉朗」氏を迎えて東北の紅葉の魅力もたっぷりとお伝えいたします！皆様のご来場心よりお待ちしています！。

海外セミナー

'05秋！海外トレッキング＆登頂スライド上映説明会！

今年の秋は憧れの世界の屋根ネパールヒマラヤトレッキング満喫しませんか！海外第1部では今年もネパールから偉大なるサーダー（シェルパ頭）にして、弊社カトマンズ支店の代表でもあるペンパ・ノルブ氏によるネパールセミナーを開催いたします。第2部は登頂型セミナーです。キリマンジャロやキナバルなど海外の登頂セミナーをスライドを使ってわかり易く丁寧にご説明いたします。

●世界の屋根！ネパールトレッキング

ネパールトレッキングのベストシーズンは10月～4月末まで。その中でも特に秋は空気が澄んで最も山が美しくみえる時期です。さあ、秋のネパールトレッキングに行こう

1949年ネパールナムチェバザールで生まれ育つ。クライミングシェルパとしてエベレスト登はじめヒマラヤの数々の名峰に登頂。持ち前の統率力と温かい人柄でサーダーとして忙しい日々を送っている。昨年「アミューズトレック＆エクスペディション」を設立。

ゲストスピーカー
ペンパ・ノルブ・シェルパ氏

●登頂型ツアー

①キナバル山・キリマンジャロ登頂セミナー

①高所登山の1日の流れ（ルート・ポーター・服装）教えます！高所登山の知識装備・トレーニング法・参加基準。
②安全快適に登頂するコツ！
③宿泊（小屋、テント）と食事内容について
④高山病予防法
⑤高所順応日とは？

お問い合わせは・・・ 山旅専門旅行会社

アミューズトラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員

〒530－0001 大阪市北区梅田1－11－4 大阪駅前第4ビル7階

☎06－6456－3366 ホームページ http://www.amuse-travel.co.j E-mail:amtosa@amuse-travel.co.jp FAX 06－6456－3377

やせ尾根の崩壊地をクリアして

烏ヶ山（からすせん）

鳥取

湯浅康夫

奇観である。その名の通り烏ヶ山はまさに奇観である。

和音「山」を「せん」と発音するのは南朝の呉音で、「さん」と発音するのは中原以北の漢音だ。新ハイ73号（74ページ、紀平龍雄氏）に詳しいので参照されたし。

鳥取県の西部にある烏ヶ山は伯耆大山の外輪山である。山頂の溶岩円頂丘とその両脇のピークが黒いカラスが翼を広げているように見えたため、その名が付けられた。

大山は今から約2万年前、火山の噴火によって出来た。カルデラ火山の上にトロイデ火山が重なって出来た複合火山だ。

以前、大山には雪を踏んで登ったことがあるが、この烏ヶ山は初めてだ。

前日、キャンプ地で巡回中の警察官に問うと「たしか登山禁止」とか「ああ、登ったことがある」とか、ずいぶんあいまいだった。

烏ヶ山へのバス便は季節運行で便数も少なくマイカー山行が便利だ。

大山鏡ヶ成国民休暇村に駐車する。自動車道路を登り気味に北に1キロほど行くと新小屋峠だ。西側の取付点で見ると「平成12年の鳥取西部地震で登山道が崩壊し登山禁止、通行止め」となっている。

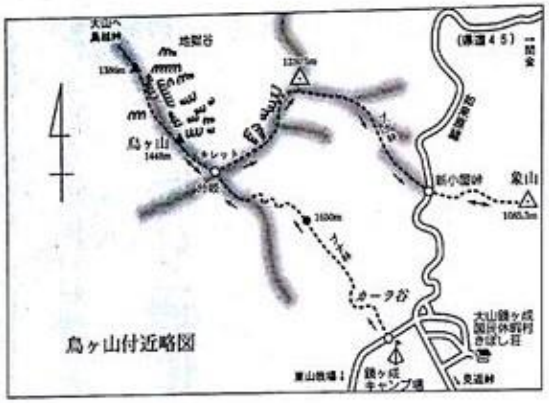
迷ったあげく、新小屋峠からの烏ヶ山登山はあきらめ、南のキャンプ場から入山することにした。

来た道を戻るのももったいなく、道の向い側の象山に登ることにする。その後に、再び烏ヶ山に取り付くことにした。

薄暗い雑木林から尾根にのると黄紅葉が見事だ。駆け上がると3等三角点象山（1085・3㍍）到着。展望よく、毛無山・甲ヶ山・矢筈ヶ山、真南に擬宝珠山と同定する。大山の山頂は雲がかかっていた。この角度から垣間見る烏ヶ山は見事と言うほかない。

車に戻り、南のキャンプ場に移動する。登山口に来るとここも新小屋峠同様「登山禁止、通行止め」となっている。どうしてもあきらめられず、行ける所まで行くことにした。

烏ヶ山山頂にて



烏ヶ山付近略図

鬱蒼とした林を過ぎると風情のよいカーラ谷でいったんくだる。杉の間にウリハダカエデが混在するきわめてゆるい勾配で、1キロほど行くと尾根道になってやや急になる。ブナなどの落ち葉を踏みながら行くと、さっきあきらめた新小屋峠からの稜線を見る。約1150㍍から苦しい急登が続く。やがて左手の尾根と合流する。

新小屋峠コースから登ってきた数人と出会う。目の前の尖った二つ手前ピークを見るとガケ崩れが見える。ここで断念して下山する人も数組おられた。私達は何とか通過し、さらに手前ピークと山頂の間のキレットは崩壊寸前で、冷や汗をかき身体を確保しながら通過する。ロープを伝い木の根や岩をホールドし、最後の鉛筆のキャップのような尖りをクリア。烏ヶ山山頂（1448㍍）！

行ける所まで行こうとの思いが通じたのか何とか完登できた。北東に飯盛山、北に矢筈ヶ山、北西の大山の南東壁は見えたが、山頂は相変わらず雲の帽子をかぶっている。

分岐に戻り、下山は新小屋峠コースの1230・5㍍を目指す。烏ヶ山の東壁は地獄谷と呼ばれるだけあってガレていて圧巻だった。この風景を見てまだ神が信じられない人は、よほどの人だ。

カラスの両翼を左に見ながら細尾根を行くと右手に分岐を見る。まっすぐ踏み跡をたどれば、チシマザサのなかに4等三角点標石（1230・5㍍）、を見つけ写真に残す。

分岐に戻り、地獄谷に別れを告げ一気に峠へ駆けくだり、左にブナの林、右にミネカエデのトンネルを抜け駐車場に戻った。

（平成15年10月26日歩く）

▲コースタイム▼

国民休暇村（25分）新小屋峠（25分）象山（40分）キャンプ場（1時間40分）尾根合流（15分）烏ヶ山（50分）1230・5㍍（35分）新小屋峠（15分）国民休暇村

＜地形図＞2万5千＝伯耆大山

（問い合わせ先）

大山鏡ヶ成国民休暇村

☎0859（75）2300

連載

旗振り通信の研究 ㉕（補遺2）

旗振り通信の資料Ⅴ

柴田昭彦

本誌57号から79号まで、23回にわたって、「旗振り通信の研究」を連載した。その後、新しい情報をいくつか得ることができたので、82号に続いて報告を行う。今回で収録できなかった分は次回に報告したい。

【大門山と大日山（四日市市）】

四日市市は、桑名の米市場が近くにあったことから、旗振り場がたくさん設けられたようである。本誌59号では、萱生城山（55㍍）、県地区の岡山（66㍍）、垂坂山（75㍍）、生桑山毘沙門天（60㍍）、一生吹山（109・6㍍）、日永の登城山（64・3㍍）を、同79号では、神明山（相場振山、71・5㍍）と波木の山（83・3㍍）を紹介している。

平成17年3月20日になって、インターネット検索で、四日市市川島町の大門山（91・2㍍）と寺方町の大日山（64・0㍍）が旗振り場であることを初めて知ることができた。従来、知られていなかった旗振り中継所である。HP「あきらちゃんの自然散策」の2月21日の山行「大日山・大門山」に紹介されたもので、「中日新聞で知った、旗振り山と黄金伝説の里山歩きに出かける」とあった。

さっそく、HPの管理者、保田彰氏に問い合わせたところ、山友達から中日新聞の記事についての連絡をもらって初めて大門山の存在を知ったとのことであった（以前、神明山の情報を得たのも保田氏からであった）。

その記事というのは、平成17年2月19日の中日新聞に掲載された「大門山の黄金伝説を追え」というもので、戦前の川島村郷土誌に「七堂伽藍の大寺院建立せられたり。……中央なる大門の地中に黄金を埋めおかれたり」とあることから、戦国時代の黄金伝説にロマンを求めて、2月27日に行うイベントを紹介したものである。次のような興味深い記事もあった。

「大門山は大正時代、大阪の米相場を名古屋に伝えるのろし台があった。鈴鹿、亀山の両市境の野登山から大門山を経由し、四日市市神前の大日山までリレーし、赤や黄色ののろしで米相場を伝えたという。」

大門山では、2月27日、山の散策道の開通を記念したイベントとして、地元住民や川島小学校の児童ら約百人が、山中に埋められたコインなどを探し当てるゲーム、金属探知機の反応する場所を掘るなどの黄金探し、のろしの再現も行い、当時の雰囲気を味わった。残念ながら黄金は見つからなかった。のろしは、大日山でも上げられたという。

大門山頂上の説明板

27日金属探知機使い探索

大門山の黄金伝説を追え

戦国のロマンこの手に

山頂まで散歩道を整備

大日山へのろしも

中日新聞（2005.2.19）（＊野登山の「のろし台」の地点は不明）

大門山・一生吹山・大日山付近略図

2月28日の中日新聞の記事には、米相場を名古屋に伝えるために大正時代まで行われていた「のろし」を再現、とあり、今回、大門山では、名古屋市の東山動物園の狼の糞を使用したというが、米相場の伝達に関してよく聞かれる「狼煙」という言葉は、例外なく、「合図」という意味で使用されており、煙を上げることを意味していないようである。

米相場の通信に「色ののろし」を用いた場合、色を出すための材料費の値段が高くつき、通信内容も数字の伝達が難しいなど限定されるので、現実には、数字の伝達が容易な旗振りや松明振りが利用されている。松明は、旗と同様に振ることで米相場を送信できるので「火の旗」とも呼ばれたという。

筆者は、保田氏の現地情報を得て、平成17年4月16日に大門山、一生吹山、大日山の踏査を行った。伊勢川島駅から鹿化川の北側に沿う道をたどり、途中で、別所谷方向へ南下する道を上がると茶畑で、大門山への大きな案内板に従って尾根筋を進むと山頂に着く。北側にのろしリレーのためになされた切り開きがあるが、あまり展望はない。新聞記事やインターネット情報、現地案内板のおかげか、時々、大門山への来訪者とすれちがったが、山頂での好展望を期待した人には残念なことであろう。ただ、途中、茶畑の上方のベンチの設置された展望地はおすすめできる。

大門山の山頂に設置された説明板（平成16年11月設置）には、次のように記されている。

「この位置から西南西方向に鈴鹿の野登山、北北東に神前の大日山があります。大正時代に大阪の米相場を東京へ知らせるため、桑名、名古屋への取次ぎをするのろし場として活用され、煙の色によって米相場の動きを知らせました。」

野登山の山頂で旗振りが行われた伝承は残っておらず、その南東の上野西山を指しているらしいことについては本誌59・

60号でふれた通りである。神前の大日山は現在では公園化され、大日山自然公園となっている。大日寺の西側に登り口があり、山頂では展望もわりとよく開けている。

説明板の文中の「のろし」「煙の色」というのが実際には「合図」「旗振り・松明振り」である可能性が高いことは、先にふれた通りである。こういった誤伝が多いことの証左として、次のような例を紹介しておこう。

本誌82号で、「千里山三本松（大阪府吹田市）」での現地調査を紹介したが、地元の山田さんによると「昔から三本松がのろし台だという話はよく聞いた。色を変えたのろしを上げて合図したとかいうことだ。旗で合図したという話は少し聞いているが、むしろ、のろし台のことのほうがよく聞かされた。」

中日新聞（2005.2.28）

これは、旗振りや松明振りが行われた場合でも、信号伝達の場合、「のろし」「のろし台」「色ののろし」というようなイメージが一般の人にはわかりやすく、よく通俗的な本でも「狼の糞を使うと煙がまっすぐ上がりやすい」などと紹介されていて話題になり、イベントも行われて記憶に残りやすい。これに対して、旗振りや火振りによる信号伝達は一般の人々のイメージにはないので誤解されやすく、その伝達者自身の感じ取り方に合ったようにデフォルメして他人に伝えてしまいやすい傾向があるということになるようだ。明確な直接の目撃談でなく、又聞きなど、聞き伝えによる土地の伝承といった場合に生じやすい誤りといえよう。

大門山の山頂付近で行われた散策路の整備は平成16年11月から始まったが、里山の再生を願っての話題づくりとして黄金伝説とのろし伝承が活用された好例といえるだろう。

里山再生のきっかけづくりをしたのは、川島地区市民センターの矢守隆館長（当時）で、黄金伝説については川島町の田中幸民氏（農業）から、のろしについては川島地区福祉協議会の会長の服部長昭氏から聞いた話だということであった。

矢守氏は平成17年4月には日永地区市民センターに転出されたが、日永の登城山も米相場を伝えた山であることを筆者から知らされて、驚いておられた。

矢守氏に後事を託された川島町郷土史研究会の桂山孝夫代表には筆者から四日市市の旗振り場の資料を提供しておいた。大門山の尾根に点在する深さ約2㍍の穴は、桂山氏によれば、明治初期の黄金探しの跡だということである。

戦国時代、大門山には大寺院があったが、1567年に織田信長の家臣、滝川一益が北勢に攻め入ってきて、周辺はすべて焼き払われたが、再建を期して、寺院の敷地内に黄金を埋めて隠したという伝説が残る。

明治期に見つからず、今回、アメリカ製の地下1・5㍍まで探知できる機器を使っても発見できなかった黄金の存在を裏付ける史料はないが、身近な里山に残るロマンに興味は尽きない。

【神明山（相場振山）の説明板】

HP「あきらちゃんの自然散策」には次のような記述があった。

「神明山（別名　相場振山　71・6m）H15－12－05　四郷風致を再度歩く、神明山（別名　相場振山　71・6m）の三等三角点の探索を兼ね歩く、三角点の点の記が書かれてないので、竹藪の最高点をめざす、三角点は神明山説明板のある公園の柵の外にひっそりとあった。」

この記述をきっかけに、HPの管理者、保田彰氏に問い合わせて発見できたのが神明山（相場振山）であることは、本誌79号で紹介した通りである。

桑名市を中心とした旗振り通信ルート

神明山にある説明板の内容は、資料的な価値が高いと考えられるので、ここに全文を掲げて読者の参考に供したいと思う。

「神　明　山（別名　相場振山）

神明山は　標高七十一、六メートルで　この界隈では一番高所となっております

名称の由来は　神佛混淆であった昔町には氏の先祖として祭る神が　八社点在していました

そのうちの一社である神明社が　この地に祭られていたことによるものであります

この神明社は　明治元年の神佛判然令（排佛棄釈運動）に始まった神佛分離の影響を受けて　明治四十年　無格社であったため　他の氏神様と同様に熊野神社（現在の日野神社）に合祀されたのであります

また　相場振山の由来と言えば　まだ遠距離通信手段が今のように発達していなかった明治の頃　経済の基本である米穀相場を　西は浪速・東は江戸の間を時を定めて　双眼鏡と手旗信号で伝達し会う方法が　採られておりました

当時は今のように竹林の繁茂もなく灌木が茂っていても四方が一様に眺望できていたために　この山頂を伝達場所として　西へは羽木の山・東へは垂坂山へと相場の高下を知らせ会っていたところから名付けられたのであります

平成九年四月

市　政　百　周　年　記　念

日　野　親　睦　会」

【神戸城跡（鈴鹿市）】

HP「あきらちゃんの自然散策」に次のようなコメントが見られる（保田彰氏が運営）。「高岡山　H16－8－21　相場振山の一つで、岸岡山への中継地となっていた、高岡城址に出かけた。神戸城址

は良く見えたが岸岡山は霞んでいた。城址跡での見晴らしは抜群、高岡神社側に降り周回した短時間散策。」

「神戸城跡　H16－9－5　高岡山で相場旗振りが行われ、岸岡山で受けたと言われるが、地元の人が神戸城跡に伝えたのではないかと話をされていたので、訪れてみた。現在展望は無いが昔は展望が良かったのではないかと思われる。」

神戸城は鈴鹿市神戸本多町にあり、別名本多城、神戸利盛が築城し、織田軍に攻められて、信長の三男、信孝が城主となっている。

筆者は、保田氏からメールで次のような質問を受けたことがある（平成16年8月21日）。

「高岡城跡で2人の地元の人にお会いしたので、話をしたら、手旗信号のことを知っているようでしたが明確ではなかった。この山から手旗をしたのは、神戸城跡のところとしていたのではないか？と言われましたがそんな情報は無いでしょうか？」

今のところ、神戸城跡で旗振りが行われたかどうかについては、裏付けとなる資料を見つけることができないでいる。

【多度山（桑名市）と狐平山（海津市）】

多度山の三本杉の旗振りについては、本誌59・68・77・82号で紹介した。

平成17年5月7日、82号で示したインターネット情報の確認のため、多度山に出かけた。

近鉄多度駅から愛宕神社へ向かう。神社の左手から愛宕道をたどり、山頂の中継所に出て、三角点のある展望台から鉄塔32号（相場振り跡地）を経て、戻ることにした。

愛宕道は全般に急坂だが、雑木林のなかを主として尾根筋をたどりながら登る静かな道である。急坂なので健脚向きになっているが、危ない箇所もなく、舗装道をたどるよりも登山にふさわしい良い道である。

旗振りが行われた多度山の山上広場には三角点があり、すぐ横に、HP「養老の三角点」の2002年8月の山行に写真が載せられている「三本杉の相場旗振り（説明板）」が横倒しになっている。いずれ朽ちてしまう運命であろう。文化の継承のため、石碑などのような恒久的なものでの再建を願うものである。

インターネット検索で、多度山の山行の記録を見ると、多度山の鉄塔32号の横に、「相場振り跡地」という標柱があり、「相場振り」という茶色の説明板が設置されているという。そこで、この鉄塔32号を目指すことにした。多度峡へのハイキング道を上がり、道が大きく左へ曲がる所にコンクリート舗装がしてあるが、その直前の左手に鉄塔32号を示す黄色の矢印があるので、見落とさずに入口を見つけて、右の巡視路に入る。

鉄塔32号に出る。その先に東側の展望が大きく開ける「相場振り跡地」の石碑（平成九年四月吉日　下一色区建之）のある場所に出た。「相場振り」の説明板の内容は次の通りであった（HP「養老の三角点」2003年7月の山行に「相場振り説明板」として掲載されている）。

「相　場　振　り

電信・電話がなかった頃には、情報を早く知る方法にいろいろ苦心した。特に米を扱う業者にとっては、変動する米価（相場）を早く知ることは商運にかかわる重大事であった。

当地の狐平山に見晴のよい標高三四〇メートルの山頂があり、ここで桑名から紅白の手旗で数字をあらわすのを望遠鏡

で受信し、それを紅白の手旗を振って、今尾・赤坂へ送信した。紅白の手旗を上下左右に振って数字をあらわすのである。使用した望遠鏡は長さが約一メートル、直径が約一〇センチ、三段に延びるもので、重いので肩にせおってのぼった。旗手をつとめたのは、松山の田中才次郎さんや、下一色の佐藤善七さんで、一日交替であった。

下　一　色　区

南濃町教育委員会」

説明板に見られる「狐平山」は、読み方が示されていないが、海津市南濃町には、6世紀半ば頃に比定される「狐平（きつねひら）古墳」がある。「狐平山」の標高340㍍とあるが、鉄塔32号が立つ地点には、地形図で読み取ると、標高480㍍の等高線があり、「相場振り跡地」の石碑のある場所は標高が約475㍍であろうと思われる。

「今尾」とは海津市平田町今尾である。また、「赤坂」とは大垣市赤坂町で、江戸時代、三河国赤坂宿と区別するため「美濃赤坂」と呼ばれて物資輸送で栄えた中山道赤坂宿を指している。ちなみに、南濃町・海津町・平田町は平成17年3月に合併して海津市となった。

なお、本誌82号で紹介したように、養老の嶺嶺に櫓が組まれたわけで、養老山系の多度山の山頂だけでなく、その北西方向約900㍍に位置する「狐平山」も旗振り場であったわけである。養老山系では他の地点にも旗振り場が設置された可能性が考えられる。

【相場山（岐阜市）】

稲葉山城（岐阜城）のある金華山（334㍍）の南西方向に相場の伝達に由来する「相場山」（197㍍、岐阜市伊奈波山東麓）があることは、本誌82号で紹介したが、その出典についてはインターネット情報のみであった。その後、平成17年3月24日に、インターネット情報の出典を入手できたので、ここで示すことにしたい。

相場山の記載があるのは、林春樹（貫任編集）『図説・美濃の城』（郷土出版社、1992年）である（出版社に1冊だけ在庫があったので入手できた）。その146頁の解説文中には「相場山」とあるが、この読み方は意味不明であり、正しくは相場山であろう。147頁の地図には、伊奈波神社の東南東300㍍に「相場山砦」とある。昭和60年の岐阜市平面図（1万分の1）に復元されたもので、砦の標高は198・3㍍と読み取れる。1万分の1地形図「金華山」（平成6年修正、平成7年発行）には、相場山砦に相当するピークの標高は197㍍となっている。その南西方向170㍍にNHK上加納放送所がある。

『図説・美濃の城』の岐阜城の解説は、林春樹氏（岐阜県文化財保護協会事務局長・東海古城研究会会長）の執筆であるが、文中には、相場山の呼称の由来には全くふれられていないのは残念なことである。もちろん、相場山砦と明確に記載されており、このピークが相場の伝達に利用された山であることはまず間違いないであろう。いずれ、その出典となる根源資料を見つけたいと考えている。　（つづく）

（平成17年5月8・15日成稿）

エリア別徹底研究

伊能ウォーク INやまと⑧
尼ヶ辻～JR奈良駅～猿沢池～奉行所跡

上田倖弘

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年12月5日［＝1809・1・20］

朝小雨見合。六ッ半頃［7時頃］、横領村出立。昨日残印、宝来寺村興福院村境より初［メ］、郡山藩興福院村、斎音寺村（此村迄添上郡）、それより興福寺領三条村限南都御奉行支配、南都三条町入口にて測止。四ッ頃［10時頃］南都樽井町池田屋庄左衛門へ止宿。着後触口町代高木又兵衛来て、南都測量の都合を談ず。それより南都御奉行所鈴木相模守御役所へ我等、坂部両人届に出る。組与力中条太郎右衛門、佐倉鎌治郎取次を成［ス］。此夜晴天測量。此夜当所暦師（即、陰陽師）藤木長門、藤木右近、山村左門、中尾主膳樽を携え見舞に来る。此日、郡山郷役人奥村清右衛門、小川太蔵出る。

〈「伊能忠敬・測量日記」第二巻　佐久間達夫編著より引用〉

●実施日　平成13年1月20日(土)
くもりのち雨

●参加人数　17名

いつもは第二火曜日であるが、今回のコースを伊能隊が歩いたのは新暦で1月20日に当たるところから、日を合わせて本日の実施となった。

朝9時、近鉄尼ヶ辻集合、9時5分に三条通をまっすぐ東へ向かう。10分歩くと秋篠川を渡る。秋篠川は改修のため何度か川筋を変えているが、200年前とは同じ位置にあっただろうということである。もう少し東へ行くと三条大路5丁目の交差点に出る。このあたりが横領村であったらしい。さらに東へ進む。この頃から、パラパラと小雪混じりの雨が降り出す。気温も10時でたった1度、寒いはずである。南側に天神社・大将軍神社等を見てJR奈良駅へ向かう。奈良駅でトイレ休憩をとり、ダイエー横から無言の行、猿沢池まで歩測する。

歩道に車が停めてあったり、人通りが多かったりで距離が短い割にバラッキが大きく平均値が悪かった。雨と寒さのせい？　11時過ぎ西へ少し戻り、高札場で記念写真。雨のなか、カメラマンの笹木さんは大変である。

南都銀行を右折して、東向通りを北上する。この通りは興福寺の塀が長く続いていて、片側の東向きにだけ家が建っていたので、この名がついたという。

5分程で奈良女子大学へ、ここが元南都奉行所で、当時は「92間×92間」の広さであったという。現在、奈良女子大学は倍近くに広がっている。周囲をひと巡りしてみる。伊能忠敬が奉行所に出向いた時、応対してくれた1人が組与力中条太郎右衛門。その子孫が営んでいる中条文具店があるのも歴史を感じさせて興味深い。

今日のコースはこの奉行所跡まで。この後、近鉄奈良駅まで戻りちょうど12時。昼食は新年会をかねて近鉄奈良駅九階の「百楽」へ。アルコールも解禁で楽しいひとときを過ごし解散となる。

（記録・瀧野江津子）

＜地形図＞2万5千＝奈良

南園堂南東の高札場前にて

奈良女子大学（元南都奉行所）

エリア別徹底研究

伊能ウォーク INやまと⑩

近鉄奈良駅～肘塚町～出屋敷～青井神社～帯解寺～帯解駅・広大寺池～帯解安産地蔵尊～和爾下神社～柿本人麻呂の歌塚

上田倖弘

●実施日　平成13年3月13日(火)
　　晴れ時々くもり
●参加人数　17名

近鉄奈良駅に9時集合、本日のスタート地点となる肘塚町に向かう。9時40分肘塚町着、目標の灯籠二基があり。肘塚町の謂れ＝従前は竹花町といわれていた、60年に一度咲く竹の花が咲いたため、竹花町といわれることになったが、僧玄昉の肘を埋めたことや、ホラ貝を吹いたこと等に謂れを発し、明治16年肘塚町に命名された。

岩井川を渡った所の出屋敷町に永井城跡あり。出屋敷に明治村あり。明治村の民家の玄関に、にぎり飯とつけ物のお供えあり。当家の奥さんに謂れを聞く（彼岸前の餓鬼供養の由）。疱瘡神社＝青井神社の前だが素通りしてしまう（見落としたらしい）気づいたので戻る。鳥居の位置がおかしい、どうも鳥居がこわれたので本堂の屋根に付けたようだ。登坂の地名あり。地名から登り坂があるかと思ったが、急坂はなく奈良方向に向いただらだら坂であった。帯解寺に立ち寄り、健康十訓（参考に記載）を見る。

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年12月9日［＝1809・1・24］

朝曇天。六ツ後［7時半頃］南都出立、昨六日印杭竹花町・肘塚村界より初め、肘塚村（南都浄土宗十三ヶ寺の領）、北永井村の内出屋敷（植村駿河守御預所）、同村字登坂（同上。家八軒）、南永井村（同上）、今市村（興福寺領）、下山村（植村御預所）、森本村（同上）、楢村（藤堂和泉守領）、櫟本村迄測［リ］（此村興福寺・東大寺入会）四ツ［10時］頃に着。（柿本人麻呂の歌塚へ立寄る）、止宿。即、櫟本村百姓藤兵衛。別宿平四郎。此夜大曇天。深夜大雨雹［ヒョウ］雷あり。

〈「伊能忠敬・測量日記」第二巻　佐久間達夫編著より引用〉

○少肉…多菜　○少麁…多果
○少頃…多眠　○少言…多行
○少衣…多陽　○少塩…多酢
○少食…多齟　○少怒…多笑
○少欲…多施　○少車…多歩

すぐそばのJR帯解駅にて昼食、少し寒かったが和気あいあいの食事、恒例の紅茶本当においしい！。先生、伊藤さん本当にありがとうございました。昼食後広大寺池に立ち寄ると、名の通り広大な池だった。引き続き帯解安産地蔵尊（宝寿山）に立ち寄り、いよいよ歩測に入る。菩提仙川より和爾下神社まで歩測する。歩測終了後、柿本人麻呂歌塚見学。

〈和爾下神社の謂れ〉

2～3世紀からこの地に栄えた古代豪族和爾氏の氏神として創建されたという。

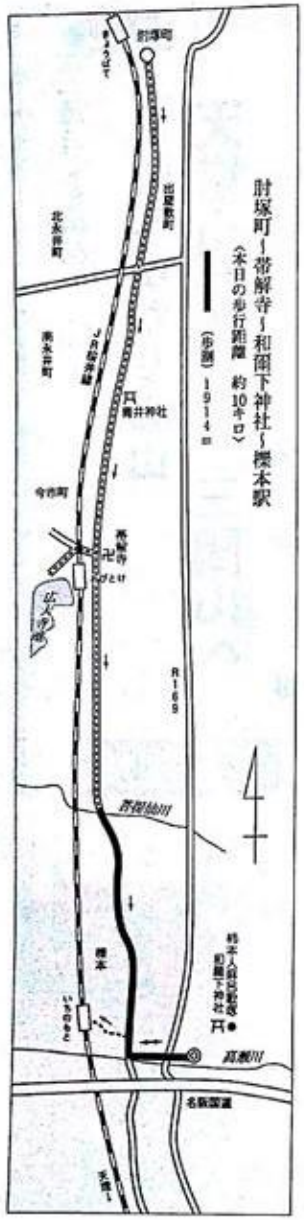
〈柿本人麻呂の歌塚の謂れ〉

和爾下神社のすぐ近くにあり、柿本人麻呂の墓と伝えられている。墓石に「世を経てもあふべかりける契こそ苔の下にも朽ちせざりけれ」の歌がきざまれている。

3月に入ったとはいえ、底冷のする寒い日でした。途中立ち寄った帯解寺で住職が説明に出てこられたが、上田先生のくわしい話にどぎもを抜かれた様子！そばで見ていておかしかった。

（記録・中里太郎）

〈地形図〉2万5千＝奈良・大和郡山



帯解寺

連載

三角点を訪ねて ㊱

京都にゆかりの山
天増川から三十三間山へ

礒部 純

江若国境

三十三間山は、滋賀県高島市今津と福井県若狭町三方に跨がる山である。この山へは京都北山の三角点を訪ね廻っていた折に、会社の山仲間といっしょに登っている。倉見から一般道を登り、下りは南の尾根にある三角点を踏むつもりが、ササダケに遮られてやぶに入り込めずに断念し、涙をのんで登ってきた道をくだった。11年前の9月のことだった。

それまで三十三間山へ登るには、倉見からのルートしかなかったが、平成15年、今津山上会の手によって、天増川集落から県境沿いに三十三間山へ登り、大御影山から近江坂をくだって、ビラデスト今津までの周回ルートが開かれた。

今回、新ハイ高島さんの例会でその新しいルートを通り、天増川集落から三十三間山へ登る計画があったので、前回に見られなかった三角点に会えると思い、参加することにした。ただ、地形図で測ると、山頂までの往復が約14㌔もあり、一般向きといえない長い距離だった。

8時前に熊川道の駅へ集合し、天増川集落前の広場へ移動する。この日の参加者は新ハイメンバー14名と、つるが山楽会3名の計17名である。人員を確認、ルートの説明の後、集落西にある神社の横から斜面に取り付く。標高差230㍍の急登だった。始めは杉林をジグザグに登るが、やがて雑木林に変わる。登るにしたがい雑木疎林になり、太いブナ・ミズナラが目につきだす。急斜面に浅く切られた道は滑りやすく、たちまち汗が吹き出てくる。山楽会の3人は、後ろをつかれると気になるのか、「先へ行ってください」と、マイペースで登ってくる。30分も登るとカヤの繁った県境尾根の平坦地。以前は大根畑であったというが、今ではその面影はない。

三十三間山山頂

ひと息入れ、さらに急坂をしばらく登ると一つ目のピーク。そこも比較的平坦で木も疎ら。尾根には点々とマツカゼソウの群落が続いている。尾根が北東へ曲がると、せっかく登ってきたのに標高差120㍍もくだらなくてはならない。左杉、右雑木林の尾根である。ここも急な斜面で、ひたすら滑らないようにくだる。林の切れ目から尾根の西斜面が見えたが、北山と同じような杉の植林が広がっている。

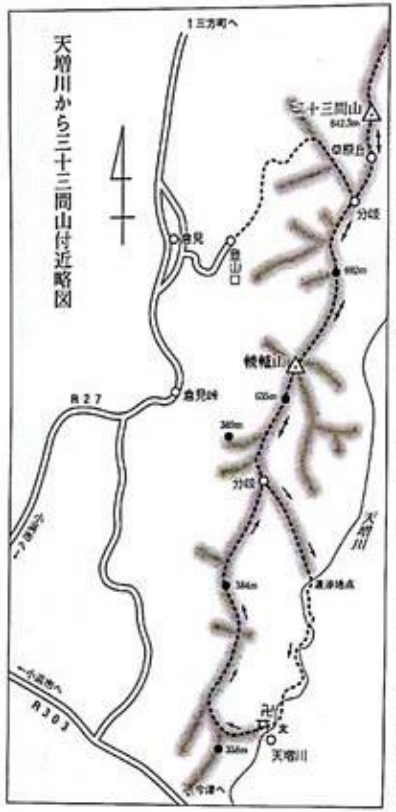
左杉林、右雑木林の県境尾根を登り返す。右手の林には、花が終わって実を付けているナツエビネがあちこちに残っていた。尾根がだんだん広くなると杉の林は消え、すばらしい雑木疎林へと変わった。ソヨゴ・ミズナラ・ブナ・カエデが立ち並び、秋が深まれば、その趣は一層深まるにちがいない。鹿や猪が遊んでも何らおかしくない情緒ある林である。尾根が細くなり、急坂を登り切ると尾根分岐。ここで三回目の休憩をとる。時間は10時20分だが、やっと約半分来ただけ、目的の山頂はまでまだ先だ。

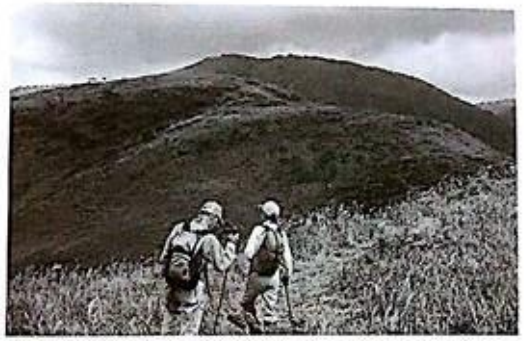
ゆるく登って行くと、樹木の種類も変わってきた。リョウブやミズナラの低く細い木が増え、雪が多く積もるのか、斜めに生えている木々が目立ちだす。小ピークを越え、尾根を右手へ曲がると、そこで初めてトリカブトの花の群落に出会った。上を見ると、ヤマボウシの実が赤く熟して秋を告げていた。時間があれば果実酒をつくるのに採りたかったが、まだ目的の山の姿も見えず、帰りにと思い採るのは諦めた。

斜面を登り、道が分岐して紛らわしいピークをくだると、その先の斜面は木が無くなりコザサとカヤの斜面。登り切った標高635㍍に立つと、目の前に4等三角点のピークが横たわっていた。

斜面に付いている踏み跡をたどると、道脇には紅や白のゲンノショウコの花が点々と続いている。時折、黄色のカタバミの花も目につく。足首程のササ原にはタンポポのようなノボロギクの丸い綿毛があちこちに散らばっていた。そこをくだった鞍部はトリカブトの群落。花の間から三方五湖を背景に、嶺南牧場や若狭ゴルフ場が見下ろせ、絵になる風景が広がっていた。

登り切った所が、近江側では鞍嶺山と呼ばれているピークだった。山頂西には





鍾馗山のかなたに三十三間を望む

今津山上会が建てた鍾馗山と書かれた標柱が立っており、近くの岩陰の草むらには、初めて出会う4等三角点、点名「大石谷」がひっそりと隠れていた。

ピークに立つと360度の大展望。前方のふくらみのはるか向こうに三十三間山が見えており、すぐ右手には三重嶽から湖北武奈ヶ嶽への尾根が連なり、西には三方五湖や上中町の町並が見下ろせた。南には蛇谷ヶ峰から武奈ヶ岳が、目の前の駒ヶ岳の後に百里ヶ岳が見え、多田ヶ岳の右手に若狭の海が広がり、遠くには青葉山が霞んでいる。

まだ11時20分だったが、この場所であたりの風景を楽しみながらの昼食となる。だが、「これから先、1時間も登らなくては……」と思うと、オチオチ飲んでもいられない。すすめられるアルコールを断って、ひたすら食べることに専念する。吹く風が冷たく、汗に濡れた身体にはよけいに寒さがこたえる。

「何でそんなに寒いんだ?」と、ご機嫌な人が1人いたが、こちらは寒さに耐え切れず、ザックを背負って出発を待つ。12時5分、リーダーを促して出発してもらう。歩き出して小ピークを越えると、こんな所にも池がある。鈴鹿の池守さんなら、早速シジミを探すところだが、こんな池にシジミがいるはずもなく、横目で見て通過。そこからの登りは歩きにくい灌木帯になる。両側には黒い実を付けたタンナサワフタギが立ち並び、林の中に道が開かれ、切り株があちこちに残っていて、右に左に避けながらの歩きだった。

最後のピークを越える所まで来ると、いつの間にか黒い雲が流れ、山頂はガスに覆われている。おまけに、雨までパラついてきた。天気予報にはなかった雨で、ほとんどの人がここで雨具を着用する。背丈程のササの密生地に入ると、やがて、倉見からの登山道へ出た。ススキをかき分けて登ると草原の丘。ここで山楽会の3人が荷物番で残り、空身で三十三間山への最後の急坂を登る。いつしか雨はやんでいた。

13時5分、山頂到着。山頂からの展望は無く、わずかに林の切れ目から上中町の付近が見えるだけ。三角点は山頂広場の北の端に立っていた。点名は「三十三間」で、標高842・3㍍。ここまで徐々に高度を上げてきたので、こんな高さまで登ったという実感がない。標石は西向きで、西から南へ10度振っている。以前と変わらず、東南の角が欠けたまま。

この三十三間山という山名は、昔、この山の中腹に上野郷という地区があり、そこには高さ100㍍以上もあるヒノキがそそり立っていた。この木を30人の木樵が一ヶ月かかって切り出し、京都三十三間堂の棟木としてつかったことから、三十三間山と名付けられたと伝えられている。ちなみに、三十三間堂は天台宗妙法院派に属する蓮華王院内の堂で、正面の柱の数からこの名で呼ばれ、法華経に説く観世音菩薩の三十三分身説に基づいていて、堂内には鎌倉初期の康明一派の手による1001体の仏像が安置されている。1165年、後白河法皇の建立した古建築中最長の仏堂である。

ススキの原を行く

山頂で写真を撮り、すぐ下山。下の広場を13時25分に出発し、登ったルートを戻る。鍾馗山を過ぎ、草原状のピークをくだり、灌木の林へ入ると、再び雨が降り出す。帰りに採ろうと思っていたヤマボウシを摘むどころではない。ひたすら薄暗くなった道をくだる。

尾根分岐地点へは14時45分に戻る。ここから登りのルートと分かれ、東にのびる尾根をくだった。始めは勾配もきつくない雑木の疎林だったが、くだるにつれ急になってくる。ついには崖のようにも見える斜面をくだることになった。何人もの人が滑り、尻に泥を付けていた。先頭は生真面目に急勾配の尾根をまっすぐくだって行くが、何人かは大きく右に左に振ってジグザグにくだって行く。

次第に谷の水音が大きくなると、尾根も終わりに近い。最後の急斜面の手前で、ウリ坊の死骸を見て谷へ降り、滝の横から杉の林へくだると、目の前には5㍍もある天増川が塞ぐ。橋は無く、この川を渡渉するしか術はない。1名を除いた他の人は靴を脱いで渡り、林道へと出た。

天増川沿いの林道をアケビやホオズキを眺めながら歩き、16時15分、天増川集落の広場へ戻った。

例会案内には一般向きとあったが、距離も長く、変化ある展望を楽しめるルートだった。こんなルートを歩かせてもらった高島リーダーに「感謝!」。

(平成15年9月27日歩く)

▲コースタイム▼

天増川集落(30分)尾根(1時間40分)分岐ピーク(1時間)点名大石谷(1時間)三十三間山(1時間)点名大石谷(40分)分岐ピーク(45分)天増川林道(40分)天増川集落

<地形図>

2万5千=熊川

文学歴史探訪ハイク ㊹

高野山町石道を訪ねて

松永恵一

町石道

九度山の慈尊院から高野山の大門へ通じる表参道を高野山町石道という。一町（約109㍍）ごとに建てられた五輪塔形の町石が、真言密教の根本道場、現世浄土高野山へと導く。梵字が刻まれた高さ3㍍を超す角柱は、お大師さまの生地讃岐の花崗岩という。壇上伽藍の根本大塔横の一町石から慈尊院裏手の百八十町石は胎蔵界百八十尊に当てられ、根本大塔から奥の院までの三十六の町石は金剛界三十七尊とされる。三十六町ごとに四本の一里石が配されている。総延長約24㌔。白河・鳥羽上皇、藤原道長・頼通から庶民まで多くの真摯な参拝者が、一町ごとに合掌礼拝をしながら登った。数え切れない足跡が残る祈りの道は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の「高野山町石道」として登録されている。

開山の折お大師さまは木製卒塔婆を建てて道しるべとされたが、鎌倉時代に石造五輪塔形の町石卒塔婆に建て替えられた。文永二年（1265）、朽ちてしまっているので、石造のものに建て替えるようにと覚教上人にお告げがあり、後嵯峨上皇や鎌倉幕府に願い出た。安達泰盛が建立の勧進に尽力し、20年の歳月をかけて弘安八年（1285）に完成した。時あたかも二度の元寇の国難を経験した時期であった。寄進者名・建立年月日などが刻まれている中に、「十方施主」「十方檀那」の四文字だけが刻まれた卒塔婆が六基ある。お大師さまを慕い平和を願う名もない庶民にいたるまで、男女、上下分けへだてなく多くの人々が真心込めて寄進した。数度の補修で五十基ほどが再建されたが、今もなお風雪に耐えて創建当時のままで残る。

路面の改良、東屋風の休憩所、道標とイラストマップ、案内板の設置などの修復整備がなされた町石道を歩くと、信仰の道を実感することができる。

五十九町石と六地蔵

上皇・摂関家の登山

治安元年（1023）10月、御堂関白藤原道長は申刻（午後4時頃）に高野政所（慈尊院）を徒歩にて出発し、山中仮屋で宿り、翌日申刻に金剛峯寺に着いたと『扶桑略記』は伝える。歩いて高野へ登ったと伝える記録から、お大師さまと高野山に対する道長の並々ならぬ信仰心を読みとることができる。

永承三年（1048）10月、藤原頼通は父道長に習って高野山に参詣している。

白河法皇は寛治二年（1088）参詣登山された。上皇の参詣は最初で前代未聞と驚かれたと『白河上皇高野御幸記』は記す。奥の院に三万の燈明を献じて理趣三昧を修し、自らも一燈を捧げられた。今に伝わる白河燈である。高野山には三回参詣されている。

鳥羽上皇は、平治元年（1124）10月、大治二年（1127）10月には白河法皇・覚法法親王と一緒に、長承元年（1132）の、都合三回高野山に参詣登山され、『鳥羽上皇高野御幸記』が残る。

夏の日中をはずして、町石道の途中で休息あるいは一宿し、1日から2日をかけて徒歩で高野山に登られている。

後宇多法皇の御幸

鎌倉末期の正和二年（1313）8月、後宇多法皇は高野山に御幸された。8日丑刻（午前2時頃）慈尊院を徒歩で出発。五里の山道に入られた。「朕宝山に入る」と歓喜の御涙を流され、町石一本ごとに立ち止まり礼拝念誦されながら登られた。

途中雷雨に打たれ、道はぬかるみとなり、疲労困憊の極から気絶された。お薬をさしあげ休憩の後、輿をすすめた。

「汝いまだ知らずや。慈尊院より壇場に至る百八十本の町卒塔婆は、胎蔵界百八十尊を顕し、奥之院より壇場に至る三十七本は金剛界三十七尊である。故に卒塔婆の面に其種子をあらわしている。もし今生に結界の霊地を歩まなければ、来世には悟りの境界に昇ることはできない。深雨も厭うことはできない。物詣は穢土より浄土に詣でる心で無量の罪垢を滅し、足下に八葉の蓮台を開いて歩むのである。たとえ幾日かかろうともこの行を緩めるつもりはない。」衣の裾は泥土にまみれ、雨露に打たれて24時間かけて歩いて登られたと、『後宇多法皇高野御幸記』は伝える。法皇がお大師さまを慕ひなさったことは、実に切なるものがあった。

元寇と高野山

幕府は御家人を北九州に集結させ、玄界灘沿岸に石造防塁を築き、元の再度の襲来に備えた。その頃丹生都比売神社にお告げがあった。「元の大軍が日本に向かって船出をしたが、丹生明神はことごとく撃退するであろう」と。「異国降伏」の祈祷を行った。神殿が鳴動し稲妻が走り、丹生明神は鳥に姿を変え、一斉に西の空に飛び立った。「元寇に赴く四社明神像」が金剛峯寺に伝わる。丹生明神・高野明神・気比明神・厳島明神の四神が雲に乗って空を舞う姿が描かれている。

弘安四年（1281）夏、「神風」が吹き荒れ、約14万人・4千隻の元の大軍船団はことごとく海の藻屑と消えた。

幕府は丹生都比売神社に「銀銅蛭巻太刀」を贈った。蛭が巻き付いたように金属版を螺旋状に巻き絞めた太刀拵は、国宝に指定され、東京国立博物館に収められている。

南院の「浪切不動明王」は、賢隆阿闍梨以下60名の僧侶を率いて福岡志賀の島に籠り、敵前に護座護摩を修し火界の呪を唱えて元軍覆滅を祈り、神風と相まって国土の鎮護を全うせられた。

袈裟掛石（五十五町石付近）

コース概観

東西南北さまざまな方向から歩いて野を越え山また山を越えて高野を目指した。内八葉外八葉と呼ばれる峰々に囲まれた弥勒仏や阿弥陀仏の浄土、お大師さまの御山高野山に多くの善男善女が一生に一度、さまざまな想いを抱いて精進して登った。

古人の足跡をたどって高野への想いに触れてみようと、世界遺産「高野山町石道」を訪ねてみた。

南海高野線九度山駅下車。「女人高野」慈尊院の総門をくぐる。丹生官省符神社の石段の脇に百八十町石がひっそりとたたずんでいる。境内を抜けると右に勝利寺が見える。勝利寺境内には紙漉が体験できる紙遊苑がある。急な坂を一つずつ数字が減っていく町石に導かれながらひたすら登る。百六十九町石の施主に親鸞上人の妻恵信尼ではないかといわれている比丘尼西方恵信の名が見える。富有柿の畑のなかをさらに登って行くと展望が開け、青く輝く紀ノ川がゆるやかな蛇行を描いている。

百五十八と百五十九町石は勧進に尽力した安達泰盛が建立している。百五十七町石を少し登ると樫まき石がある。お大師さまが灯明の油を採るために樫の木の種をまいた所と伝える。百五十六町石との間の平地は銭壺と呼ばれる。奥の院の墓石を運ぶ人夫たちが逃げ出すのを防ぐために、日当は壺に手を突っ込んで握った銭をつかみ取りにさせたという。

百五十四町石で左に登ると、雲がかかると雨が降るといわれている雨引山（477㍍）の頂上。大日如来を祀る。しばらくゆるやかな坂道を楽しむ。百四十八町石を過ぎるとお大師さまの石仏に迎えられる。この地で奥の院御廟を拝んだ。百四十四町石の横に一里石が立つ。三十六町で一里。石段で整備された道を登り切ると六本杉峠、百三十六町石が立つ。町石道はここで直角に左に折れる。分岐点には碑伝形式の板碑がある。町石道に入らず、六本杉峠をそのままっすぐくだると丹生都比売神社に至る。

やがて天野の里が木の間隠れに見えると百二十町石の二ツ鳥居に着く。高さ一丈七尺（5・6㍍）、幅二間（4・7㍍）の石造りの大きな鳥居が二つ並んでいる。高野山が開かれた翌年、木の鳥居が建てられたのが最初という。慶安二年（1649）現在の鳥居に改められた。

百十五町石まで下りが続く。百十六町石のやや下方には白蛇明神を祭る垂迹岩がある。百十三町石あたりから紀伊高原カントリークラブの芝生が見えてくる。右に応其池がある。豊臣秀吉の高野山攻めを寸前のところで食い止めた木食応其上人が、丹生都比売神社の御供田である神田の里のために築造した溜め池と伝わる。のどかな神田の里の光景が気持ちよい。百十二町石近くに神田地蔵堂がある。

横笛が出家後、滝口入道に一目会いたさにこの堂に来て入道を待った所。

緑の小道を進み、ちょうど半分の九十町石に出会った時には笑みがもれた。なだらかな上り下りを楽しみながら歩く。八十三町石あたりから所どころ、樹木の間から高野の山々が望まれる。七十二町石付近に三里石。急な坂をくだると岩肌で小さな見守り地蔵が優しく微笑んでいる。六十町石の立つ矢立、高野山道路に出る。狩場明神の射た矢が杉の木に立った所と伝える。矢立砂捏地蔵は、欲張らずに心を込めてお祈りすると幸せがやってくるという幸せの地蔵さん。車に注意して横断する。矢立茶屋の香ばしく焼かれた薄い焼き餅、疲れた体にはたまらない。

民家の間の舗装路を入ると五十九町石が立ち、六地蔵の出迎えを受ける。急な登りの階段が待っている。五十五町石を過ぎると袈裟掛石がある。高野山は女人禁制。お大師さまの母君が禁を破って登って来られた。石に袈裟を掛け思いとどまるように諭されるが、越えられようとした。突如雷鳴がとどろき、火の雨が降ってきた。お大師さまはとっさに岩を押上げ、母君をかくまった。五十四町石の先の押上石には今もお大師さまの手形が残っている。また、袈裟掛石の下をくぐると長生きするという。

どんどん林のなかを登る。四十町石手前で再び高野山道路を横断する。左右共にカーブになっているので気をつけて渡る。東屋の休憩所からは紀ノ川方面の重畳なる山々。三十九から三十七町石は高野山道路に建つ。やがて四里石。二十七町石のそばに鏡石がある。十二本の角の生えた娘が泣きくれていた。お大師さまは、12人の子供を産みなさい。1人産むことに一本ずつ角が消えると教えた。この姿見の石を鏡石と呼んでいる。

渓流沿いを進む。真新しい木橋が所どころ架けられている。木の香が気持ちよい。十二町石から最後のきつい登り坂が始まる。急な木の階段を登り切ると大門。道路を横切ると仁王様が微笑んで迎えてくれる。門をくぐった左側に六町石がある。五・四・三とカウントダウンを楽しみ根本大塔の一町石へ。じんわりと喜びがこみあげてくる。

＜コースタイム＞

南海九度山駅（20分）慈尊院（1時間40分）六本杉峠（30分）二ツ鳥居（1時間10分）笠木峠（50分）矢立茶屋（1時間50分）大門（10分）根本大塔（20分）千手院橋バス停（バス11分）南海高野山駅

＜地形図＞2万5千＝橋本・高野山

＜費用＞難波駅～九度山駅　770円
千手院橋～高野山駅　280円
高野山駅～難波駅　1230円

（問い合わせ先）

高野山観光協会　0736（56）2616

南海林間バス高野山営業所　0736（56）2250

〈山のレポート〉
山の地名を歩く㉓

「立山」

西尾　寿一

全国に「立山」の山名を頂く山は多い。

しかし、その代表格として不動の地位にあるのは越中の立山をおいてほかにはない。北アルプスで最も早くから人々の注目をあびた山だったのではないかと思われるが、その証拠は山名にある。

「立山」とはいかにも単純明快な山名ではあるが、そこに秘められた日本語の語意の深さは隣の剱岳などと同列に扱えるものではないのである。

『日本百名山』を書いた深田久弥氏は、さすがにこの両山を外していないが明らかに登山人の癖が出て、剱岳（深田本では剣岳）に肩入れしている。登山家はどうしても登高欲をそそる山を上位に扱う習性があるが、一種の職業病のようなものなのだろう。

「剱岳」の部分で「立山は、今の立山ではなく、剱岳であろうという見解を私は持っている。太刀（剣）を立ちつらねたようなさまであるから『たちやま』と名付けられた」とあり、その証明として「万葉集」巻十七の大伴家持の歌にある「司名加比河（片貝川）の清き瀬に……」や、「岩の神さび……」などをあげている。つまり片貝川の奥の岩峰となれば剱岳しか考えられない、と現代人の地理感覚を優先させるのだが、一方で「立山」の項では、さすがに「剱岳盟主論？」を一部修正するかのように「雄山神とは立山のことである（中略）昔は立山も剣も一様に立山と総称されていたに違いない」と、一歩引いていて百パーセントの自信がなかったことを表明している。

剱岳に心情的にせよ肩入れしたが、どこかすっきりしない後ろめたさが残ったからだろう。片貝川の水源は剱岳ではなく、毛勝・猫又であり、剱は早月川であるから地理的整合性も極めてうすいといえる。

また、「岩の神さび……」のくだりは家持が片貝川を知っていて幾度となく渡り、そこから立山連峰をタテ位置で眺めた経験のあったことがうかがえる。

小生は、先の古歌は剱岳というよりも、立山連峰全体を表現する強力な証明であるように思える。

谷有二氏は「富士山はなぜフジサンか」の中で様々な立場からの論点を詳細に紹介している。立山の歴史を順を追ってほとんど修正の余地がないほどである。

そして「立山」がいずこの山か、について三通りの立場があると分類するのだ。

一　太刀山がすなわち剱岳である
二　立山・剱岳ともに「たちやま」である
三　双方の混同は最初からあり区別の要なし

この分類では、タチヤマが最初の頃に連峰に冠されたのが次第に「太刀山」など他の名称も付加され、のち剱岳は最終的に分離したとする意見は採用しないのだが、便宜上この説を第四の説として別個にあげておきたい。

さて、先にあげた「万葉集」の大伴家持の歌はどの場所で詠まれたのだろうか。おそらく当時の国府の置かれた高岡と思われるが、現在の越中の中心、富山市より西に遠く、より立山連峰の全貌がはっきり見える土地だ。

高速道路を夜行すると早朝の立山連峰が屏風のように目前に展開する様子は、夏であれ冬であれ他ではめったに見られないほど荘厳な姿である。その迫力満点の風景を家持は詠んだのであり、その情景は現代人も共有することが可能である。

立山連峰の末端近くに位置する富山では、大日岳の大きさに立山はかくれるが高岡から少し内陸に入ると連峰は厚味を増してより迫力が出る。この視点を尊重すると立山の偉大さは現実味を帯びる。

立山の諸記録は立山信仰をもって始まると述べるが、それ以前は自然崇拝で無記録時代である。しかしながら記録が無いからといって全く信仰が無かったわけではない。

司馬遼太郎の『街道を行く』の一節にモンゴルからやって来た老人が富士の姿をみて、やおら懐から香炉を取り出し、ほのかに薫ずる紫烟のなかで何やら呪文のようなものを唱え伏拝する姿を、はるか昔の山岳信仰を憑依するかのように語っているのを思い出す。

立山にもそのような時代があり、山は神の座所（御在所山などはその表現）であり、登ってはならない対象だった。

それが修験の時代に積極的に山と神の霊力を同化する意味で「登拝」が行われるようになった。山の総体ではなく登るべき山の絶頂（峰・ピーク）が問題にされてゆくなかで、地名・山名も細分化が進むのである。

「万葉集」の歌中にある「越の中」とは、白山と立山の両連峰の中の国にほかならない。それが今日の「越中」であるのは誰でもわかるが、その中の国から見た立山は、日本語の語意からみて一連の山脈全体を指していることは明らかである。現在の立山や剱岳など個別の峰を意識する態度とは、その山へ登る意志にほかならない。それが修験であったとみたい。

また立山の姿より剱岳がよく見え目立つという論も変である。人は見えるものより見えない部分に興味を示すものだ。日本海から立ち上がる山脈は次第に高度を加え、剱岳で終わるのではなく、さらに奥へ連なってゆく。気安すく見えるのは多くの場合前衛である。神の好む場所は見えざる奥の秘所である。これを「奥津城」と称したのである。

立山を現在はタテヤマと言うが、元はタチヤマであった。なぜそれがわかるかは「多知夜麻」であるからだが、おそらくタチヤマの前に「タツヤマ」があったと思われる。

タツ（立つ）タチ（太刀・館）タテ（縦・建・楯）タケ（竹・タケル）など幅広いタツ系がある。

タテはタテ・ヨコのタテであり、タテは日本語の垂直と前後に貫くという二つの方向性を意味する。そのタテがタチ（太刀）と同音なのが立山と剱岳との混同もしくは混乱の元となっているわけだが、その前にタチヤマがあり、さらにタツヤマがあったとみられるから問題が複雑となった。

しかし、日本語の語意を考えるみると、タツ（立つ）が最も源意に近いと思われる。静止状態から、すくっと立ち動き出す姿をとらえているからである。タツ・タチは共に立山の成立に深い役割を演じていたと思われる。

それでは「タチヤマ」がなぜ「タテヤマ」に変化したのだろう。どうやらこのあたりに謎を解く鍵がありそうだ。

「タツ」「タチ」は自動詞であり、自からが自主的に行動する意であるのに対し、「タテ」は他動詞であるから全く意味が異る。

人間の意向に関係なく自然神としての山が自から立ち上がっている雄々しい姿に畏敬の念をもったから「タチヤマ」が成立したのに、いつの間にか「タテヤマ」になり果ててしまったのである。タテは、波をタテ、音をタテ、建物をタテ、のように他動的であり、波がタツ・タチのように自然が自から動くのと反対の意であり、これでは、立山神も人間の意志によって造られたかのような形式になってしまう。

立山信仰は修験によって古代山岳信仰そのものを根本から変化させてゆくのである。

自動詞から他動詞への変化は、絶対的な存在であった立山神が人間の手の届く位置まで零落してしまったことを意味する。

大峯山の奥駈も始められた以降に各峰の名が生じたはずであり、「大峯山」も部分的な峰の名称ではなく、山脈の総体のことである。

白山が戸隠がそうだし、この国の山のほとんどがその形式を踏まえているのであり、立山もその例に外れるものではない。

こうしてみると「タチヤマ」とは屏風のように連なる連峰として扱うのが自然のように思われる。越の国とはその山を越えねば行けない国の意であることは自明であった。

「タチヤマ」は記録の残されない時代から存在したはずである。万葉集の初出をはるかに遡る時代の無字時代に「タチヤマ」があって、その時代の越中の国がいかなるものであったか、それを知るのでなければ本当の「立山」は理解されないだろう。

先にあげた先学二論は、記録が始まる時代から以後の「立山」論であり、それ以前にタチヤマと呼ばれていた時代にあまり光が当てられていないきらいがあるようだ。

高山は神の領域であり総体である。部分を問題にするのは後年のことであった。

この意味を踏まえて考察すれば、立山が現在の立山か剱岳かの議論はあまり意味がない。立山は連峰全体のことであって、個々の峰に名称が欲しくなるのは修験以後のことで、そこには登拝から「登高」への変化が認められる。

現在も登山の対象となる山の名称（地名）は細分化され続けている。それは必要から生まれるものだ。古代山岳信仰においては山を細分化してゆく必要など無いのであり、現代人はそのことを失念しているのである。

小生は前出のうち第四の説をあえてとりたいと思うのである。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

特選コースガイド 1

比叡

奥比叡北部縦走

宮めずらから大尾山

中級コース（★★）

金谷　昭

多くの人に愛されている比叡山は、ケーブルやドライブウェイによって登山のおもしろ味に欠けると言われている。しかし、稜線北方の奥比叡は、いまだ残る深山幽谷や琵琶湖の展望があり、変化に富んだ縦走が楽しめる。

一般には比叡山から北に向かって縦走し、横高山・水井山を経て仰木峠から大原にくだるか、さらに縦走をのばして大尾山に達して大原三千院にくだっている。ここで紹介する大尾山から北の稜線はほとんど歩かれていないようで、静かな縦走が楽しめる。

足となるバスの関係から比叡山脈北端のピーク「宮めずら」から南下して、始発バスの多い大原にくだるほうが、下山時間に縛られない。途中越から府県境を忠実に南に縦走することも考えられるが、近くに拠点場があり、またやぶ漕ぎを強いられるので、途中越手前の林道を利用する。

京都バス朽木線の三谷口で下車し、途中越へ5分程歩くと右側に林道が出てくる。鎖のかかった林道に入って100㍍も行くと分岐になる。まっすぐにのびる谷沿いの林道が地形図記載の点線路であるが、谷奥で廃道となっている。そこで、右の林道をたどって行くと、二つ目の支尾根末端に登ってゆく作業道が左側に出てくるので、これに取り付く。

作業道は一つ目の支尾根との谷に入り、折り返して二つ目の支尾根の山腹に取り付いてやがて途切れるが、その手前で左の伐採された山腹に取り付く。支尾根稜線の右側植林との境界を登って行くと、奥比叡主稜線沿いに走っている先に別れた林道に飛び出す。林道は殺風景であるが、南比良から北山の「天ヶ森」の展望を楽しみながら北に向かって行く。やがて尾根稜線が最も迫ってくるので、そこから尾根に向かって入り込む。一投足で稜線の踏み跡に飛び出し、左にとって稜線の琵琶湖側をゆるく登ると「宮めずら（めずら　魚の子山）」の頂上である。3等三角点（552・4㍍　点名小出石）の標石が、琵琶湖側は檜と杉植林、大原側は雑木に囲まれた小広場にひっそりと佇んでいる。残念ながら琵琶湖の展望は得られない。

宮めずら頂上

この三角点峰を昭文社のエリアマップ「京都北山」では「魚の子山」、そしてそのすぐ北のピークを「宮メズラ山」と称している。以前地元の古老に尋ねたところ、二峰の区別はなく、現三角点峰を古来から大原側小出石では「宮めずら」、近江側伊香立では「めずら」と呼ばれていて、後になって山名が余り知られていなかったので、「宮めずら」が頂上近くに達する魚の子谷から「魚の子山」と名

付けられ、その北峰が「宮めずら」と誤まって名付けられたらしい。魚の子山は「魚の子谷の頭」と呼ぶべきであろう。なお「宮めずら」の山名由来は定かでない。

頂上を後にして南に向かって縦走に入るが、小出石峠までは尾根分岐が多く、ルートはかすかな踏み跡程度で読図力が必要である。ともかく府県境稜線を忠実にたどればよい。先の合流点からの二つのピークは共にやや左に振りながらのやぶ漕ぎであるが、主稜線すぐ右下を平行して走る林道をマークすればよく、場合によっては林道を歩いてもよい。二つのピークを越えると、迷いやすい所は少なくなり、やや明瞭となった踏み跡をたどればよい。

小出石峠は暗い杉植林のなかにあり、峠道と縦走路とは斜めに交差する左に分岐する琵琶湖側への明瞭な峠道に入らず、やや右に峠道を乗り越えるようにして尾根にのることが肝要である。なお右の峠道は小出石の敦賀街道脇の神社に降りられ、逃げ道として使える。

峠からは西南方向に走る下生えのない杉植林の尾根をたどって行くと、切通しの伊香立越となる。最近は使われなくなり荒れてはいるが、踏み固められた峠道は、京都大原と近江伊香立とを結ぶ歴史を秘めた古い峠である。

切通しの小さな崖の急な踏み跡をくだり峠道に立ち、少し大原側にくだってから尾根に取り付く（ロープ有り）。ここからの縦走路は明瞭となり、これまでの植林に変わって雑木林も出てくる。左右に振りながらの尾根をたどると、独立標高点603㍍と思われる所の道脇には「一等基準点、三等水準点、公共NO9、大津市」が設置されている。このあたりから大尾山に向かって急登が出てくるが、縦走路は独立標高点630㍍付近からは、手入れのよい送電線巡視路となる。展望も良くなり、左下に舗装林道が走っているのが見え、堅田分岐が出てきて、少し行くと右に大原ゴルフ場への分岐が出てくる。この道をたどれば大原古知平に降りられるが、送電線巡視路のため途中で無くなり、やぶ漕ぎを強いられる。

展望の良い送電塔を過ぎれば、やがて大尾山（堂畑山）の頂上となる。檜やアセビに囲まれ、2等三角点（681・4㍍）、点名大原村）の標石が置かれている。東側の一部が開かれていて琵琶湖大橋を眼下にし、湖東平野と背後の鈴鹿山地が眺望できる。

山頂を後にして西の尾根から大原にくだる。尾根道はすぐ分岐となり、一般に

は谷に向かってくだっている左の明瞭な支尾根をたどって谷源頭にくだり、谷沿いに音無滝へと歩かれている。最近の台風による倒木のため少し歩きづらくなっている。一方、先ほどの分岐を右に入り、西尾根をそのままとって音無滝の上部の谷分岐にくだってもよい。

音無滝にくだれば大原三千院の観光客の歩く遊歩道となり、土産物屋の立ち並ぶなかをのんびりとくだればよい。

宮めずらの登山道について

大原側からは前述のごとく、地形図記載の頂上に達する点線路は谷奥で消える

が、そのまま谷をつめれば稜線近くの大原側と平行する林道の北終点近くに出られる。しかし、やぶ漕ぎの急登を強いられるのでおすすめできない。

近江側からは、堅田からバスにて還来（もどらず）神社で降り、バス停横の暗い植林の林道に入る。すぐに簡易水道取り入れ口の小谷を右に見て、廃道に近い林道を行く。左岸を行く林道が右岸に渡ってしばらく行くと、再び左岸に渡る所で道路を横断する埋設コンクリート排水管が露出している。その表面にマジックインクで「宮めずらへ」と書かれてあり、渡ると右に作業道が分岐し、これをたどればよい。マジックインクがいつまで明示されているかわからないが、ここが要注意地点である。

小尾根に付けられた作業道は山腹で終わって分岐となる。右の明瞭な作業道は間伐作業地で消えるので入らず、分岐より上にのびるやや不明瞭な急な直登の道をとる。直登の道はやがて左に折れて行くが分岐で右に折り返して山腹を大きく捲いて行く。再び分岐となり左に折れ、以後直登となる。上部稜線が明るくなってきて道がやや右に寄り、今までの植林と稜線を境として雑木の尾根近くになると道は消える。上部に向かって登れば府県境尾根に飛び出し、「宮めずら」の北峰となっており、境界尾根が西北に折れる所でここで初めて比良権現山の展望が得られる。この境界稜線の東北面の雑木には、すばらしいシャクナゲが一大群落となっている。

尾根の踏み跡を南にたどり、いったん鞍部にくだり、登り返せば約10分程で「宮めずら」の頂上である。

（平成17年3月12日例会にて歩く）

＜コースタイム＞

（縦走コース）

三谷口バス停（1時間10分）宮めずら（1時間）小出石峠（25分）伊香立越（30分）一等水準点（40分）送電線巡視路「ゴルフ場」分岐（20分）大尾山（1時間10分）音無滝（20分）大原バス停

（近江側より宮めずら）

還来神社（18分）林道分岐（10分）作業道分岐（40分）北峰（10分）宮めずら（10分）北峰（25分）作業道分岐（5分）林道分岐（15分）還来神社

＜地形図＞2万5千＝大原

特選コースガイド②

湖西

（里山シリーズ29　今津）

分水嶺のかくれ道
赤岩岳から水坂峠

一般コース（★　）

長宗　清司

JR湖西線近江今津駅前から小浜行きのJRバスに乗る。今津町内からやがてバスは石田川沿いにうねうねと走り、落合のバス停あたりに来ると、正面奥に形のよい山並が見えてくる。赤岩岳から湖北武奈ヶ嶽の連峰である。

水坂トンネル手前の「近江角川」で下車し、角川集落へ北上する。集落通過後、そのまま石田川左岸を徐々に登りつめると、石田川ダムサイト駐車場に着く。

出発は、このダム広場からさらに上流へ右岸に沿って100㍍ばかり行くと、けもの道程度の登り口がある（簡単な目印だけなので注意）。

昔の作業道は、近江坂から分岐して三重嶽、さらに武奈ヶ嶽の延長尾根にある赤岩岳へのびているが、今回のコースは直登気味に最短距離を赤岩岳へ登る道なので、他のコースより厳しい。それだけに時間は稼げる。

最初は杉の植林帯のなかを歩く。やがて道が少し腹巻くようになって右の沢に出合う。水場から少し登ると勾配は少しゆるやかになり、疎林帯を抜けると、角川集落光明寺裏山から武奈ヶ嶽を結ぶ縦走尾根上にある、赤岩岳三角点標前に出る。

この赤岩岳からは、武神嶽（湖北武奈ヶ嶽）に向かう途中、次の鞍部を越えた小ピークの逆V形尾根の分岐点から南下（枝折れ）して、赤岩岳と一つ谷を挟んだ支尾根を急下降する。

実は、この尾根が日本海側と太平洋側の分水嶺である。全国の分水嶺はほぼ県境尾根の場合が多いが、ここは同県同市内の小さな支尾根が分水嶺というめずらしい場所である。

始めは、踏み跡があるかなしかのやせ尾根で露岩が多く高木がなく、イバラに悩まされる小尾根だが、やがて灌木からコナラなどの中木群のなかを歩くようになり、下生えも少なくなる。

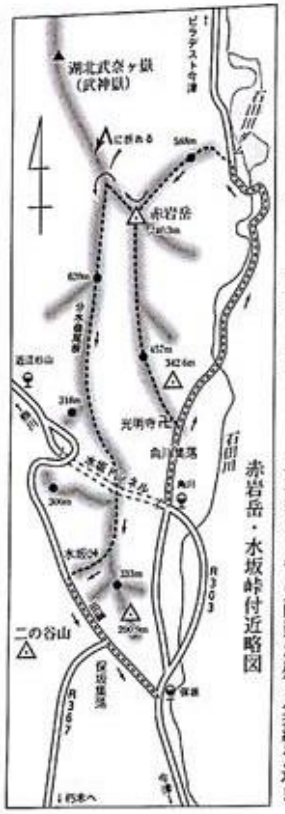
独標620㍍からは忠実に尾根をぬう。どんどん下降して急に左折し、小峠状の鞍部に降り立つ。ここで目の前のピークに向かって上がらないと、とんでもない方向に出てしまうので注意する（読図が必要）。

やせ尾根の起伏を繰り返し、トンネル近くの下界の道路が見え隠れするあたり、右へくだればいずれも旧水坂峠道に降りられる。

昔から、若狭（福井県）から近江（滋賀県）へはいくつかの峠越えの道があり、若狭の海で水揚げされた魚介類を近江や京まで運んだ。なかでも鯖が主流を占めていたことから、後に「鯖街道」と呼ばれるようになった。昔は、人かせいぜい荷車・馬で運んでいたので、それぞれ鯖街道と名乗ったが、いまは国道303号線を上中町、熊川宿を通って（旧）水坂峠に出て、途中で右折して国道367号線を朽木から安曇川沿いに峠越えするのが便利なので、このコースを「鯖街道」と呼んでいる。

水坂峠から昔の面影が残る集落を過ぎれば保坂のバス停はすぐ近くである。

（平成16年7月25日・11月28日歩く）



赤岩岳・水坂峠付近略図

≪コースタイム≫

JR近江今津駅（バス30分）近江角川バス停（15分）角川集落（40分）石田川ダムサイト（5分）赤岩岳登山口（30分）水場（40分）赤岩岳（30分）分水嶺分岐点（1時間）620㍍独標（1時間）旧水坂峠（5分）水坂集落（10分）保坂バス停（バス25分）近江今津駅

≪地形図≫2万5千＝熊川・饗庭野

（問い合わせ先）

今津町観光協会　☎0740（22）2108

JRバス今津　☎0740（22）2136

近江タクシー　☎0740（22）0106

赤岩岳から水坂峠へ（唯一眺望がきく所）

10月刊

日本全国四〇〇〇山の情報を網羅！

新日本山岳誌

北は択捉・国後などの北方四島の山から、南は西表・石垣などの南西諸島の山まで、足で書かれた四〇〇〇山。日本山岳会の英知がここに集結。山を愛するすべての人々に、日本の山のことを知りたい方々に。最新・最大の山岳百科がついに完成！

日本山岳会編　菊判（一九九二頁）
上製／クロス装／カバー掛け／函入り
定価一八、九〇〇円（税込）

十月下旬刊行　予約受付中。

★表示の価格は5％税込です

ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111　〒606-8161

特選コースガイド③　鈴鹿

—続・近江側から登る鈴鹿の山々㉖

古い参道を登る 阿弥陀ケ峰から横道へ

中級コース（★★）

磯部　純

阿弥陀ヶ峰は、霊仙山塊の北方に位置する。霊仙山三角点峰から見ると、単なる尾根先端のコブにすぎないが、米原方面から見上げると、ドーム状の山容で独特の風貌を見せてくれる。昔、この峰の一端に、霊仙寺の阿弥陀堂があったことから名付けられたといわれており、その参道が今でも切れ切れではあるが残っている。ピークに三角点は無いが、一度は登ってみたい山である。

JR醒ヶ井駅から南へ入り、上丹生から左の細い道へ入る。左から来る二つ目の林道脇に上丹生谷山谷浄水場があるが、ここが登り口である。この浄水場の東から尾根に取り付くと、尾根には古い道が残っている。道は杉林の急斜面に切られているが、今は歩く人も無いのか、道を覆いつくす雑草でわずらわしい。何とか道跡を見失わないで登って行くと、支尾根にのり、そこから再び杉林の急斜面を登ることになる。先程まであった道はいつの間にか消えてしまっている。斜面をトラバース気味に登り、主尾根が間近になると再び道が現れる。足下にはサンショの小木が目立つようになり、麓の人々が足繁く通った名残なのだろうか、草陰には里の植物であるホオズキが自生している。あたりを見渡すとナツエビネの葉が残っていたが、花はどこにも無く、ヤマシャクヤクの赤い実だけが目につく。細尾根から広い斜面に変わるとそこは二次林の林。ピークを越え、再び細尾根を登って行くと、その先にはヌタ場があり、ここには昔の参道らしい立派な道が残っていた。

さらに登ると、道の傍らにケヤキの大木を見る。地上1㍍の所を測ると幹廻り4㍍以上の古木で、南の尾根から見てもはっきりとわかるほどの大木である。そこから上の尾根へ出ると、真新しい赤い燈明台が二本立っている。道は消えかかっていても、古を偲んで祀る人がいるとは、信仰の不可思議さを垣間見たような気がする。そこからわずか登ると阿弥陀ヶ峰で、展望は全く無い。いちばん高い所に岩があり、その周りは雑木林で、北面は杉の林。岩の上の枝に阿弥陀ヶ峰の標識が下がっているだけだった。

時間に余裕があって阿弥陀ヶ峰から霊仙山へ向かう場合には、尾根を東にたどって柏原道に出ればよいが、今回は横道を通るルートをとる。

山頂から東へくだると阿弥陀ヶ峰の池。林に囲まれた暗い池で、1人で来たら、あまり長居したくない陰気な池だ。そこから沢に沿って、沢の10㍍程上のやぶ斜面を南へ廻り込みながらくだると、魔洞口と呼ばれる谷山谷本流と井戸ヶ洞からくる谷の分岐点へ降り立つ。時間が無い時には、ここから谷山谷一般道をくだればよい。

横道へは岩のゴロゴロした急勾配の魔洞道を登るが、Qちゃん池、三蔵池や山田さんの縦穴を見るには、横道分岐の上にある左の谷を登ればよい。谷をつめると奥にQちゃん池があり、そこから西に向かった尾根に三蔵池がある。さらにその西の尾根には山田さんの穴があるが、ここを見るには時間と相談しなくてはならない。

今回はひょうたん池を訪れてから横道をくだるので、横道の標識から右へ向かい、すぐの水の無い谷を上流へ登る。谷をつめるとやがて傾斜は無くなり、そこには静かな二次林の林が広がっている。ちょうど標高点884㍍の南に当たり、左手には井戸ヶ池があるが、今では水が無く池とは呼べなくなっている。さらに南へ廻り込むと、平坦地の奥にひょうたん池がある。あたりは雑木の林で、10㍍四方程の池が水を溜めている。池のすぐ南側には直径1㍍程の穴が開いていて、覗いても底が見えず、どの位深いのかわからない。落ちたら上がることができないので、落ちないように注意。

池からいったん標高点884㍍のピークへ登り、そこから北へ向かう尾根をくだると、やがて横道に降り立つ。

横道は登山案内書には載っていない道で、上丹生にあるバス停前の八百屋の主人が切り開いたと聞いている。あまり斜度も無く、山腹をゆるく西にくだって行く。林の切れ目から、谷を挟んで北に踏んできた阿弥陀ヶ峰が横たわり、その左肩に登りに見たケヤキの大木がはっきりと見えている。

以前はしっかり付いていた横道も、平成16年の台風による土砂崩れで、二ヶ所も道が切れてしまった。深い溝状のガレ場と幅広いガレ場があり、落石に注意しながら慎重に通過しなくてはならない。広いガレ場を過ぎると、道の終点から小石がゴロゴロする一の谷をくだるが、この谷も土石流が道を分断しているので、歩きやすい所を選んでくだる。慎重にくだって行くと、やがて谷山谷道へと降り立つ。

ここからは谷山谷道をくだる。両側から迫ってくるような狭い谷である。谷は伏水になっている。コーモリ穴を左に見てさらにくだるが、思っていた以上に駐車場までは遠い道のりである。

（平成12年8月20日

・平成16年10月3日歩く）

阿弥陀ヶ峰山頂

阿弥陀ヶ峰・横道付近略図

▲コースタイム▼

JR醒ヶ井駅（車25分）谷山谷浄水道（2時間30分）大ケヤキ（15分）阿弥陀ヶ峰（10分）阿弥陀ヶ峰池（40分）魔洞口（30分）横道分岐（30分）ひょうたん池（30分）横道（1時間30分）谷山谷道分岐（40分）駐車場（20分）谷山谷浄水道

＜地形図▽

2万5千＝彦根東部・霊仙山

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽万歩ハイキング「橿原の里の布袋葵と遺跡を訪ねて」　9月3日(日)雨天中止〈集合〉橿原神宮前駅西改札口前9時30分～10時15分〈コース〉橿原神宮前駅―久米寺―橿原神宮―畝傍山―畝火山口神社―神武天皇陵―本薬師寺跡（布袋葵）―紀寺跡―天岩戸神社―香久山―藤原宮跡―おふさ観音―今井町―大和八木駅（約13㌔）参加自由・無料（拝観料等は別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽駅長お薦めフリーハイキング「義経が歩いた喜佐谷から象の小川を訪ねて」　9月10日(土)雨天決行（荒天の場合9月11日(日)に延期）〈集合〉吉野駅9時30分～11時〈コース〉吉野駅―如意輪寺―稚児松地蔵―滝―妹山―本善寺―吉野神宮駅（約14㌔＊係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料等は別途）、下市口駅0747（52）2422

▽万歩ハイキング「北・山の辺の道全コースを歩く」　9月11日(日)雨天中止〈集合〉近鉄奈良駅東改札口9時30分～10時15分〈コース〉近鉄奈良駅―興福寺―春日大社―新薬師寺―白毫寺―八坂神社―崇道天皇陵―円照寺―弘仁寺―石上神宮―天理駅（約20㌔）参加自由・無料（拝観料等は別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽近鉄・南海・朝日合同企画「和泉葛城山から"西年御開帳大法要"の大鳴山へ」　9月11日(日)雨天決行（荒天の場合12月4日(日)に延期）〈集合〉南海・岸和田駅9時～10時〈コース〉岸和田駅（バス）牛滝山―牛滝山大威徳寺（受付）―和泉葛城山―五本松―大鳴山七宝瀧寺―大鳴山（バス）泉佐野駅（約11㌔）参加自由・無料（バス代、拝観料等は別途）、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽駅長お薦めフリーハイキング「初秋の彼岸花・葛城古道と"醤油の匠"を訪ねて」　9月15日(木)雨天決行（荒天の場合は9月20日(火)に延期）〈集合〉近鉄御所駅9時30分～12時〈コース〉近鉄御所駅―鴨山口神社―希水の塔―九品寺―一言主神社―片上醤油蔵―長柄神社―野口神社―鴨都波神社―近鉄御所駅（約11㌔＊係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料等は別途）、高田市駅0745（53）2531

▽読売ふれあいハイキング「談山神社から飛鳥の地へ」　9月18日(日)雨天中止〈集合〉近鉄桜井駅9時30分〈コース〉桜井駅（バス）多武峰バス停―談山神社―気福倭既神社―石舞台古墳―橘寺―川原寺跡―高市池古墳―岡寺駅（約10㌔）参加自由・無料（バス代、拝観料等は別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽駅長お薦めフリーハイキング「日本の道100選・暗峠を越えて」　9月23日(祝)雨天決行（荒天の場合9月24日(土)に延期）〈集合〉枚岡駅9時30分～12時〈コース〉枚岡駅―枚岡神社―芭蕉句碑―豊浦橋―笠塔婆（弘法の水）―暗峠―石仏寺―南生駒駅（約7㌔＊係員は同行しません）、瓢箪山駅0729（81）2144

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「高城山・三郎岳」　9月23日(祝)雨天決行（荒天の場合9月24日(土)に延期）〈集合〉榛原駅南口9時～9時30分〈コース〉榛原駅（バス）高井バス停―（室生古道）―仏隆寺―高城山―三郎岳―血原橋バス停（バス）室生口大野駅（約8㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代含む）、（申込先）江若交通本社077（573）2701

叡山電車

▽叡電ハイク「夜泣峠・向山・賀茂川堤・出町鯖街道起点」　9月21日(水)・24日(土)雨天中止〈集合〉二ノ瀬駅9時30分～10時〈コース〉二ノ瀬駅―夜泣峠―向山―高橋―（賀茂川堤）―出町商店街―鯖街道起点（約11㌔一般向）参加自由・無料、叡山電車営業課075（702）8111

▽フラワーウォーク「貴裏ヶ岳・静原」　10月12日(水)・15日(土)雨天中止〈集合〉岩倉駅9時30分～10時〈コース〉岩倉駅―寮見坂―貴裏ヶ岳―静原（コスモス鑑賞）―薬王坂―蔵馬駅（約10㌔一般向）参加自由・無料、叡山電車営業課075（702）8111

神戸電鉄

▽駅長ハイク「地獄谷西尾根コース」　9月10日(土)雨天中止〈集合〉大池駅下車地獄谷入口10時〈コース〉大池駅―地獄谷西尾根駅（約9㌔＊係員は同行しません）参加自由・無料（バス代960円は各自払い）、榛原営業所0745（82）2201

▽読売ふれあいハイキング「義経ゆかりの地・吉野を訪ねて」　9月30日(金)雨天中止〈集合〉吉野駅9時30分〈コース〉吉野駅―（温泉谷）―如意輪寺―稚児松地蔵―吉野水分神社―金峯神社―吉野水分神社―花矢倉―竹林院―勝手神社―吉水神社―金峯山寺蔵王堂―銅の鳥居―吉野駅（約12㌔）参加自由・無料（拝観料等は別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

京阪電車

▽スポニチファミリーハイク「貴船・二ノ瀬ユリ」　9月4日(日)小雨決行〈集合〉叡電貴船口駅9時30分～10時〈コース〉貴船口駅―貴船神社―奥貴船橋―滝谷峠―（ユリ道）―樋ノ水峠分岐―大岩分岐―富士神社―二ノ瀬駅（約11㌔中級向）、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

▽スポニチファミリーハイク「くろんど園地からほしだ園地へ」　10月16日(日)小雨決行〈集合〉天田神社境内（河内森駅下車約5分）9時30分～10時〈コース〉天田神社―寺地区―住吉大社―（かいかけの道）―標示―くろんど池―すいれん池―きさいちゴルフ場―磐船神社―府民の森・ほしだ園地（やまびこ広場―交野吊橋・星のブランコ―ピトンの小屋―森林鉄道風歩道橋）―私市駅前公園―私市駅（約14㌔一般向）参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

京都バス

▽三角点トレック「百里ヶ岳」　9月3日(土)・10日(土)小雨決行〈集合〉京阪出町柳駅コンコース8時～8時30分〈コース〉出町柳駅（バス）小入谷越―シチクレ峠―県境尾根出合―百里ヶ岳―県境尾根出合―根来坂峠―焼尾地蔵―小入谷橋（バス）出町柳駅（約10㌔健脚向）参加定員各200名（申込制1ヶ月前から）無料（バス代別途）、（申込先）京都バス運輸部営業課075（871）7521～2

▽三角点トレック「奥比良縦走」　10月月1日(土)・8日(土)小雨決行〈集合〉京阪出町柳駅8時～8時30分〈コース〉出町柳駅（バス）村井―地蔵峠―ヨコタニ峠―ボボフダ峠―流谷の頭―蛇谷ヶ峰―カツラ谷分岐―朽木ふれあいの里（バス）出町柳駅（約13㌔健脚向）参加定員各200名（申込制1ヶ月前から）無料（バス代別途）、（申込先）京都バス運輸部営業課075（871）7521～2

江若交通

▽こうじゃくMtハイキング「朽木百里ヶ岳から若狭上根来へ抜ける」　9月8日(木)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時5分〈コース〉安曇川駅（バス）小入谷峠―百里新道―シチクレ峠―百里ヶ岳―木地山峠―小浜市上根来（バス）安曇川駅（約9㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代含む）、（申込先）江若交通本社077（573）2701

▽こうじゃくMtハイキング「紅葉の芦生ブナ原生林散策」　10月20日(木)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時5分〈コース〉安曇川駅（バス）若走路出合―ナベクボ峠―三国峠―長治炭作業所―栃の木平―地蔵峠―生彩（バス）安曇川駅（約8㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代含む）、（申込先）江若交通本社077（573）2701

—ダイヤモンドポイント—記念碑台—シュラインロード—有馬口駅（約11㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽神鉄ハイキング「有馬富士公園とさんだネスパハイク」　9月18日(日)雨天中止〈集合〉三田駅10時〈コース〉三田駅—三輪神社—有馬富士公園—さんだネスパーフラワータウン駅（約11㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽火曜ハイク「魚屋道・有馬三山コース」　9月20日(火)雨天中止〈集合〉有馬温泉駅下車魚屋道登山口10時〈コース〉魚屋道—一軒茶屋—極楽茶屋跡—番匠屋畑尾根—湯槽谷山—灰形山—落葉山—有馬温泉駅（約12㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽神鉄ハイキング「逢山峡と小川谷ハイク」　10月2日(日)雨天中止〈集合〉有馬口駅9時〈コース〉有馬口駅—逢山峡—小川谷—極楽茶屋跡—カンツリーハウス（約10㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽木曜ハイク「仏谷洞窟・太山寺コース」　10月6日(木)雨天中止〈集合〉木津駅9時30分〈コース〉木津駅—仏谷洞窟—（太陽と緑の道）—太山寺—天然ラジウム温泉なでしこの湯—地下鉄学園都市駅（約11㌔一般向）参加自由・無料（拝観料、入場料は別途）、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽火曜ハイク「シュラインロード・上野道コース」　10月11日(火)雨天中止〈集合〉有馬口駅9時30分〈コース〉有馬口駅—逢山峡—シュラインロード—穂高湖—掬星台—五鬼城展望公園—阪急芦子公園駅（約14㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽花と歴史と愛のまち、かさいハイキング「加西清水寺・石部神社コース」　10月15日(土)雨天中止〈集合〉北条鉄道北条町駅10時30分〈コース〉北条町駅—清水寺—石部神社—皇塚古墳公園—北条町駅（約14㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽駅長ハイク「三木の名所旧跡をめぐるコース」　10月22日(土)雨天中止〈集合〉緑が丘駅10時〈コース〉緑が丘駅—千体地蔵—伽耶院—御坂サイフォン—志染の石室—三木震災記念公園（仮称）—緑が丘駅（約15㌔一般向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽木曜ハイク「つくはら湖・呑吐ダムコース」　10月27日(木)雨天中止〈集合〉栄駅10時〈コース〉栄駅—呑吐ダム—三木震災記念公園（仮称）—緑が丘駅（約11㌔一般向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

山陽電車

▽山陽ハイキング「鉢伏山から旗振山・おらが山たそがれハイク」　9月4日(日)雨天中止〈集合〉須磨浦公園駅下車（須磨浦山上遊園展望閣前）18時〈コース〉須磨浦山上展望閣—鉢伏山—旗振山—鉄拐山—おらが山—高倉台—須磨寺—須磨寺駅（約5㌔家族向）＊懐中電灯必携、参加自由・無料、須磨浦遊園㈱ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「林崎掘割から明石西公園をへて柿本神社・天文科学館ハイク」　9月18日(日)雨天中止〈集合〉中八木駅下車（北西0・5㌔大久保浄化センターせせらぎ公園）10時〈コース〉せせらぎ公園—林崎掘割—野々池貯水池—王塚公園—明石西公園—明石公園—天文科学館—人丸前駅（約14㌔一般向）参加自由・無料、須磨浦遊園㈱ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「朝日山史跡ハイク」　10月2日(日)雨天中止〈集合〉網干駅下車（東0・3㌔狭間公園）10時〈コース〉狭間公園—魚吹八幡神社—大津茂川左岸—瓢塚古墳—朝日山公園—津市場—網干駅（約12㌔一般向）参加自由・無料、須磨浦遊園㈱ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「京見山から夢前川河畔ハイク」　10月16日(日)雨天中止〈集合〉天満駅下車（広畑高浜公園）10時〈コース〉広畑高浜公園—京見会館登山口—京見山山頂—才の地蔵尊—夢前川河川敷右岸—夢前川駅（約10㌔一般向）参加自由・無料、須磨浦遊園㈱ハイキング係078（731）2520

せせらぎ

題字・小林玻璃三

2005年　春から夏へ

4／24　鈴鹿の福王山へ。桜が満開。奥宮には深山片喰の花。山頂からの下りに道を失い二度戻る。

4／30　熊野古道。梅ヶ谷駅からツヅラト峠へ。姫萩や伊豆千両の花に足を止める。展望台からの眺望は絶佳。遠く熊野灘を望む。

5／4　大紀町大平つつじ山へ。満開の躑躅のなかをのんびり散策。

5／21　宮川村の泉浅間山へ。眼下に渇水の宮川。総門山や大熊三山を望みつつ、昨年の豪雨禍を思い、流域被災地の復興を祈る。

5／28　松阪ゴルフ場の裏山、点名「下蛸路」に登る。笹百合が一輪だけ咲いて得した気分に。餅躑躅・定家葛・藪紫なども開花中。

6／5　台高二階岳。今年も霧のなか。濡れた銀竜草が、はかなげに美しい。衝羽根空木・谷桔梗・藪手毬の花。杜鵑・郭公の声。林道をくだる車窓から見えた花は、熊野水木・大葉麻殻・深山藤木だったろうか。来年こそは晴れた日に巡り合いたい山だ。

（松阪市　藪木伸人）

今年の5月の連休は天候に恵まれ、毎年続けている氷ノ山の定点観測に4月29日に入山した。

残雪が多いので今年こそ「犬の雪形」が見られると期待したが、形が崩れていた。ここ数年犬に出会えないのは、周囲の雑木が大きくなり雪の付き方が変わったからなのかも知れない。

今一度、立派な犬を見るまで来年も再来年も通い続けることにしよう。

残念なことばかりではなかった。

昨年は台風の当たり年で、兵庫県西北部の山地は壊滅的な被害を受けた。そのため、ツキノワグマの食料であるブナを始めドングリ類が全滅になり、人里へ降りて多くが犠牲になった。

そのブナやナラ類が今年は花をたわわに付け大豊作が期待できるので、台風が上陸しないのを祈るばかりである。

また、残雪が多かったため「スズタケ」採りの入山者が少なかったので、腹いっぱいタケノコを食べた様子が排便で確認できた。

今後も、彼たちと共生するのだが、人間の傲慢と身勝手だけは箱に収めてほしい。

（姫路市　須磨岡　輯）

○新ハイ関西サービスチェーン

名鉄・二岐登山　小白森—大白森—甲子・那須への縦走基地　1名でも歓迎　り駅送迎可（要予約）　露天風呂と内湯

福島・二岐温泉
日観連　大和館
〒962—0621
福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉
電　0248—84—2021
F　0248—84—2705

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリモミ純林）
三国山の麓
ペンション　コットンテール
〒401—0502
山梨県南都留郡山中湖村平野
電　0555—65—8515

大糸線運賃中最安から松尾模分岐点
駅至・岩風呂あり
JR中央線塩山駅下車タクシー10分
バス20分登山口下車後徒歩2時間
山小屋　福ちゃん荘
〒404—0022
山梨県塩山市上萩原2882
電（自宅）0553—33—4639
（山小屋）0330—14—79215

尾瀬、平ケ岳縦走と釣りの山小屋
越後三山只見国定公園内
露天風呂と手打そばの
清四郎小屋
〒946—0000
新潟県魚沼市鷹の巣（東頸山）
電　0090—2558—0028
期間外（11月～4月）は
0257—92—5026

5月の氷ノ山・鉢伏山の花巡りは、私にとって、貸切バスによる泊まり山行のデビューとなった。

初日はあいにくの台風並みの強風に鉢伏山の稜線歩きは悲惨な目に遭ったが、これもアッという間に通り過ぎてくれたため、後半は順調に草花を探し求める花歩きが楽しく続いた。

夜は私のお気に入りの民宿「喜楽屋」さんで和やかに、お花の余韻に包まれながらの交歓が繰り広げられた。

2日目は大快晴のなか、サイシンシロガネソウの待つ氷ノ山だ。グリーンシャワーを浴びながらの登山に勝るものはない。

お目当てのサイシンシロガネソウは期待どおりの清楚なお花で、メンバー達の、一瞬の驚きにも似たうれしそうな表情に安堵した。

しかし何はさておいても、バスを仕立ててのの山行は初めてで、さすがに慣れない身にはこたえた。適切なアドバイスをいただきながら無事何事もなく終えられたことは、参加者の皆さんのご協力の賜物と大きな感謝でした。

（長岡京市　田中　明）

NHKから取材の申し込みがきた。何でも私が三角点の山登りに熱中しているからだという。1等三角点を登っている仲間から、私が1等三角点の山登りにとくに熱中している、と紹介されたという。

もちろん1等三角点登りでは、人後に落ちないと思っているが、特に発表の場があるわけではないので、実情は不明である。

本来派手なことは得意でなく、どうするか思案したが、日本の1等三角点登頂は、すでに終了に近いことだし、「年齢を考えても、こんな機会は滅多にない」と妻も言うので、出演することにした。

三角点に関しては、全くの素人の担当者に対し、三角点は何かということから、地図やら写真やら、点の記まで大量の資料を提出させられ、きりきり舞の大騒動で、山登りの現場からスタジオでの録画まで、話があってから2ヶ月間は出かけられず、おかげで今年の山行計画は大きく崩れてしまった。

ところで、番組は「熱中時代」（5月中旬放映）というタイトルで、今回は「3」に熱中している人達のことで、とくに山登りには関係がないと聞き、少しがっかりしたが、テレビに出るからには派手に行動しようと、国土地理院の院長にも面会し、東京の新ハイキング社にも立ち寄った。

考えてみるに、「熱中」とは調子がよいが、要するに何かにとりつかれたもので、他の出演者を見ても、びっくりするようなことをしている人達ばかりであった。

（一等三角点研究会　山形歳之）

山行短歌

4月22日　南紀熊ノ森山
花終わるのちも雄滝離線向い合い
しずかなる時重ねる鋭峰よ

4月27日　美濃舟伏山
忘れ得ぬイワザクラの想い出
分かち合いたき君の瞳の中に

5月3日　鈴鹿三国岳
ゆりかごの小径の片栗揺れて
神の寝息にそっと立ち去りぬ

5月8日　但馬妙見山
坐禅草の沼地に君のまぼろしが

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-2100 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉
電 0255-86-2261

休憩昼食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139
電 0460-4-9041

尾瀬登山ハイキング入山口
天然温泉で山の疲れを
水芭蕉の湯
ヴィラ風花（KAZAHANA）
〒378-0411
群馬県利根郡片品村戸倉445
電 0278-58-7051

四季織りなす乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき造りと味の宿・日帰温
温泉旅館　けやき山荘
〒390-1500
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電 0263-93-2555

髪なびかせ山を駆けてゆく

5月11日　但馬鉢伏山
また逢いに来るよ山芍薬の花に

約束した日記のページ折る

5月14日　奥高野護摩壇山
遠きシャクナゲの森に揺れつつ
歳若く逝きし母の影を呼ぶ

5月19日　大峰観音峰
山芍薬の群れる斜面に額づけば
樹林を淡き光がつつみこむ

5月21日　加賀大嵐山
逢えてよかった群生地の水芭蕉
花過ぎれば開たちこめる園に

5月25日　越前取立山
白山の冬の終わりを告げるかに
雪解けの湿原に水芭蕉開く

5月28日　大山三鈷峰
頂きに立ち空の鳥になるために
両手をひろげ天空を見据え

（吹田市　木村太郎）

自然観察で草木の名を説明したり、山座同定で山名を告げたりしたときに、自身の心の中に「アレ?」という疑問符が生じたら、その説明は間違っていることが多いものです。

草木の名や遠くの山名の間違いくらいなら、山行中のアクシデントにはつながりませんが、これがルートの誤りともなると、笑って済ませられるとは限りません。今月号の紀行（20ページ）のような「事件」にもなれば、リーダーにはトラウマ（?）として残ってしまいます。

山行中、ルートなどに関する疑問は、どんな小さな場合にも、きちんと納得できるまで追究すべきなのでしょう。

実は6月の例会一泊山行でも、「アレ?」という疑問符の追究をおろそかにしたため、大きく時間をロスし、会員の皆さんにご迷惑をかけてしまいました。

2日目の鬼面山。最終の登山口までは無事に下山したのですが、バスとの待合せ場所の豊丘村の方角を誤り、正反対の喬木村に出てしまったのです。最終登山口から車道を歩き始めた時、車道に沿って流れるはずの虻川が見当たらないのに気づきながら、そのことをきちんと追究しなかったのでした。

喬木村の親切なお爺さんの軽トラックの助手席に座り、バスの待機する豊丘村に向かいながら、いつも地元の人々に助けてもらうわが身の軽率さを深く反省していました。

ところで、鬼面山の虻川林道へのアプローチについて、ガイドブックでは豊丘村から紹介されていますが、喬木村大島から入ったほうが時間的にも早く、道路状態も良好で走りやすいことがわかりました。これだけは収穫でした。

（各務原市　鷲見守康）

下調べ不足の滑稽噺（わらいばなし）を二題。

5月下旬に1等三角点を二つを廻ろうと、福井の久須夜ヶ岳と京都の多禰寺山を計画した。

ところが久須夜ヶ岳エンゼルラインは災害のため通行止めとなっていて茫然とする。

事前の検索ではさも通れるようになっていた。気を取り直し、多禰寺山には無事登り、三角点と天測点を得た。

6月上旬に福井の多田ヶ岳を歩いた。

登山口は多田寺からと妙楽寺からと二つある。地形図の遠敷を見ると、多田寺から林道が約4㎞続いているので車を乗り入れ、楽しようとした。

さわやか信州
露天風呂　山吹の湯
湯田中温泉（穂波）
日野屋旅館
〒381-0400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
電 0269-33-3578

標高2000mの温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰高原
電 0267-25-2000

ハイキングに／スキーに／
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯線平床下車
電 0269-34-2421
東京本社・東京都新宿区新宿3-20-5（新光第2ビル）
電 03-3341-0211（㈱）スポーツサービス

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 0261-72-4452

ところが、林道は背の高い草が生い茂り、往復8㌔の林道歩きは辛い。あきらめて妙楽寺に廻り道い登り始めとなった。

急な取付からトラバースを繰り返した後、山頂は展望抜群！若狭湾周辺の山々がたたなずんでいた。（向日市　湯浅康夫）

5月下旬、九州の雲仙岳へ登った。

前日の夕方、地元の人のアドバイスで紺笠山（870㍍）へ登り、平成新山を確認した。

当日は、仁田峠からロープウェイで普賢神社へ参詣し、国見岳（1347㍍）・普賢岳（1357㍍）に登った。

国見岳・普賢岳へは杖も使えず、高齢者には厳しい急登だったが、短時間で登れるのが救いだった。これ以上望むべくもないすばらしい晴天下、普賢岳頂上から真正面に近ぢかと平成新山を眺めた。そして、大噴火により忽然と山が出現したことに驚嘆したのであった。

翌日は島原廻りである。深江の土石流被災家屋保存公園や雲仙岳災害記念館を訪ねて、大噴火がもたらした災害のすさまじさを厳しく認識された。そして壮絶ともいえる当時の地元の人々の不撓不屈の戦いに思いを馳せたのである。

この旅行においては、雲仙地獄めぐりのほか、仁田峠にて満開のミヤマキリシマを鑑賞したり、原城跡にていわゆる「島原の乱」当時を偲んだりもしたが、何よりも島原城大手前にある、「災害教訓の伝承と復興への誓いのため未来を照らす炬火として」灯し続けられている（平成新山の火）を決して忘れることはないだろうと思う。

異色な経験をさせられた登山旅行だった。

（枚方市　東谷　宏）

今まで登った山の記録を整理していると、動物の名の付く山が多いのに気がついた。哺乳類・爬虫類・魚類・鳥類と幅広く、蟻・蟻・蜂・イモリ等、実にこまごましたものまであり、これに十二支を加えると実ににぎやかだ。

ほかにはどのような動物の山があるのだろうかと地図を見ていると、東北の地に鯨がいた。その名もずばり鯨山（本誌18ページ参照）、地球上最大の動物だ。そして、この山に登らないわけにはいかぬ、と出かけた。

岩手県に入り、リアス式海岸を北上すると前方に見えてきた。海岸からいきなり立ち上がるトンガリ山で形が良い。この辺の海岸は浪板海岸といい、寄せる波はあるが返す波がないという不思議な海岸である。海沿いの民家の庭先に車を停めさせてもらう。海抜ゼロ㍍からの出発でわかりやすい、山の標高は610㍍。

山頂からは海ばかりがよく見え。海岸に白波が打ち寄せて消えていく様子がよく見えた。

ここの漁師はこの山に登って鯨の回遊して来るのを見張ったに違いないと、勝手に鯨山の由来を想像したが、地元の人に尋ねると、昔この地に流行病（はやりやまい）が出た時この海岸に一頭の鯨が打ち上げられ、その肉を食べたら病が治ったそうだ。その話を伝え聞いた北の方の病める人達が、「それはどこだ、あの山の下だ」ということで鯨山になったそうだ、病を治した鯨は後世永遠に名を残したのだ。鯨も偉いものだ。

帰宅してから地図を丹念に見ていると、鳥取県に象山があるではないか。象と鯨ではどちらが重いのか、どちらが偉いのか、象はどのようにして名を残したのか、昔山陰地方に象がいたのか、と心を悩ませることとなった。

（大里町　山形　明）

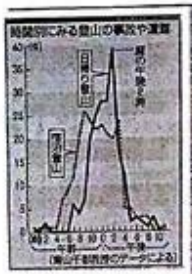
八ヶ岳南北縦走の中心地。高山植物の宝庫"檜新湯"。檜風呂・水洗トイレ・個室、昔ながらの薪ストーブ、美味しい名物料理「桜鍋」
オーレン小屋
（SHC会員500円割引）
〒391-0213
茅野市豊平2472　小平勇夫
電　0266-72-1279
http://www.o-ren.net
e-mail:o-ren@po.dcn.ne.jp

北八ヶ岳の登山基地。冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
蓼科高原
プチホテル　カナール
〒391-0301
茅野市北山蓼科高原笹丸平55
13の1
電　0266-67-2258

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高妻山・黒姫山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒381-4100
長野県戸隠村越水ヶ原
電　026-254-2081

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
飯村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638-0431
奈良県吉野郡天川村洞川
電　07476-4-0309

日帰り登山　午後2時ご注意



日帰り登山の事故や遭難は、昼の午後と夕方に集中する傾向にあるが、午後2時ごろを境に急増していることが、関西大学教授（危機管理学）の分析で示された。この時間帯は、登山関係者から「夜の午後2時」と呼ばれるが、データに基づいて裏付けされた。

関大教授が事故分析

「頂上で昼食後　注意力散漫に」

分析によれば、05～06年の山岳遭難事故のデータで、日帰り登山2011件、宿泊登山331件。日本山岳救急救助協会に届出し登山者が加入する「山岳保険・共済」が受けれる際に実施したアンケートのうち、有効なデータ分析に。

日帰りの事故は、午前10時ごろから急に増え、20時を過ぎ、午後2時ごろには夜の7割以上が発生。その後は夜に減っていた。一方、宿泊はどうしと傾向はっきりしなかった。

事故は続いたとき、転んだことがきっかけになっている場合が多い。青山教授は、「午後2時ごろ、日帰り登山客が山頂上に登って食事を済ませ、しばらくしたこと、疲労で注意力が散漫になる時間帯で、疲れと仕業が重なり中力の弱さが、重大な事故を起こしているようだ」と話している。

朝日新聞（H17.7.16夕刊）

御池岳でもシャクナゲ・ジェビネ・シロヤシオ。取立山ではミズバショウ・イワカガミ・タムシバ・赤いミヤマカタバミ。

平家岳では巨大なシロヤシオ、カタクリ・ヒメイチゲ・ミツバオウレン・タムシバ・シャクナゲが見られ、籾糠山ではサンカヨウ・タムシバ・ムラサキヤシオ・ヒメイチゲ・リュウキンカがきれいでした。

4月中旬から6月初旬までどこの山に行ってもタムシバの白い花は見られました。今年はタムシバの当たり年ですね。雪が多いと花の咲く時期は後ろへずれますが、皆一緒に咲く傾向です。来年も雪が多いと花もきれいで良いでしょう。

（羽島市　山田明男）

'05年7月2日に南アルプスの塩見岳に登った。

登山口から8時間もかかったきつい山で、梅雨のさなかでしたが、翌3日も晴れて360度、南アルプスの北岳・間ノ岳・仙丈ヶ岳・農鳥岳・赤石岳・荒川岳・東岳と富士山。中央アルプスの山々、北アルプスは穂高連峰から槍ヶ岳まで見られ、とても運が良かったと思います。

晴れ女を自称していますが、天気に関しては良い方についています。私といっしょに山へ行きましょう。晴天95％の保証つきです。（羽島市　山田妙子）

御在所登山に
愛知川渓谷沢歩きに
山好き仲間の集う宿
朝明渓谷
山小屋　朝明茶屋
〒510-1251
三重県三重郡菰野町千草
電　0593-93-1789

那岐山山麓の麓、近くに百名山の大山、二百名山の氷ノ山・上蒜山などあり。
三百名山　那岐山のふもと
岡山県　那岐山荘
〒708-1307
岡山県勝田郡奈義町高円
電　0868-36-4154

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09974-6-3021

上の記事は、ちょうど下山の時間に相当します。下山時に事故を起しやすいので、くれぐれも慎重に。

（代表　村田智俊）

山行計画
（9・10月）
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（株式会社損害保険ジャパンと契約）

死亡・後遺障害保険金額　1000万円
入院保険金　日額　5000円
通院保険金　日額　2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故　⑤病死の場合（詳細は本部まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

自記返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

9月	行先	定員	リーダー	サブリーダー
2(金)～4(日)	北アルプス・焼岳～西穂独標	18	狩野	
3(土)	奥美濃・毘沙門岳	20	鷲見	
4(日)	鈴鹿・大見晴～万野	*	岩野	
4(日)	湖南アルプス・太神山	30	塚元	
10(土)	奥美濃・蟹帽子嶺	*	金谷	
10(土)	鈴鹿・鍋尻山	20	山田	
10(土)	美濃・伊吹北尾根	30	鷲見	
10(土)	若狭・霊谷山	*	高島	
10(土)	鈴鹿・御所平～臼杵岩	*	筒井	
11(日)	青生・シンコボ（永谷）		森脇	
13(火)	大峰・大所山	*10	田中賢	
14(水)	丹後・多禰寺山	20	木村	
15(木)	大峰・白倉山～佛ヶ峰		西上	
17(土)	南島町・高山	*	尾崎	
17(土)～18(日)	北アルプス・乗鞍岳～西穂高岳	14	山田	
18(日)	比良・細川～武奈ヶ岳		秦	
18(日)	大峰・みたらい渓谷～観音平	15	田中明	
18(日)	鈴鹿・鎌石の丘～衣掛山～日本コバ	*	岩野	
19(月)	奥播磨・三室山	40	村田	
22(木)～25(日)	上越・谷川岳～武尊山～玉原高原	20	鷲見	
27(火)	比良・釣瓶ヶ岳～武奈ヶ岳	20	寺井	
27(火)	京津・音羽山～千頭岳～上醍醐		仲谷	
28(水)	京都北山・花折峠～天ヶ森		呉山	
29(木)	伊勢・白猪山	20	木村	

＊＝マイカー山行

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。

② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。

④ グレードは、次のように決めています。

（初級向き）初心者でも安全に歩けるコース（3～4時間コース）

（一般向き）日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山（5時間コース）

（中級向き）かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース（6～7時間コース）

（やや健脚向き）距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース（6～7時間コース）

（健脚向き）距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース（7時間以上）

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜（18時以降）の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください（リーダーから連絡はしません）。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

10月	行先	定員	リーダー	サブリーダー
1(土)～2(日)	越前・経ヶ岳～法恩寺山～三頭山縦走	20	鷲見	
1(土)	紀泉高原・昭和山	30	塚元	
2(日)	比良・桑野橋～蛇谷ヶ峰		秦	
2(日)	鈴鹿・ヒキノ～旭山～東山	*	岩野	
4(火)	鈴鹿・鬼ヶ牙～臼杵山	*10	田中賢	
8(土)	奥美濃・五蛇池山	*	金谷	
8(土)～9(日)	白山・三方岩岳～冬瓜山	14	山田	
8(土)～10(祝)	上州・妙義山～荒船山	20	鷲見	
9(日)～10(祝)	南勢・南赤山～高峰山	20	村田	
12(水)	北摂・るり渓～深山	20	木村	
15(土)	若狭・千石山	*	高島	
15(土)	鈴鹿・国見岳	*	尾崎	
15(土)	鈴鹿・七人山～御在所岳	*	筒井	
16(日)	鈴鹿・丸山～高室山	20	山田	
16(日)	鈴鹿・高取山～比婆山～イワス	*	岩野	
18(火)	北摂・箕面山～天上ヶ岳～外院尾根		仲谷	
20(木)	台高・峰山	24	西上	
22(土)	湖西・三十三間山～鏡糟山	22	狩野	
22(土)～23(日)	参詣道・水ヶ峰越～伯母子峠越	20	村田	
23(日)	奈良・当尾石仏の里		木村	
23(日)	六甲・五助山		古賀	
25(火)	台高・蓮川千石谷～笹ヶ峰	*10	田中賢	
26(水)	青生・シンコボ		呉山	
30(日)	京都北山・品谷山～廃村八丁		田中明	
11・2(水)～6(日)	九州中南部・霧島連山～市房山～白髪岳	23	狩野	

北アルプス

焼岳から西穂独標（中級向き）

期　日　9月2日(金)夜～4日(日)
　　前夜発1泊2日
集　合　(2日) JR京都駅八条口団体バスのりば22時30分
コース　(2日) 京都駅（バス）
　　(3日) 中ノ湯登山口―りんどう平―焼岳北峰―新中尾峠―西穂山荘(泊)
　　(4日) 西穂山荘―西穂独標―西穂山荘―千石平（ロープウェイ）しらかば平（バス）ひらゆの森（入浴・昼食・バス）京都駅（解散20時頃）
費　用　約27000円（バス、宿泊代等）
地　図　昭文社＝「槍ヶ岳・穂高岳」
係　　◎狩野東彦
申込み　〒610―0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊定員18名（会員に限る）
　　＊8月25日まで
　　夏山から秋山へ移行する時期、少し静かになった北アルプス南部を歩きます。雨天決行

自然観察山行186

奥美濃・毘沙門岳（一般向き）

期　日　9月3日(土)　日帰り
集　合　JR岐阜駅9時15分
コース　岐阜駅（バス）白鳥高原スキー場―林道取付点―毘沙門岳―（往路）―白鳥高原スキー場（バス）岐阜駅（解散）
費　用　約5000円（岐阜駅からバス代等）
地　図　2万5千＝石徹白
係　　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828
　　各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
　　＊定員20名
　　石徹白をめぐる山々の展望を歩きます。小雨決行

鈴鹿を歩く223

大見晴・万野（中級向き）

期　日　9月4日(日)　日帰り
集　合　国道307号線多賀町役場8時00分
コース　役場（車）御池林道ミノガ峠―大見晴―万野―西北尾根―御池林道（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　　◎岩野　明　○山田景三
　　○後藤康幸
申込み　〒610―0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊マイカー山行
　　大君ヶ畑の南にそびえる地味な山。大見晴と万野の稜線を散策します。雨天中止

地図読み山行70

湖南アルプス・太神山（一般向き）

期　日　9月4日(日)　日帰り
集　合　JR石山駅前バスのりば9時15分
コース　石山駅（バス）アルプス登山口―迎え不動―太神山―矢筈ヶ岳―御仏河原―アルプス登山口（バス）石山駅（解散）
費　用　約2700円（大敷から）
地　図　2万5千＝瀬田・朝宮
係　　◎塚元一彦　○中村　登
申込み　〒536―0008
　　大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元一彦まで
　　＊定員30名

新ハイキング関西支部と合同

地形図の読み方とコンパスの使い方を勉強しながら歩くこのシリーズも70回を数えます。GPSでは得られない楽しみを身につけませんか。初心者歓迎。雨天中止

奥美濃・蝙蝠子嶺（中級向き）

期　日　9月10日(土)　日帰り
集　合　樽見鉄道樽見駅前広場8時30分
コース　樽見駅（車）根尾西谷登山口渡渉点―908高峰―蝙蝠子峠分岐―蝙蝠子嶺―蝙蝠子峠分岐―蝙蝠子峠―登山口渡渉点（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝能郷白山
係　　◎金谷　昭　○磯部　純
申込み　〒610―0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊マイカー山行
　　奥美濃の古い歴史を秘めた旧道をたどって登ります。根尾西谷川の渡渉あり、流量によっては登る山を変更する場合があります（64号参照）。雨天中止

鈴鹿百山74

鍋尻山（健脚向き）

期　日　9月10日(土)　日帰り
集　合　JR米原駅東口8時10分
コース　米原駅（車）河内―岳の峠―鍋尻山―保月―林道―河内（車）米原駅（解散）
費　用　交通費各自
　　参加費500円（車代込み）
地　図　2万5千＝霊仙山・彦根東部
係　　◎山田明男　○高原芳彦
申込み　〒503―0535
　　海津市南濃町松山624の19
　　山田明男まで
　　＊定員20名程度
　　河内側から鍋尻山に登ります。雨天中止

自然観察山行187

美濃・伊吹北尾根（一般向き）

期　日　9月10日(土)　日帰り
集　合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）国見峠―国見岳―大禿山―御座峠―静鳥ヶ原―笹又―さざれ石公園（バス）大垣駅（解散）
費　用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地　図　2万5千＝美束・関ヶ原
係　　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828
　　各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
　　＊定員30名
　　秋の北尾根フラワートレッキングです。小雨決行

雲谷山（若狭町）（一般向き）

期　日　9月10日(土)　日帰り
集　合　旧三方町役場9時30分
コース　役場（車）三方石観音―雲谷山―（往路）―三方石観音（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝三方
係　　◎高島伸浩
申込み　〒610―0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊マイカー山行
　　雨天決行

鈴鹿避山12

御所平から日杵岩（健脚向き）

期　日　9月10日(土)　日帰り
集　合　石水渓望仙荘前広場8時00分
コース　白船林道―東谷―蕨谷―風ノ峰―御所平―腰元平―舟石―日杵岩―白船林道（解散）
費　用　参加費200円
地　図　2万5千＝伊船
係　　◎筒井克治
申込み　〒610―0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊マイカー山行
　　雨天中止

京都北山・シンコボ（永谷）（一般向き）

期　日　9月11日(日)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース　京都駅（バス）朽木生杉プナ原生林駐車場―地蔵峠―枕谷分岐―杉尾峠―ピーク―野田畑峠分岐―シンコボ（永谷）―野田畑峠―地蔵峠―プナ原生林駐車場（バス）京都駅（解散17時頃）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　　◎森脇貞義　○磯野重治
申込み　〒610―0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊定員40名
　　プナやトチの大木が残るすばらしいコース。自然を楽しみながらゆっくり歩きます。雨天中止

大峰・大所山（中級向き）

期　日　9月13日(火)　日帰り
集　合　近鉄橿原駅前8時10分／下多古林道并天岩駐車場9時10分
コース　下多古林道駐車場―琵琶滝展望台―大所山蛇腹尾根―大所山―駐車場（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝洞川
係　　◎田中賢治　○岡平くみ子
申込み　〒518―0626
　　名張市桔梗が丘6の2の18　田中賢治まで
　　＊定員10名
　　＊マイカー山行（5名まで乗合い可能。希望者はその旨明記ください）
　　下多古川左岸の大峰前衛峰、大所山を登ります。展望はありませ

んが、上部は自然林が広がる静かな山です。蛇腹尾根は一部岩場の通過があり、お助け紐3㍍程持参してください。小雨決行

ファミリーハイク66

丹後・多禰寺山（初級向き）

期　日　9月14日(水)　日帰り

集　合　JR新大阪駅―階正面口構内7時30分

コース　新大阪駅（バス）赤野―多禰寺―立江地蔵―多禰寺山―大浦ハイランド前（バス）たかお温泉（バス）新大阪駅（解散）

費　用　約4000円（新大阪駅からバス代）

地　図　2万5千＝青葉山

係　◎木村太郎

申込み　〒565―0854　吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで

＊定員20名（会員に限る）

白萩優しい多禰寺を訪ね、舞鶴湾や若狭湾を見下ろす1等三角点峰へ登る。雨天中止

大峰・白倉山から佛ヶ峰（一般向き）

期　日　9月15日(水)　日帰り

集　合　近鉄大和上市駅8時50分（55分発バスに乗車）

コース　上市駅（バス）西河―登山口―五社峠―白倉山―五社峠―佛ヶ峰―王峰―三角点ピーク―蜻蛉の滝―蜻蛉の滝公園―西河（バス）上市駅17・00（解散）

費　用　約3300円（阿部野橋駅から）

地　図　昭文社＝「大峰山脈」2万5千＝新子

係　◎西上利和

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

3月、雨で中止になりましたので、リベンジします。雨天中止

三重の山80

南島・高山（一般向き）

期　日　9月17日(土)　日帰り

集　合　伊勢自動車道玉城インター下車、正面のコンビニ9時30分

コース　インター前コンビニ（車）五ヶ所浦（車）磯柄浦―ハクラクさん―蔵部―高山（往路）―磯柄浦（解散15時30分頃）

費　用　1500円

地　図　2万5千＝賢浦

係　◎尾崎英五　○稲垣逸夫

申込み　〒519―0311　鈴鹿市大久保町2065　稲垣逸夫まで

＊マイカー山行

眼下に熊野灘のパノラマ。雨天決行

展望の山8

北アルプス・乗鞍岳と西穂高岳（健脚向き）

期　日　9月17日(土)～18日(日)　1泊2日

集　合　〈17日〉新幹線岐阜羽島駅北口7時10分

コース　〈17日〉岐阜羽島駅（車）朴の木平（バス）畳平―乗鞍岳―（奥の院）―畳平（バス）朴の木平（車）奥飛騨温泉（泊）

〈18日〉宿（車）新穂高温泉（ロープウェイ）西穂高口―西穂山荘―独標―（西穂高岳）―西穂高口（ロープウェイ）新穂高温泉（車）西岐阜駅（解散）

費　用　約20000円（岐阜羽島駅から車代・宿泊代・バス・ロープウェイ代含）

地　図　奥村さんの絵地図を用意し、差し上げます

係　◎山田明男

申込み　〒503―0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで

＊定員14名

乗鞍岳は時間があれば奥の院まで、西穂高は行ける所まで。独標までは行きたい。雨天決行

比良を歩く43

細川から武奈ヶ岳（中級向き）

期　日　9月18日(日)　日帰り

集　合　JR堅田駅バスのりば8時40分

コース　堅田駅（バス）細川―武奈ヶ岳西北稜―武奈ヶ岳―イブルキノコバ―北比良峠―ダケ道―大山口―イン谷口―比良（解散17時頃）＊歩行6時間

費　用　約2300円（京都から）

地　図　2万5千＝北小松・比良山

係　昭文社＝「比良山系」

◎桑　康夫

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

細川から尾根道をたどり、武奈ヶ岳頂上直下に出ます（本誌51号参照）。雨天中止

花巡り山行22

みたらい渓谷と観音平（初級向き）

期　日　9月18日(日)　日帰り

集　合　近鉄下市口駅9時10分（バス9時15分乗車）

コース　下市口駅（バス）天川川合―みたらい渓谷―観音峰登山口―観音平―（往路）―みたらい渓谷―洞川温泉（入浴・バス）下市口駅（解散17時半頃）

費　用　約5000円（京都から）

地　図　昭文社＝「大峰山脈」

係　◎田中　明

申込み　HPからメールのみ受付　http://hana04.hp.infoseek.co.jp

＊定員15名

ハガクレツリフネ・シュウカイドウ・アキギリなどの秋花を楽しみましょう。雨天中止

鈴鹿を歩く224

盤石の丘・衣掛山・日本コバ（一般向き）

期　日　9月18日(日)　日帰り

集　合　国道306号線道の駅「マーガレットステーション」8時00分

コース　道の駅（車）角井峠―衣掛林道入口―盤石の丘―衣掛山―衣掛の泉―日本コバ―P897㍍―明神岩―大萩（車）林道入口（解散）

費　用　交通費各自

地　図　昭文社＝「鈴鹿」

係　◎岩野　明　○山田景三　○後藤康幸

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

＊マイカー山行

約五百年前まで、湖東の名刹百済寺の山中修行として、行者達が押立山や日本コバ周辺で修行していた。不明だった「盤石の丘」が最近発見整備されている。いにしえの行者達が歩いたルートをたどります。雨天中止

近畿百名山に登る（第83回）

奥播磨・三室山（一般向き）

期　日　9月19日(祝)　日帰り

集　合　JR新大阪駅正面口7時40分

コース　新大阪駅（バス）三室高原青少年野外活動センター―登山口―岩場―三室山―（往路）―三室高原（バス）大阪駅前19時頃（解散）

費　用　約3500円（新大阪駅からバス代）

地　図　2万5千＝西河内

係　◎村田智俊　○安倉正勝　○呉比裕美

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで

＊定員40名（会員に限る）

1等三角点のある山頂からは展望がよい。雨天中止

自然観察山行188

上越

谷川岳・武尊山・玉原高原（中級向き）

期　日　9月22日(木)夜～25日(日)　前夜発2泊3日

集　合　〈22日〉JR岐阜駅22時00分

コース　〈22日〉岐阜駅（バス）〈23日〉（バス）谷川岳マチガ沢登山口―ガレ沢のコル―肩ノ広場―トマの耳―オキの耳―トマの耳―肩ノ広場―熊穴沢避難小屋―天神平駅（ロープウェイ）土合駅（バス）水上町ペンション（泊）

〈24日〉ペンション（バス）武尊牧場スキー場―旭小屋分岐―前武尊―沖武尊―剣ヶ峰山―武尊沢―武尊神社（バス）ペンション（泊）

〈25日〉ペンション（バス）玉原高原センターハウスーブナ平分岐―玉原湿原―センターハウス（バス）岐阜駅（解散）

費　用　約53000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）

地　図　昭文社＝「谷川岳・苗場山・武尊山」

◎鷲見守康

係　〒504―0828　各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで

＊定員20名
＊8月20日まで
巌剛新道から谷川岳へ登り、武尊山はできれば縦走します。玉原高原では関東一のブナ林で遊びます。雨天決行（コース変更あり）

平日ふれあいハイク54
比良・釣瓶ヶ岳と武奈ヶ岳
（中級向き）
期　日　9月27日(火)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時30分
コース　京都駅（バス）栃生野街道―イクワタ峠―釣瓶ヶ岳―武奈ヶ岳―西南稜―御殿山―坊村（バス）京都駅（解散17時30分頃）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　昭文社＝「比良山系」
係　◎寺井恒夫
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名（会員に限る）
栃生からイクワタ峠へは木立が美しい。展望のよい西南稜はスキでおおわれていることでしょう。雨天中止

火曜ハイク9
京津・音羽山から千頭岳・上醍醐
（一般向き）
期　日　9月27日(火)　日帰り
集　合　京阪京津線大谷駅9時00分
コース　大谷駅―蝉丸神社―音羽山―千頭岳―三角点―横嶽峠―上醍醐―醍醐寺（解散16時頃）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝京都東南部
係　◎仲谷利司　○田中善雄
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
久しぶりに音羽山から千頭岳に登ります。雨天中止

北山ちょっと歩き70
花折峠から天ヶ森（ナッチョ）
（一般向き）
期　日　9月28日(水)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時50分
コース　京都駅（バス）花折峠―旧道花折峠―P812ピ―三谷峠―天ヶ森―小出石（バス）地下鉄国際会館（解散16時頃）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎呉山紫三
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
大原の里山10名山の天ヶ森を目指し、京都七ツロの旧道花折峠から歴史と展望を得て歩きます。雨天中止

ファミリーハイク67
伊勢・白猪山（一般向き）
期　日　9月29日(木)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1階正面口
構内7時00分
コース　新大阪駅（バス）大日堂―都登山口―二ノ峰―展望台―白猪山―二ノ峰―大城道分岐―大日堂（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約4000円（新大阪からバス代）
地　図　2万5千＝大河内・横野
係　◎木村太郎
申込み　〒565―0854　吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）

棚田広がる石垣の里から、可憐な秋の草花が迎えてくれる石仏信仰の山へ登る。雨天中止

自然観察山行189
越前・経ヶ岳から法恩寺山
三頭山縦走
（中級向き）
期　日　10月1日(土)～2日(日)
1泊2日
集　合　（1日）JR岐阜駅9時15分
コース　（1日）岐阜駅（バス）農道法恩寺線中ノ平―三頭山―平泉寺（バス）六呂師高原ホテル（泊）
（2日）ホテル（バス）農道法恩寺線展望休憩所―保月山―杓子岳―中岳―経ヶ岳―伏拝―法恩寺山―農道法恩寺線中ノ平（バス）岐阜駅（解散）
費　用　約3200000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）
地　図　2万5千＝越前勝山・願教寺山
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828　各務原市森原村南町1の19の5　鷲見守康まで

＊定員20名
＊8月27日まで
経ヶ岳から法恩寺山へ廻り、法恩寺山から三頭山を経て平泉寺に下る白山越前禅定道を2日に分けて縦走します。雨天決行（コース変更あり）

地図読み山行71
紀泉高原・昭和山（一般向き）
期　日　10月2日(日)　日帰り
集　合　南海樽井駅前バスのりば8時45分
コース　樽井駅（バス）つづら畑―つづら畑越―柿峠―昭和山―槌の子峠―塊谷―JR山中渓駅（解散）
費　用　約2000円（大阪から）
地　図　2万5千＝岩出
昭文社＝「金剛・葛城・紀泉高原」
係　◎塚元一彦　○中村　登
申込み　〒536―0008　大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元一彦まで
＊定員30名
新ハイキング関西支部と合同ハイカーが少ない静かなコースです。地形図とコンパスを勉強しながら過ぎ去った昭和をしのびましょう。初心者歓迎。雨天中止

比良を歩く44
桑野橋から蛇谷ヶ峰（一般向き）
期　日　10月2日(日)　日帰り
集　合　JR堅田駅前バスのりば8時40分
コース　堅田駅（バス）桑野橋―猪ノ馬場―天狗ノ森―蛇谷ヶ峰―817Pピ―公社営林地立看板―富坂尾根―玉津島神社―富坂口（バス）近江高島駅（解散17時頃）＊歩行5時間
費　用　約2800円（京都から）
地　図　2万5千＝北小松
昭文社＝「比良山系」
係　◎秦　康夫
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
スタートからの林道歩きが難点ですが、あとは尾根道が続きます。帰りは、毎年雪のシーズンに輪カンで歩く富坂尾根をくだります。雨天中止

鈴鹿を歩く225
ヒキノ・旭山・東山（中級向き）
期　日　10月2日(日)　日帰り
集　合　永源寺町役場8時00分
コース　役場（車）御池林道小又谷出合広場―巡視路―稜線―ヒキノ―旭山―東山―政所（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田昌三　○後藤康幸
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
ヒキノから旭山、東山、政所と続く深い樹林、そして大パノラマの稜線を歩きます。雨天中止

鈴鹿・鬼ヶ牙から白杵山
（健脚向き）
期　日　10月4日(火)　日帰り
集　合　近鉄桔梗が丘駅前9時00分／白船谷出合駐車場10時10分
コース　白船谷出合―鬼ヶ牙―長坂の頭―県境尾根―白杵山―白杵山東尾根―白船谷出合（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝伊船
係　◎田中賢治　○岡平くみ子
申込み　〒518―0626　名張市桔梗が丘6の2の18　田中賢治まで
＊定員10名
＊マイカー山行（5名まで乗合い可能。希望者はその旨明記ください）
鬼ヶ牙の岩尾根から長坂の頭、県境稜線、白杵山へと白船谷源頭を周回する、歩きごたえのあるコースです。小雨決行

奥美濃・五蛇池山（中級向き）
期　日　10月8日(土)　日帰り
集　合　旧坂内村役場前8時30分
コース　役場（車）大谷川ニシマタ谷出合―旧林道終点―トウゲノ谷―五蛇池峠―五蛇池山―トウゲノ谷―旧林道終点―ニシマタ谷出合（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝美濃広瀬
係　◎金谷　昭　○磯部　純
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
山上に五蛇池を秘めた五蛇池山。

村が付けた調査用の切り開きを利用して登ります。雨天中止

展望の山9
白山・三方岩岳と冬瓜山
（健脚向き）
期　日　10月8日(土)～9日(日)
1泊2日
集　合　(8日) 新幹線岐阜羽島駅北口7時10分
コース　(8日) 岐阜羽島駅(車)白山スーパー林道三方岩岳駐車場―三方岩岳―野谷荘司山―(往路)―駐車場(車)中宮温泉(泊)
(9日) 中宮温泉(車)白山自然保護センター・中宮展示館―冬瓜山―白山保護センター(車)米原駅(解散)
費　用　約14000円(岐阜羽島駅から車代・宿泊代・有料道代等)
地　図　昭文社＝「白山」
係　◎山田明男
申込み　〒503―0535海津市南濃町松山624の19山田明男まで
＊定員14名
三方岩岳の紅葉、冬瓜山の次三角点を見に行きましょう。雨天決行

自然観察山行190
上州・妙義山と荒船山
（中級向き）
期　日　10月8日(土)夜～10日(月)前夜発1泊2日
集　合　(8日) JR岐阜駅22時00分
コース　(8日) 岐阜駅(バス)国民宿舎「夏妙義」―木戸―丁須ノ頭―木戸―国民宿舎(バス)妙義神社―本読みの僧―あずまや―第四石門―石門入口―妙義神社(バス)下仁田町旅館(泊)
(10日) 旅館(バス)内山峠―荒船山―内山峠(バス)岐阜駅(解散)
費　用　約41000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)
地　図　2万5千＝松井田・南軽井沢・荒船山・信濃田口
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊8月27日まで
奇石、怪石が林立する裏妙義と表妙義自然探勝路を巡り、航空母艦のような特異な山容の荒船山を歩きます。
雨天決行（コース変更あり）

近畿百名山に登る（第85回）
南勢・南赤山と高峰山
（中級向き）
期　日　10月9日(日)～10日(月)
1泊2日
集　合　(9日) 近鉄大和八木駅8時00分
コース　(9日) 八木駅(バス)大内村峰越林道千石線(バス)森林公園登山口―休憩広場―南赤山―千石越林道―森林公園(バス)民宿「イワナの里」(泊)
(10日) 民宿―中川林道終点―桧尾峠―高峰山―矢ノ川峠―国道42号線(バス)八木駅(解散19時頃)
費　用　約15000円(八木駅からバス・宿泊代等)
地　図　2万5千＝問弓・尼賀
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○呉比裕美
申込み　〒610―0121城陽市寺田大畔10の10村田智俊まで
＊定員20名（会員に限る）
高峰山は日帰りが無理なので、前日に大内村の1等三角点峰南赤山に登ります。北側登山口の民宿に泊まって高峰山を目指す。下山は南側の矢ノ川峠へ。雨天決行

ファミリーハイク68
北摂・るり渓と深山（初級向き）
期　日　10月12日(水)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1階正面口構内8時00分
コース　新大阪駅(バス)るり渓駐車場―渓流歩道入口―逍天湖―登山口―深山―登山口―るり渓温泉(バス)新大阪駅(解散)
費　用　約3500円(新大阪駅からバス代)
地　図　2万5千＝福住・埴生
係　◎木村太郎
申込み　〒565―0854吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで

＊定員20名（会員に限る）
名勝るり渓のせせらぎに耳を傾け、北摂最高峰深山からの広大な眺めを楽しみます。雨天中止

千石山（若狭町）（一般向き）
期　日　10月15日(土)　日帰り
集　合　旧上中町役場9時30分
コース　役場(車)瓜割の滝―千石山―(往路)―瓜割の滝(解散)
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝遠敷
係　◎高島伸治
申込み　〒610―0121城陽市寺田大畔10の10新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
雨天決行

三重の山81
鈴鹿・国見岳（やや健脚向き）
期　日　10月15日(土)　日帰り
集　合　朝明キャンプ場駐車場9時30分
コース　朝明キャンプ場―根の平峠―国見岳―腰越峠―朝明キャンプ場(解散16時頃)
費　用　150円
地　図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎尾崎英五　○稲垣逸夫
申込み　〒519―0311鈴鹿市大久保町2065稲垣逸夫まで
＊マイカー山行
展望良。紅葉に期待。雨天決行

鈴鹿遊山13
七人山から御在所岳（健脚向き）
期　日　10月15日(土)　日帰り
集　合　武平峠西駐車場8時00分
コース　武平峠―茨谷―沢谷峠―七人山―コクイ谷―地獄谷左岸尾根―御在所岳―郡界尾根―沢谷峠―茨谷―武平峠(解散)
費　用　参加費200円
地　図　2万5千＝御在所
係　◎筒井克治
申込み　〒610―0121城陽市寺田大畔10の10新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
雨天中止

鈴鹿百山75
丸山・高室山（中級向き）
期　日　10月16日(日)　日帰り
集　合　①JR彦根駅8時30分／②三岐鉄道西野尻駅8時00分
コース　各集合駅(車)佐目十二相神社―尾根―室谷林道―高室山―丸山―陣屋―南後谷―佐目(車)各駅へ(解散)
費　用　交通費各自(車代500・1000円)
地　図　奥村さんの絵地図を差し上げます
係　◎山田明男　○高原秀彦
申込み　〒503―0535海津市南濃町松山624の19山田明男まで
＊定員20名程度
佐目集落から丸山・高室山へ登ります。雨天中止

鈴鹿を歩く226
高取山・比婆山・イワス
（中級向き）
期　日　10月16日(日)　日帰り
集　合　河内線廃校広場8時30分
コース　広場(車)あけん原―高取山―比婆山―比婆神社―イワス―屏風―茨村広場(解散)
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田景三　○後藤康幸
申込み　〒610―0121城陽市寺田大畔10の10新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
古代ロマンが漂う秘境の比婆神社。イワス（原石山）からの大パノラマ、そして深い樹林の稜線を歩きます。雨天中止

火曜ハイク10
北摂
箕面山・天上ヶ岳から外院尾根
（一般向き）
期　日　10月18日(火)　日帰り
集　合　阪急箕面駅9時15分
コース　箕面駅―箕面山―天上ヶ岳―政の茶屋跡―外院尾根―新家(解散16時頃)
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「北摂・京都西山」
係　◎仲谷礼司　○田中義雄
申込み　〒610―0121城陽市寺田大畔10の10新ハイキング関西まで
あまり人の入らない箕面山に、

役の行者の終焉の地といわれる天上ヶ岳に寄り、巡礼古道の外院尾根を歩きます。雨天中止

台高・峰山（やや健脚向き）
期　日　10月20日(水)　日帰り
集　合　近鉄大和上市駅8時50分
コース　大和上市駅（タクシー）中奥集落―ケーブル中継柱―峰山―ケーブル中継柱―中奥集落（タクシー）大和上市駅（解散）
費　用　約5900円（阿部野橋駅からタクシー代含む）
地　図　昭文社＝「大台ヶ原」2万5千＝柏木
係　◎西上利和
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員24名（会員に限る）

急登と多少のやぶ漕ぎはありますが、訪れる登山者も稀で、静かな山歩きが楽しめます。＊時間があれば、1210㍍峰まで往復します。雨天中止

週末ハイク69
湖西・三十三間山から鷲峰山（一般向き）
期　日　10月22日(土)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば8時00分
コース　京都駅（バス）倉見―夫婦松―風神―三十三間山―鷲峰山―天増川林道―天増橋（バス）京都駅（解散）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　2万5千＝熊川・三方
係　◎狩野東彦
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員22名（会員に限る）

三十三間山から江若国境尾根を鷲峰山まで歩きます。最近、今津山上会がブッシュを刈り払いしたので歩きやすくなっているが、天増川への下山は急斜面です。雨天中止

紀伊山地の参詣道を歩く5
小辺路2
⑨高野山から水ヶ峰越
⑩大股から伯母子峠越（中級向き）
期　日　10月22日(土)～23日(日)　1泊2日
集　合　〈22日〉南海・JR橋本駅9時10分
コース　〈22日〉橋本駅（バス）千手院橋―ろくろ峠―薄峠―スカイライン―水ヶ峰集落跡―林道タイノ原線―平辻―大股（バス）奥高野自然の里（泊）
〈23日〉自然の里（バス）大股―松峠―伯母子岳―伯母子峠―上西家跡―三田谷登山口（バス）近鉄大和八木駅（解散18時頃）
費　用　約15000円（宿泊・バス代等）
地　図　詳細図を当日配布
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○呉比裕美
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
＊定員20名（会員に限る）

高野山からの小辺路を水ヶ峰を越え、2日目は伯母子峠を越えて三田谷まで歩きます。雨天決行

ファミリーハイク69
奈良・当尾石仏の里（一般向き）
期　日　10月23日(日)　日帰り
集　合　JR奈良駅バスのりば6番9時10分
コース　奈良駅（バス）岩船寺口―岩船寺―浄瑠璃寺―赤門坂―中ノ川―緑ヶ丘―奈良阪南口―般若寺―近鉄奈良駅（解散）
費　用　約600円（奈良駅から交通費）＊拝観料別途
地　図　2万5千＝柳生・奈良
係　◎木村太郎
申込み　〒565―0854　吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで

当尾の里の石仏をめぐり、古刹の花の寺を訪ねます。般若寺はコスモスが見頃です。雨天中止

六甲・五助山（中級向き）
期　日　10月23日(日)　日帰り
集　合　神戸電鉄唐櫃台駅9時00分
コース　唐櫃台駅―凌雲台―五助山―打越峠―阪急岡本駅（解散17時頃）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝宝塚・有馬・西宮
係　◎古賀慶一　○岡田　昇
申込み　〒675―0112　加古川市平岡町山之上684の33・17A403　古賀慶一まで

秋の一日、紅葉始まる六甲を横断します。雨天中止

台高・蓮川千石谷から笹ヶ峰（健脚向き）
期　日　10月25日(火)　日帰り
集　合　近鉄榛原駅前8時10分／蓮小学校跡広場9時40分
コース　集合広場（車）ヌタハラ谷出合―千石林道―笹ヶ峰東尾根―笹ヶ峰―明神岳―檜塚―ヌタハラ林道―ヌタハラ谷出合（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝大豆生
係　◎田中賢治　○岡平くみ子
申込み　〒518―0626　名張市桔梗が丘6の2の18　田中賢治まで
＊定員10名
＊マイカー山行（5名まで乗合い可能。希望者はその旨明記ください）

千石谷林道から笹ヶ峰東尾根のかすかな踏み跡をたどり、ブナ林の美しい笹ヶ峰へ登ります。帰路は明神岳、檜塚を経て長いヌタハラ谷林道をくだります。タフな一日になるでしょう。小雨決行

北山ちょっと歩き71
芦生原生林・シンコボ（一般向き）
期　日　10月26日(水)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時00分
コース　京都駅（バス）生杉―中山神社―アン谷―杉尾峠―シンコボ―水谷―野田畑谷―サワ谷―中山神社―生杉（バス）京都駅（解散18時頃）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎呉山繁三
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

ブナ林と大自然の紅葉を楽しみます。雨天中止

花巡り山行23
京都北山・品谷山から廃村八丁（一般向き）
期　日　10月30日(日)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅バス停7時40分
コース　出町柳駅（バス）菅原―ダンノ峠―佐々里峠分岐―呉谷山―スモモ谷―廃村八丁―四郎五郎峠―ダンノ峠―菅原（バス）北大路駅（解散19時頃）
費　用　約2100円（出町柳駅からバス代）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎田中　明
申込み　HPからメールのみ受付 http://hana04.hp.infoseek.co.jp
＊定員15名

ブナ林続く尾根から静かな品谷山、苔むすスモモ谷をくだり、往時を偲びながら廃村八丁の秋彩を愛でましょう。雨天中止

九州中南部の山
霧島連山・市房山・白髪岳（中級向き）
期　日　11月2日(水)夜～6日(日)朝　4泊5日（内、船中2泊）
集　合　〈2日〉大阪南港かもめフェリーターミナル19時00分（19時30分発）
コース　〈2日〉大阪南港（船中泊）
〈3日〉宮崎港（バス）高千穂河原―新燃岳―韓国岳―大波登山口（バス）湯山温泉（泊）
〈4日〉湯山温泉（バス）市房神社登山口―市房山―二ツ岩―野々頭（バス）湯山温泉（泊）
〈5日〉湯山温泉（バス）猪ノ子伏林道登山口―猪ノ子伏―白髪岳―猪ノ子伏―登山口（バス）宮崎港（船中泊）
〈6日〉大阪南港（7時30分着・解散）
費　用　約43000円（フェリー・バス・宿泊代等）
地　図　昭文社＝「霧島・開聞岳」2万5千＝兎田・白髪岳
係　◎狩野東彦
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員23名（会員に限る）
＊10月20日まで

紅葉の霧島連山主峰を大浪池へくだり、湯山温泉泊。宿題の市房山縦走とブナ黄葉の白髪岳を歩きます。バスは病が回復した甲斐ドライバーです。雨天決行

新ハイキング選書

第4巻 一等三角点のすべて　多摩雪雄 編
改訂2刷／上製本／B6判352頁／定価1890円　高度順一等三角点100など、一等三角点の知識をこの一冊に収録。地形図による一等三角点の決定版。

第9巻 一等三角点の名山100　安藤正義/市川静子/多摩雪雄/冨田弘平/松本　浩　共著
3刷発売中／B6判336頁／定価1631円　北海道から沖縄まで、マニヤのモサが選んだ全国100座の一等三角点峰紀行・案内文集。

第14巻 百歳までの山登り　冨田弘平 著
2刷発売中／上製本／B6判360頁／定価1835円　北から南から海外まで、百歳までの山登りをめざす中高年の星。話題豊富な著者の紀行と随想集。

第18巻 一等三角点の名山と秘境　安藤正義/多摩雪雄/冨田弘平/松本　浩　共著
2刷A5判340頁／定価1837円　一等三角点の山100座の登山コースを紹介全国一等三角点配置図と全国一等三角点の県別の所在地を最新の資料で掲載。

第19巻 山との出会い　冨田弘平 編
B6判328頁／定価1680円　山とのであい、花とのであい、人とのであい、さまざまな出会いを書き下ろした山の随筆55名の話題のであい。

第20巻 一等三角点の山々　山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦　共著
A5判313頁／定価1680円　第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介一等三角点の山シリーズ3部作目。この三冊で一等点の山はほぼ網羅されます。

第24巻 山岳巡礼　佐藤光雄 著
B6判362頁／定価1680円　山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集。ひとり拓く剱岳北方稜線は本格的に山へ取り組む人への道案内書である。

深田久弥の研究　深田クラブ 編
A5判389頁／定価1680円　深田クラブの飯島　斎・高沢光雄・高辻謙輔の三氏が山行に著作に交友に久弥のすべてを丹念に研究した成果を記録。

田舎ごっこ　中山権四郎 著
B6判234頁／定価1680円　信州の山の家を中心とした折々の出来事を、豊かな感覚でつづった「田舎ごっこ」。蝶との触れ合いをほのかにまとめた「蝶々雑記」が好読物。蝶のカラー写真も出色である。

花と山　100人の100山　エーデルワイスクラブ 編
A5判217頁／定価1680円　坂倉登喜子女史が名誉会長をされているエーデルワイスクラブの会員が、心に残った山を選んでその想いをつづった100山集。

発行所　新ハイキング社　〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル
電話／Fax03-3915-8110
●価格は消費税込み●振替でのご注文は送料当社負担　振替00130-9-146915

山行報告
（5・6月号）
新ハイキングクラブ関西

京都北山・鷹峰から沢山・清滝
（地図読み山行68）
5月1日(日)　くもりのち雨
（集合）京都地下鉄北大路駅9・30～35（バス）源光庵10・05—京見峠10・35～40—上ノ水峠11・25—沢ノ池11・50（昼食）12・50—高雄14・00～10—清滝バス停15・00（解散）
京見峠から沢ノ池は落ち葉を踏む道。雨になったが、予定の清滝まで歩き、六回の地図読みで京都一周トレイルシリーズを終了。
（参加者）小林　桂　岩本彩子　東村由美　宮下淳一　川俣　勲　豊村雅子　松田　久　岩本いすゞ　青木　彰　木下信行　楠原良彦　梅田久子　前田幸子　○中村　登　◎塚元一彦　（計15名）

美濃・伊吹北尾根
（自然観察山行176）
5月5日(日)　晴れ
（集合）JR大垣駅9・00（バス）国見峠10・15～20—銀助平11・15～20—国見岳11・25—大禿山12・10（昼食）12・45—御座峰13・15—静馬ヶ原15・00～15—笹又16・15～20（バス）池田温泉17・20（入浴）18・00（バス）大垣駅18・25（解散）
イワウチワからヤマブキソウまでが咲きそろっていて、充実したフラワートレッキングだった。
（参加者）伊藤　直　伊藤和代　岡田直規　河合敏行　萩野美紀恵　斎藤芳美　里見綽生　加納由紀子　近田智子　時光直二　草野智雅子　中川光郎　中谷峯子　小崎由利子　仲谷礼司　堀田輝子　森　美香子　牧　和夫　三井紘一　森本眞智子　本落孟夫　山岸勝雄　山本惠彦　由田郁代　吉野栄子　○長尾一令　◎鷲見守康　（計27名）

高取・比婆山（鈴鹿百山70）
5月5日(日)　晴れ
（集合）JR米原駅8・10（車）男鬼峠8・40～50—比婆神社分岐9・30—蔵合10・30—高取11・50（昼食）12・35—比婆山（比婆神社）13・15—男鬼峠14・00（車）米原駅14・20（解散）
花が多くてやはりここは近江カルスト花の道だ。花は70種を超え、ヤマシャクヤクも満開だった。
（参加者）笹岡庄蔵　佐古田文子　藤本敏雄　藤本季代　長坂佐知子　安藤ゆう　成瀬忠市　成瀬みち子　久米孝子　石原高子　伊藤喜久男　中神恵子　本間　隆　砂原東美子　栗栖栄吉　栗栖君子　武部美美子　大岩靖美　佐藤文枝　藤本桂吉　山田妙子　○高原芳彦　◎山田明男　（計23名）

大阪南部・金剛山
（花巡り山行14）
5月7日(土)　◎田中　明
＊雨天のため中止しました。

割谷の頭から不動谷国見
（鈴鹿遊山8）
5月7日(土)　くもり
（集合）近鉄湯ノ山温泉駅8・00（車）蒼滝登山口—割谷の頭9・40—山岳寺跡—不動ヶ谷廻行—国見峠—国見取下11・30（昼食）12・30—国見峠—国見尾根—界印—藤内小屋—蒼滝登山口16・00（解散）
増水で谷廻行に手間どる。シロヤシオが満開で、上部ではアカヤシオが盛り。強風で木の根が揺れるほどなのに花は散らない。
（参加者）今岡民代　伊藤喜久男　佐藤文枝　岡平くみ子　◎筒井克治　（計5名）

雄松山荘道から釈迦岳・カラ岳
（比良を歩く40）
5月8日(日)　晴れ
（集合）JR近江舞子駅8・50～55—八幡神社9・10～20—雄松山荘道登山口9・38～45—大津ワンゲル道合流10・42～50—岩場11・20～30—リフト道合流11・45—釈迦岳11・55（昼食）12・30—カラ岳12・45—八淵ノ滝上流・オガサカ道分岐13・30—比良明神前14・05—北比良峠14・10～30—カモシカ台15・00—大山口15・40—トイレ前広場15・50～16・00（解散）—比良駅16・40
カラ岳西尾根の上から下までを埋め尽くすように、今を盛りと咲き誇るシャクナゲの群落は、登りの苦労も吹き飛んでしまうほど。
（参加者）塩尻香織　中嶋日出男　小谷和子　山岸勝雄　紛越みよ子　狩野東彦　木本義子　岡本美子子　加藤元彦　長尾一令　瀬戸内伸子　前田初雄　妹尾公代　塚本忠次　萩野鳴子　松尾麗子　平田和子

細野欽也　仲谷礼司　蓮井洋子
若林和人　山口敏明　○宮下淳一
◎桑　康夫　（計24名）

御所平・舟石・かもしか高原
（鈴鹿を歩く2―5）

5月8日(日)　晴れ
（集合）黒滝8・25（車）田村川林道広場8・35―登山口8・55―ヨコネ10・05―御所平10・40―グミの木峠11・00―小太郎谷結頭11・20（昼食）12・00―舟石12・20―白祥ヶ岳13・20―かもしか高原13・40―山女原14・15―池ノ原集落跡14・40―林道15・00―黒滝15・30～16・00（解散）

アセビの若葉と萌黄色の若葉のなかに、満開のシロヤシオ。ミヤマハコベも可憐だった。池ノ原集落跡の池畔にモリアオガエルの卵を見た。

（参加者）宮村信夫　高原芳彦
金谷　昭　永戸鉄治　佐古田文子
梁本敏夫　池田繁美　南　智恵子
稲垣勝義　樫田勝利　奥野太一郎
大西惟郎　木下信行　今井みよ子
武村千鶴　大石将美　石田眞由美
服部　堯　友田　毅　友田美保子
北村　稔　谷　守　三上仲夫
水谷俊之　○後藤康幸
○山田慈三　◎宗野　明（計27名）

大峰・大普賢岳
（近畿百名山に登る82回）

5月8日(日)　晴れ
（集合）近鉄大和上市駅8・30（タクシー）和佐又ヒュッテ9・30～40―コル10・00―笙ノ窟10・30～40―大普賢岳12・10（昼食）13・00―女人結界14・00―伯母谷覗14・20～45（下山路で迷い、尾根往復）15・30―上谷分岐17・10―大迫17・30（タクシー）大和上市駅18・30（解散）

シャクナゲを期待して奥駈道を選んだが、まだ蕾ばかり。伯母谷覗は大壮観。眺望に見とれて下山道を誤り、1時間のロス。大迫への長い道は平坦で歩きやすく、アカヤシオがきれいに咲いていた。

（参加者）平田輝美　岩村春子
和田純子　絡方由子　砂原恵美子
金森節子　宮野哲郎　宮野慈子
下村和弘　澤田高治　野末あや子
松村雅子　栗栖崇吉　宮路ちへ子
秋枝秀賀　西原辰夫　小林　桂
小山誠次　福岡　章　川田洋子
山崎絢子　磯野重治　繁田広美
三井紘一　竹内正子　山根邦枝
高橋舜治　岩鶴健司　熊木秀雄
朝倉松雄　加藤浩二　小栗大直
横原良彦　冨田雅也　○安倉正勝
◎村田智俊　（計36名）

愛宕山シリーズ6
竜ケ岳・愛宕山からツツジ尾根
（火曜ハイク6）

5月10日(火)　晴れ
（集合）清滝バス停9・00―梨の木大神碑10・15―竜の小屋11・05～20―竜ヶ岳12・00―広場12・10（昼食）13・00―愛宕山三角点13・40～50―社務所14・10～20―水尾分れ14・35―ツツジ尾根―JR保津峡駅16・00（解散）

梨の木大神碑を過ぎてからは工事のため大きく迂回する。竜ヶ岳の急登にシャクナゲを見て、社務所では満開の八重桜、ツツジ尾根のモチツツジに歓声を上げた。

（参加者）小栗大直　長尾一令
加藤元彦　船越利明　塚本忠次
梁栖崇吉　栗栖君子　藤野つるみ
小谷和子　本間　隆　砂原恵美子
山縣勝美　山縣　隆　石原君子
中村英雄　西村三枝　志水明美
宮野直子　小松志信　藤井むつみ
後藤純子　谷　守　加納由紀子
森　和久　中川節子　林　弘毅
木下朝子　冨松雅子　上田正子
白畠忠孝　中谷峯子　○村井寿和
○青木一雄　○田中義雄
◎仲谷礼司　（計35名）

但馬・鉢伏山
（ファミリーハイク58）

5月11日(水)　晴れ
（集合）JR新大阪駅7・00（バス）南部健康高原駐車場10・45～55―全国石楠花公園11・00―尾根出合東屋11・40～45―鉢伏山12・25（昼食）13・05―高丸13・40―小代越13・50～55―林道ゲート14・25～30―キャンプ場14・50―駐車場15・05―八反の滝15・15～20―駐車場15・30～35（バス）小代温泉15・55～17・05（バス）新大阪駅20・40（解散）

登りのブナ林の道ではイワカガミ、鉢伏山の北斜面ではサンカヨウ、高丸ではハルリンドウ、下りではヤマシャクヤク。園所で花の群生と出会った。

（参加者）和田直樹　山本千鶴子
渡部和美　須藤芳子　崎山悦子
川上久堅　松井明忠　砂原恵美子
岩村春子　妹尾一正　木村　豊
市野博文　井上恭子　山中あさみ
西　悦子　古川正子　松尾麗子
岩城登子　盛　敏子　本田久美子

西條良彦　本間昭恵　中澤ちず子
伊藤正延　島田亮子　森　つる子
○秋葉正人　◎木村太郎（計28名）

奥美濃・左門岳

5月14日(土)　晴れ
（集合）樽見鉄道樽見駅9・10（車）根尾東谷林道終点9・48―二股10・15―尾根取付10・56―南西尾根稜線11・32―左門岳12・13（昼食）13・05―尾根取付13・55―二股14・36―林道終点15・05（車）ダム広場15・30（解散）

山野草の花々と頂上付近での白山や能郷白山を始めとする奥美濃の山々の展望を楽しんだ。

（参加者）沖　伸　武藤由美子
谷　久雄　岩本彩子　佐古田文子
中井昭二　大石将美　奥野太一郎
小松志信　白木良弘　白木やす子
細野欽也　杉山能久　加納由紀子
伊藤喜久男　○磯部　純
◎金谷　昭　（計17名）

美濃・西台山からタンポ
（自然観察山行177）

5月14日(土)　晴れ
（集合）JR大垣駅9・00（車）のりこし峠10・30―西台山11・30～40―タンポ12・50（昼食）13・40―西台山15・10～20―のりこし峠16・15（車）谷汲温泉満願の湯17・10（入浴）17・50（車）大垣駅18・40（解散）

西台山からタンポ間のやぶ漕ぎを想定して中級コースとしたが、やぶの密度は低い。石灰岩の混じる山で、花も豊かだった。

（参加者）石原順次　岡本美千子
緒方由子　斎藤芳美　荻野美紀恵
竹田善英　近田智子　砂原恵美子
堀田輝子　松見　昭　北村つねみ
水谷陽子　宮西和子　森　美香子
村川奉忠　森　昌好　川畠勝美
○三井紘一　◎鷲見守康（計19名）

湖北の山・己高山

5月14日(土)　晴れ
（集合）JR木ノ本駅9・10（タクシー）石道登山口9・40―逆杉10・10―鉄塔11・00―己高山11・55（昼食）13・10―鶏足寺跡13・20―鉄塔14・10―石道寺15・15―石道登山口15・45（解散）

逆杉前後は急登。尾根からはなだらかな上り。下りは鶏足寺跡のクリンソウやイチリンソウを見て、逆杉分岐を石道寺へくだった。

（参加者）奥田則夫　宍戸喜久江
志水明美　小川明美　南　智恵子
谷　守　光川悌史　光川二美子
石原君子　木戸雪江　武部芙美子
白石初男　中山　勇　◎高島伸浩
（計14名）

湖西・三重嶽

5月15日(日)　くもり
（集合）JR京都駅7・20～30（バス）粟船山林道―三叉路（あづま邸）9・30―東南尾根取付口9・50―三重嶽12・00（昼食）12・50―水谷分岐13・45―P674.1m14・14―ワサ谷分岐14・45―ワサ谷登山口15・52―石田川ダム駐車場16・10～35（バス）JR西大津駅18・00（解散）

今年は豪雪だったので花は1週間ほど遅く、おかげで春の花が楽しめた。

（参加者）吉條孝次　村井寿和
平田輝美　多賀久子　川上久堅
梁栖崇吉　栗栖君子　中村佳津子
仲谷礼司　岩鶴健司　船本裕巳子
宮野哲郎　宮野慈子　中川光郎
山岸勝雄　竹内正子　澤田高治
川田洋子　森本鈴雄　村田はる江
三井紘一　萩野鳴子　木村　豊
木本恭子　狩野東彦　小山誠次
岡田豊治　小松志信　粟船君子
熊木秀雄　首藤寶子　小尾禾吉
福井清之　林谷彰男　三野　旭
○中西信行　○磯野重治
◎森脇真義　（計38名）

高見山地・坂本谷から三峰山

5月17日(火)　晴れ
（集合）近鉄桔梗が丘駅9・00／奥宇陀青少年旅行村駐車場9・40～10・00―弓木谷経由弓木のコル11・10―坂本谷林道11・30―林道終点12・20（昼食）13・00―稜線14・30―三峰山15・00―弓木のコル16・20―駐車場17・20（解散・車）名張駅18・20

坂本谷林道は、昨年の台風で大荒れ。林道終点で緑に染まりのんびり昼食。少々時間をもらって、ロープ結びの練習。その先、足元不調の方もおいでだったので、急きょ坂本谷の一般コースに変更し、谷筋を行く。ヤマシャクヤク・シロヤシオ・ヤマツツジに歓声をあげた。頂上からの眺めはなかった。

（参加者）前川和佳子
宮路ちへ子　岡平くみ子
◎田中晋治　（計4名）

但馬・氷ノ山と鉢伏山
（花巡り山行15）

5月18日(水)～19日(木)　1泊2日

（18日　小雨）（集合）JR京都駅7・40～45（バス）大久保林道出合11・35—鉢伏山12・05～15—高丸山12・55（昼食）13・35—鞍部14・30—大久保16・15（バス）民宿16・30（泊）

（19日　晴れ）民宿6・20（バス）親水公園6・30—地蔵堂7・50～8・00—氷ノ山越9・15～30—氷ノ山10・35～11・00—神大ヒュッテ11・30（昼食）12・10—東尾根避難小屋13・30～40—下山口14・05（バス）民宿14・20（バス）万灯の湯15・20（入浴）16・00（バス）京都駅18・30（解散）

悪天候で山行が危ぶまれたが、急きょ予定変更し、鉢伏山は強風のなかを登った。氷ノ山は大快晴で、お目当てのサイシンシロガネソウなど多数のお花を見た。

（参加者）堀江房暦　道平きわみ　石原君子　和田綽子　湯浅みや子　堀田輝子　山縣勝美　船本裕巳子　中川節子　岩佐　修　岩本彩子　若松　寛　若松朝子　橋本裕子　瀬里静香　栗栖崇吉　朝倉利己　○村井寿和　◎田中　明（計19名）

大峰・観音峰

5月19日(木)　晴れ

（集合）近鉄下市口駅9・15（バス）観音峰登山口10・27～35—観音平展望台11・45（昼食）12・15—観音峰12・45—三ツ塚13・15—法力峠14・30—母公堂15・15—洞川温泉16・00（バス）下市口駅17・20（解散）

観音平展望台からは大峰の山並みを充分に楽しみ、新緑の尾根歩き。見頃のヤマシャクヤクが迎えてくれた。

（参加者）木村　豊　吉篠孝次　馬籠忠男　竹田勝美　宮路ちへ子　岡田豊治　塚本忠次　砂原恵美子　畑迫徳雄　坂田誠治　山根弘美　渡部和美　北本　泰　西原辰夫　長塚恵子　岩村春子　森　つる子　東山登夫　木村太郎　光川二美子　細野欽也　須藤苑子　○井上由紀晴　◎西上利和（計24名）

鈴鹿・七人山（三重の山77）

5月21日(土)　晴れ

（集合）近鉄湯の山温泉駅9・00（車）武平峠9・45—クラ谷分枝10・45—七人山のコル11・45—七人山11・55（昼食）12・40—コクイ谷出合13・50—クラ谷分枝15・10—武平峠16・00（解散）

イワカガミ・シャクナゲ・ヤマツツジ・シロヤシオに出会え、七人山のブナ新緑がすばらしかった。

（参加者）山本雅子　宮路ちへ子　小林　修　森　晴代　岡本美千子　斎藤芳美　永戸鉄治　石田真由美　平　龍一　平　幸子　林崎　功　河村政和　伊藤勉二　山田勝行　○稲垣逸夫　◎尾崎英五（計16名）

美濃・瓢ケ岳から片知山

（自然観察山行178）

5月21日(土)　晴れ

（集合）JR岐阜駅9・10（バス）瓢ケ岳北登山口10・35—瓢ケ岳11・45（昼食）12・40—骨ケ平13・00—南岳13・15—片知山14・35—片知山片知渓谷登山口15・30（バス）武芸川温泉16・15（入浴）17・00（バス）岐阜駅17・40（解散）

瓢ケ岳の展望は少々物足りなかった。花は多く、奥瓢から瓢ケ岳ではシロヤシオ、南岳から片知山にかけてはベニドウダンやサラサドウダンを楽しんだ。

（参加者）堅田　弘　大須賀　實　木下朝子　栗栖君子　小崎由利子　小松志信　竹内正子　砂原恵美子　平田輝美　堀田輝子　武藤由美子　若林文夫　森　美香子　○吉篠孝次　◎鷲見守康（計15名）

鎌ケ岳・大洞ノ頭・白滝山

（鈴鹿を歩く216）

5月22日(日)　くもり

（集合）元越谷林道入口広場8・30（車）武平峠8・50—鎌ケ岳10・15—仙ノ谷源頭11・30（昼食）12・05—大洞ノ頭12・20—白滝山13・00—鞍部13・40—元越谷15・00—広場15・20（解散）

朝に降水確率が60～70%に変わり半数が欠席、しかし曇り空。長大な尾根にはシロヤシオ・シャクナゲ・イワカガミが続き最高。仙ノ谷源頭のシャクナゲの花の下で昼食。白滝山の尾根は切り開きが西の鞍部まで続いた。登り返すと巨木の赤松尾根が見事だった。

（参加者）岩本彩子　福岡　章　木下朝子　宮村信夫　石井千恵子　池田隆一　一芝義雄　一芝美知子　谷　久雄　池田繁美　石田真由美　佐治光江　加藤國計　谷　守　堀　寿江　○山田景三　◎岩野　明（計17名）

湖西・武奈ケ嶽

（平日ふれあいハイク52）

5月24日(火)　くもり

（集合）JR京都駅7・15～25（バス）角川登山口9・10～25—赤岩岳10・35～45—武奈ケ嶽11・25（昼食）12・10—ワサ谷への分岐12・35—石田川ダム14・00～25（バス）京都駅16・30（解散）

頂上は白いガスのなか、寒くてゆっくりできなかった。ワサ谷にはウツギが満開だった。

（参加者）和田直樹　中村英雄　木下朝子　繁田広美　榊　穣司　本蔭孟夫　中川節子　高岡富美子　原　幸子　堀田輝子　加藤澄二　上田裕子　米山昌子　妹尾一正　林谷彰男　田中義雄　川俣富子　谷　守　細野欽也（計20名）

醍醐・日野嶽から高塚山

（北山ちょっと歩き67）

5月25日(水)　晴れ

（集合）地下鉄石田駅8・30～40—日野嶽10・10—本宮峰三角点11・30—奥の院上醍醐12・20（昼食）13・45—横嶽峠—高塚山14・45—長尾天満宮15・35（解散）

日野の山々、醍醐の山々を力いっぱい楽しんで歩いた。

（参加者）宮西和子　中村啓一　荒木光雄　塚本忠次　中嶋日出男　平田和子　杉本昌士　後藤純子　山岸勝雄　稲本芳雄　宮村孝次郎　本間　隆　本間琴子　山本千鶴子　青木　彰　井上聡美　井上由紀晴　宮崎紀正　松本忠雄　山盛加奈子　小川晴美　平　幸子　岩本いすゞ　奥田則夫　田中順子　中上紀代子　諏訪進一　諏訪綾子　堀居勇蔵　安良陽子　小谷和子　中川光郎　横江　進　秦　康夫　秦　美代子　石原君子　吉田直二　谷　守　○奥谷　昭　◎呉山繁三（計40名）

越前・取立山

（ファミリハイク59）

5月25日(水)　晴れ

（集合）JR新大阪駅7・00（バス）取立山登山口13・25～30—大滝13・50—沢休憩地14・10～15—こつぶり山15・00～10—水芭蕉群生地15・20（鑑賞路探勝）15・35—避難小屋15・40—取立山16・00～10—登山口17・10～20（バス）新大阪駅22・10（解散）

高速道路でバスが故障し修理に2時間程要した。到着遅れにもめげず明るいうちに下山と頑張って歩いた。ガスが湧き、期待の白山連峰が見えなくて残念。見頃の水芭蕉、群生のイワウチワなど、数多くの花々に出会えたのが救いだった。

（参加者）白畠忠子　三上須美恵　沖　伸　兼田幸子　田中三恵子　渡部和美　岩村春子　久保田玲子　竹田善美　松井明忠　道平きわみ　小楽大直　吉篠孝次　中尾美智子　松尾醍子　山根弘美　濱本美和恵　古川正子　山根邦枝　小河美奈子　井上恭子　森田久子　山中あさみ　妹尾一正　木村　豊　千葉千枝子　市野博文　中島　隆　石井恵美子　由田郁代　岩本彩子　中澤ちず子　本間昭恵　青木一雄　西村文男　大東　哲　盛　敏子　野末あや子　本蔭孟夫　畑迫徳雄　山縣　隆　秋葉正人　○西條良彦　◎木村太郎（計44名）

比良・大岩谷から鳥谷山

（週末ハイク67）

5月28日(土)　晴れ

（集合）JR志賀駅8・45～55—弁財天9・30～40—中谷出合9・55—大岩谷分岐10・10～15—中ユリ広場12・15（昼食）13・15—比良岳13・40～45—鳥谷山14・20—荒川峠15・00—中谷出合16・10—弁財天16・20～30—志賀駅17・05（解散）

大岩谷は昨年の台風でかなり荒れていた。縦走路手前の広場はブナとミズナラの新緑が美しく、昼食には絶好。鳥谷山手前から荒川峠にかけてシロヤシオが満開で、ベニドウダンやサラサドウダンもアクセントを添えていた。

（参加者）馬籠忠男　宮下淳一　宮野哲郎　宮野紘子　瀬戸内伸子　首藤育子　蓮井洋子　志水明美　川田洋子　小林　桂　沖　伸　宮本真幸　船越利明　船越みよ子　前田初雄　牧　和夫　岩田育士　林　正義　松本勝子　吉篠孝次　川俣富子　高橋舜治　岡田芳員　渡部和美　酒見祥子　上田正子　小林　修　山本京子　三野　旭　武田和巳　山縣　隆　山縣勝美　岡田豊治　○田中善雄　◎狩野東彦（計35名）

奥美濃

蓮山・平家岳・美濃平家岳

（展望の山4）

5月28日(土)～29日(日)　1泊2日

（28日　晴れ）（集合）JR西岐阜駅8・30～35（車）21世紀の森駐車場10・30～35—奥牧谷—蓮山12・20（昼食）13・00—尾根—駐車場15・00（車）民宿（泊）

〈29日　晴れ〉民宿（車）新深山トンネル西口6・00—№41鉄塔3等三角点8・15—№38鉄塔8・57—美濃平家岳9・05—避難小屋9・45—面倉項合流10・23—平家岳10・50（昼食）11・30—№37鉄塔12・40—№41鉄塔13・45—新深山トンネル西口15・40（板取温泉入浴・車）西岐阜駅18・10（解散）

薬山は12時を廻ったが360度。シロヤシオとドウダンツツジがきれいだった。平家岳へは急登の長い尾根。シロヤシオの尾根、シャクゲ街道とでも呼びたいくらい花が多くあった。山頂付近ではカタクリ・ミツバオウレン・ヒメイチゲ・フデリンドウの花を見た。

（参加者）山田妙子　北村つねみ　吉田峰子　三井紘一　長坂佐知子　栗栖崇吉　栗栖君子　佐古田文子　竹内正子　鳥居信吾　武藤由美子　池田繁美　中神恵子　砂原恵美子　大西俗郎　森　美香子　落合ひろ子　○高岡芳彦　◎山田明男　（計19名）

奥美濃・蕎麦粒山

6月4日(土)　くもり

（集合）旧坂内村役場8・30（車）ニシマタ谷出合8・50—旧林道終点9・50—五蛇池峠分岐11・37（昼食）12・05—蕎麦粒山12・58～13・16—小蕎麦粒山分岐14・00～10—五蛇池峠分岐15・10～30—ニシマタ谷出合16・35（車）旧坂内村役場16・45（解散）

多くの樹花や草花を愛でての登降となった。遠望はなかったが、付近の山々が眺望できた。

（参加者）中島　隆　武藤由美子　若林文夫　木下朝子　前田喜久子　細野欽也　湯浅康夫　湯浅みや子　小松志信　堀　寿江　佐古田文子　奥野太一郎　今井みよ子　加納由紀子　◎金谷　昭　（計15名）

湖北・伊吹古道（鈴鹿連山9）

6月4日(土)　晴れ一時雷雨

（集合）伊吹神社8・00—弥高寺跡9・30—弥高七合目11・00—弥高八合目11・20（一時避難）11・30—伊吹五合目12・00（昼食）13・30—弥高山—伊吹神社15・40（解散）

午後に雷雨注意報。弥高山からのササブッシュを過ぎれば強烈な灌木ブッシュに阻まれ、蒸し暑さと急斜面に苦をあげた。八合目雷崩防止フェンスで昼すれば、早くも雷雨となり緊急避難。五合目から伊吹神社へと早目の下山で後ろ髪を引かれる山行だった。

（参加者）逵井洋子　後藤康幸　栗本敏夫　緒方由子　永戸鉄治　渋谷義光　奥野民恵　奥野富美　池田隆一　小林　修　池田繁美　今岡民代　渋谷光雄　渋谷美知子　大図のり　谷口英雄　村田紀生　丹羽　高田　◎高井克治　（計20名）

南信・尾高山と鬼面山

（自然観察山行179）

6月4日(土)～5日(日)　1泊2日（4日　晴れのちくもり一時雨）

（集合）JR岐阜駅9・15～25（バス）しらびそ高原14・00（昼食）14・20（バス）しらびそ峠14・25—前尾高山15・05～10—尾高山15・45～16・00—前尾高山16・40～45—しらびそ高原17・10（泊）

（5日　晴のちくもり）しらびそ高原7・00（バス）地蔵峠7・25～30—ブナの大木8・30～40—鬼面山9・30～10・00—展望台11・00（昼食）11・30—林道終点登山口12・20～30—林道ゲート13・10—裏木村大島14・00（待機）15・15（バス）岐阜駅18・20（解散）

しらびそ高原は南アルプス南部の山岳を仰ぐ展望台で、すばらしい景観を堪能した。尾高山の下りで雷雨に遭った。鬼面山は野鳥のさえずりや動物のフィールドサインが多く、沢の滑床が見事であった。樹木の花も色とりどりで、とりわけベニドウダンやハクウンボクの花が印象的だった。

（参加者）上田裕子　大須賀　實　沖　伸　金森節子　荻野美紀恵　栗栖崇吉　栗栖君子　砂原恵美子　竹田善英　平田輝美　牧　和夫　三井紘一　若松朝子　森　美香子　○狩野東彦　◎鷲見守康（計16名）

山人山・七人山・雨乞岳

（鈴鹿を歩く217）

6月5日(日)　晴れ

（集合）武平峠8・25—沢谷峠9・10—イイナのコバ10・00—東雨乞岳10・55—人寄りのコバ11・30（昼食）12・20—七人山12・40—沢谷13・10—武平峠14・40（解散）

緑風に吹かれて若葉の尾根を雨乞岳へ。イイナのコバ、人寄りのコバ、七人山でブナの新緑を心おきなく楽しんだ。

（参加者）栗本敏夫　奥野太一郎　森本　勝　森本淳子　岩本彩子

宮野哲郎　大西俗郎　小林　修　永戸鉄治　友田　毅　友田美保子　原　光一　原　幸子　石田眞由美　一芝義雄　○後藤康幸　○山田景三　◎若野　明（計18名）

三舞谷道から武奈ケ岳

（比良を歩く41）

6月5日(日)　くもり

（集合）JR堅田駅8・35～45（バス）梅ノ木10・05—三舞谷出合・右岸へ徒渉地点10・40～50—左岸へ徒渉地点11・15～25—炭焼窯跡11・55～12・00—ワサビ峠12・30～40—武奈ヶ岳13・15（昼食）13・50—細川越14・15—広谷14・40～50—大摺鉢15・45～55—ガリバー旅行村16・20—鹿ヶ瀬道16・50～17・23（バス）近江舞子駅17・43（解散）

三舞谷道はまともな登山道がなく、難路の連続だった。健脚揃いだったので、ワサビ峠にはほぼ予定時間に着いた。武奈ヶ岳からは、ガスで展望がなかった。

（参加者）吉篠孝次　中嶋日出男　馬籠中男　上荏中雄　道平きわみ　木本恭子　福隅　章　小川富士雄　仲谷礼司　福井清之　野里マツヨ　冨田雅也　林　正義　高岡富美子　加藤元彦　荻野鳴子　石井恵美子　青木一雄　松本勝子　染矢つや子　山科邦彦　大森康行　河合美恵子　小川明美　前川悦子　市井ユリエ　○宮下淳一　◎桑　康夫（計28名）

鈴鹿・竜ケ岳

（近畿百名山に登る83回）

6月5日(日)　晴れ

（集合）JR草津駅7・50～8・05（バス）宇賀渓駐車場9・50～10・10—林道終点ホタガ谷裏道登山口10・30—ホタガ谷西尾根取付点10・45—蛇谷分岐上岩尾根11・20～30—岩峰ピーク下12・20—笹尾根展望地12・30（昼食）13・00—稜線道出合13・10—竜ヶ岳13・30～45—遠足尾根分岐14・10—ササやぶから脱出14・40—大日向三角点15・20～45—林道16・30—宇賀渓駐車場16・35～55（バス）草津駅18・50（解散）

竜ヶ岳への登山道はいずれをとっても厳しいので、少しでも楽な道を選んで登降した。ただ、遠足尾根はササやぶで踏み跡もあやしい。

（参加者）冨松雅子　久保田玲子　小谷和子　塩尻香織　武部美美子　小池一郎　岩鶴健司　野末あや子　西村文男　山高義治　山高多恵子　松尾國子　妹尾一正　前田喜久子　緊田広美　松村雅子　宍戸喜久江　若林文夫　高橋舜治　北村　正　朝倉弘雄　中島　隆　宮村信夫　北本　泰　菅井克己　岡本美千子　下村和弘　楠部和代　川俣　勲　井上恭子　黒河内東洋明　○呉比裕美　◎村田智俊（計33名）

蛾峨野路

松尾山・嵐山から小倉山

（火曜ハイク7）

6月7日(火)　くもりのち晴れ

（集合）阪急嵐山駅9・00—松尾山9・40～45—嵐山10・00～15—烏ヶ岳10・30～40—山上ヶ峰11・35～40—松尾谷林道11・55（昼食）12・50—トロッコ保津峡駅13・25～40—小倉山14・35～50—亀山公園15・15～25（解散）

爽やかな風のなか、五つの山を渡り歩いた。「昭文社」発行の「北摂・京都西山」新版には、今まで無名だったP482・6（点名・北上田）に「山上ヶ峰」の名前が記載されている。

（参加者）山津勝雄　荒木光雄　長尾一令　栗栖崇吉　栗栖君子　船越利明　小栗大直　藤野つるみ　塚本忠次　若林和人　波多野恵子　中川節子　宮木真幸　野々山明美　山口雅江　加藤元彦　野々山保夫　本間　隆　本間勢子　大嶽喜代子　柳川常雄　岡田里子　森　つる子　澤田高治　小谷和子　中上紀代子　嶋田　誠　小川晴美　田所真里子　山縣勝美　山縣　隆　小野しげ子　宮野紘子　青木　彰　市野博文　豊村雅子　後藤純子　志水明美　巻田　晃　若林文夫　竹内喜久子　中村英雄　西村三枝　藤井むつみ　木村　豊　石原君子　赤松しげみ　谷　守　渡辺草月　堀江八重子　山根弘美　村井寿和　砂原恵美子　宮野直子　白鳥忠彦　安良陽子　押本吉生　○沖　伸　○青木一雄　○加納由紀子　○小松志信　○田中善雄　◎仲谷礼司　（計63名）

北部台高

木梶川源流から木梶山

6月7日(火)　晴れ

（集合）近鉄楼原駅8・10／高見トンネル東口駐車場8・55（車）木原滝駐車場9・15—木梶林道終点10・30—馬駆ヶ場付近稜線12・40—木梶山12・55（昼食）13・20—木梶北西尾根—木梶林道（北西尾根起点）13・55—木原滝駐車場

14・55（車）椋原駅16・00（解散）
林道終点からは、ルートを探しながら、谷筋を行く。谷が狭まった所から、岩混じりの尾根に取り付く。稜線では「K教授」のご指導のもと、木々の花鑑賞の楽しいひと時。あいにく霧がかかって、台高主稜の眺めは今ひとつだった。下りは西北尾根にとったが、昨年とくらべ格段によく踏まれている。ツッジ・ギンリョウソウなど愛でつつ、木梶林道へくだり着いた。
（参加者）吉條孝次　前川和佳子　緒方由子　森田久子　石倉貴佐子　大村博子　○岡平くみ子　◎田中賢治　（計8名）

六甲・樫ケ峰
（ファミリーハイク60）
6月8日(水)　晴れ
（集合）阪急逆瀬川駅9・15～21
（バス）ゆずり葉台9・35～40―展望広場10・05～10―樫ヶ峰10・20～25―社家郷山10・50～55―小笹峠11・20―逆瀬川上流河原地12・00（バーベキュー）14・30―エデンの園14・44（バス）逆瀬川駅15・00（解散）
右に東六甲縦走路、左に甲山や大阪湾を眺め、気持ちよい雑木林の尾根道をたどる。樫ヶ峰は樹林に覆われていた。社家郷山では大平山や観音山が間近に見えた。小笹峠からの谷道は、歩く人が少ないのか夏草が茂っていた。
（参加者）菱田幸子　貞田久子　松尾順子　村上志子　中澤ちず子　栗栖崇吉　栗栖君子　小田潤子　中村静香　松井明忠　小林博子　東山澄夫　井上聡美　井上由紀晴　中川光郎　板井克久　妹尾一正　渡部和美　岩本彩子　岩城豊子　川上久堅　梅津直茂　中村友昭　秋葉正人　○西條良彦　◎木村太郎　（計26名）

湖北の山・山田山
6月11日(土)　雨のちくもり
（集合）小谷山登山口駐車場8・30（車）清水谷9・00―六坊跡10・00―谷口峠10・40（車）山田山南谷登山口10・55―山田山12・00（昼食）13・00―山田山登山口13・40―清水谷14・00（解散）
小谷山清水谷を出発する前に谷口峠へ車を三台回す。六坊跡手前で合流し、六坊跡から北の谷口峠へ。谷口峠から車に分乗し、山田山の南谷登山口へ向かう。林道終点からは杣道を谷川に沿って登る。谷川はゴロゴロ石の急登になり、最後は直登を這い上がる。ササをかき分け、100メートル程西へ進むと頂上広場へ着いた。
（参加者）石原君子　岩本彩子　谷　守　磯部　純　光川二美子　細野欽也　神野孝允　池田繁美　白石初男　津田知浩　津田夏至子　中山　勇　◎高島伸浩　（計13名）

奥美濃・能郷白山
（展望の山5）
6月12日(日)　晴れ
（集合）JR穂積駅7・00（車）能郷谷車止8・15～30―登山口8・50―林道9・35―前山11・00―能郷白山12・00（昼食）12・50―三角点13・00―前山13・50―林道14・45―登山口15・30―車止16・05（車）穂積駅17・30（解散）
山頂は残雪があり、カタクリ・ショウジョウバカマ・コバイケイソウ・ザゼンソウ・オオバキスミレの花がきれいだった。
（参加者）佐藤文枝　武藤由美子　吉田峰子　成瀬忠市　成瀬みち子　朝倉松雄　吉村　昭　今井みよ子　大西惣郎　笹岡庄蔵　伊藤重美子　小林一世　勝野容子　生越重美子　西山幸子　山田妙子　長坂佐知子　○高原芳彦　◎山田明男　（計19名）

湖西・赤坂山（花巡り山行16）
6月12日(日)　くもり
（集合）JRマキノ駅8・50（バス）白谷9・25―林道分岐10・10―黒河登山口11・45（昼食）12・15―アザラシ岩12・45―三国山湿原13・25―三国山13・40―明王の禿14・25―赤坂山14・40～50―ブナの木平15・35～45―さらさ温泉16・30（解散）
キンコウカは蕾が固かったが、シライトソウ・ササユリに出会え、ベニドウダン・ササラサドウダンなど、大満足の花巡りだった。
（参加者）中川節子　道平きわみ　堀江房蔵　小松志信　猪狩美枝子　木本恭子　和田純子　堀田輝子　木村　豊　上山正二　山根弘美　岩佐　修　荻野美紀恵　○西原辰夫　○岩鶴健司　◎田中　明　（計16名）

大峰・天和山から滝山
6月16日(水)　雨時々小雨後くもり
（集合）近鉄下市口駅8・40～45（バス）和田10・14～20―和田発電所登山口10・23―第二鉄塔10・45―川瀬峠12・05―天和山12・35

（昼食）13・10―川瀬峠13・35―滝山14・40―和田16・30～17・19（バス）下市口駅18・55（解散）
午前中は雨具を着けたり外したりと忙しかったが、昼から天候も回復し、滝山まで快調に歩いた。
（参加者）馬籠忠男　鮫田二郎　木村　豊　竹田勝英　宮路ちへ子　栗栖崇吉　栗栖君子　奥田則夫　入江武史　竹田善英　渡部和美　東山澄夫　西原辰夫　山根弘美　細野欽也　○井上由紀晴　◎西上利和　（計17名）

奥美濃・能郷白山
（自然観察山行180）
6月18日(土)　晴れ
（集合）JR大垣駅9・00（バス）温見峠11・10～20―1492ピーク12・25～35―能郷白山13・20（昼食）13・50―1492ピーク14・25～35―温見峠15・10（バス）淡墨温泉16・25（入浴）17・05（バス）大垣駅18・10（解散）
国道157号線は改良されて車で走りやすくなり、温見峠からの激しいぬかるみもなく、順調な山行となった。山頂部ではまだカタクリが咲き残っていた。
（参加者）井上恭子　猪狩美枝子　上田裕子　大園加代子　大国陽子　金森節子　萩野美紀恵　岡田直規　岡田豊治　久保田玲子　河合勉行　木下朝子　武部美美子　澤田高治　西村文男　村田はる江　堀田輝子　若林文夫　森　美香子　○長尾一令　◎鷲見守康　（計22名）

飯高・木梶三滝（三重の屋78）
6月18日(土)　晴れ
（集合）飯高道の駅9・30（車）高見トンネル口（車）木梶林道入口10・40―白滝10・55―女滝11・15―不動滝11・40―白滝12・10（昼食）13・00―木梶林道木原橋13・40―木梶林道口14・10（解散）
梅雨の晴れ間、水量もまずまずの滝を満喫。昼食は、ギボシの紫花と白花が岩を飾る白滝の前で。木原橋の上部に細くて長い見事な滝もあった。
（参加者）永戸鉄治　岡本美千子　平　龍一　平　幸子　筒井克治　山本雅子　相沢正二　中森義信　川村政和　石田眞由美　○稲垣逸夫　◎尾崎英五　（計12名）

ハト峰・水晶岳
（鈴鹿を歩く218）
6月19日(日)　晴れ
（集合）杠葉尾神崎橋広場8・20（車）神崎川林道広場8・30―白滝谷出合9・25―ハト峰11・10―金山11・50―水晶岳12・30（昼食）13・30―根ノ平峠13・50―神崎川14・20―大瀞15・05―広沢16・00―天狗滝16・40―白滝谷出合17・05―林道広場18・00（解散）
神崎川林道からハト峰、金山、水晶岳の尾根はベニドウダン。水晶岳ではヤマボウシの花。アップダウンの激しいルートを約8時間元気に踏破した。
（参加者）小林　桂　沖　伸　金谷　昭　磯部　純　宮野哲郎　岩本彩子　神野孝允　嘉瀬井　豊　三上仲夫　谷　守　佐古田文子　大西惣郎　池田隆一　小林　修　森本　勝　森本淳子　友田美保子　永戸鉄治　一芝義雄　一芝美知子　○山田景三　◎岩野　明　（計22名）

大塔・清水ヶ峰
（ファミリーハイク61）
6月23日(水)　◎木村太郎
＊雨天のため中止しました。

南八ツ岳・横岳と赤岳
（花巡り山行17）
6月24日(金)～26日(日)
前夜発1泊2日
〈24日　くもり〉（集合）JR京都駅22・35（バス）
〈25日　晴れ〉美濃戸口4・30（仮眠朝食）5・45―美濃戸6・45～7・00―赤岳鉱泉9・05～30―赤岩ノ頭10・45―硫黄岳11・10（昼食）12・00―硫黄岳山荘12・15～40―横岳13・32～45―大権現14・05―地蔵仏15・05―赤岳天望荘15・13（泊）
〈26日　くもりのち晴れ〉小屋5・40―赤岳6・05～30―中岳7・30～50―コル8・05―行者小屋9・00～20―美濃戸口11・25（昼食）12・10―美濃戸口13・33（バス）もみの湯14・00（入浴）15・10（バス）京都駅19・50（解散）
ツクモグサやウルップソウなどの高山植物を堪能し、南アの展望までが楽しませてくれた。
（参加者）村井寿和　多田陽子　堀江房蔵　須藤浩子　光川二美子　森本淳子　岩村春子　水見真砂子　中島　隆　武村千鶴　前田喜久子　松村雅子　山根弘美　宮路ちへ子　南　利憲　原　文子　船本裕ロ子　上山正二　岩本彩子　○西原辰夫　○岩鶴健司　◎田中　明　（計22名）

北信・戸隠山と奥裾花自然園（自然観察山行181）

6月24日(金)夜～26日(日)
前夜発1泊2日
〈24日 晴れ〉（集合）JR岐阜駅22・00（車）
〈25日 晴れ〉越水ヶ原ペンション3・00（仮眠・朝食）6・30（車）戸隠神社奥社入口6・45～50—奥社7・30～40—百間長屋8・35～45—八方睨10・05～25—戸隠山10・35—九頭龍山11・20（昼食）12・00—一不動13・05～15—戸隠キャンプ場14・45～15・10（車）鏡池（車）ペンション15・50（泊）
〈26日 晴れ〉ペンション6・40（車）奥裾花自然園観光センター駐車場8・20～25—自然園散策—観光センター駐車場10・50（車）鬼無里の湯口・35（入浴・昼食）13・20（車）岐阜駅18・25（解散）
参加者8人のためレンタカー使用。ペンションオーナーのガイドにより八方睨へ登り、戸隠表山を縦走した。活動の活発な虫に悩まされたものの、6月の戸隠表山は深山の花や高山の花が次々と現れ、飽きさせない。霞んではいたものの、北アルプス・高妻山・飯綱山・西岳・妙高・雨飾などの展望もすばらしかった。この日、80人以上が登った高妻山への戸隠裏山に比べ、戸隠表山は数パーティと少なく、幸運だった。
（参加者）池田繁美　萩野美紀恵　緒方由子　林　えい子　武藤由美子　森　美香子
○長尾一令　◎鷲見守康（計8名）

谷山・霊仙山（鈴鹿台山71）

6月25日(土)　◎山田明男
＊リーダーの都合で中止しました。

小辺路1

の慈尊院から町石道を高野山
⑧高野山女人道と高野三山巡り（紀伊山地の参詣道を歩く4）
6月25日(土)～26日(日)　1泊2日
〈25日 晴れ〉（集合）南海九度山駅9・20～40—慈尊院10・10～20—展望台10・40—六本杉峠12・10（昼食）12・50—二ツ鳥居13・20～30—笠木峠14・50—矢立15・25～40—車道横断16・20—大門17・40～18・00—宿坊「密厳院」18・30（泊）
〈26日 晴れ〉宿坊7・40（バス）不動坂口女人堂8・00—弁天岳8・30—大門8・55—相の浦口女人堂跡9・30～40—大峰口女人堂跡10・20～30—奥の院前11・00～20—摩尼山12・05（昼食）12・40—楊柳山13・30—転軸山14・25～35—転軸山多目的広場15・00～10—中ノ橋憩園15・15（バス）女人堂15・30—不動坂—極楽橋16・10～33（車）なんば駅18・11（解散）
町石道も女人堂道もよく整備された道。ただし、2日間共に真夏の暑さで、このコースは厳しすぎた。ササユリがいたる所に咲いていて疲れをいやしてくれた。
（参加者）高松雅子　河原美代子　中川節子　和田純子　中嶋日出男　仲谷礼司　中川光郎　道平きわみ　宮野祐子　朝倉弘雄　武部美美子　岡崎知子　馬籠忠男　野末あや子　板井克久　木村植恵　小河美奈子
○真比裕美　◎村田智俊（計19名）

頭頭中山と野鹿の滝

（北山ちょっと歩き68）
6月29日(水)　◎呉山繁三
＊雨天のため中止しました。

海外特別山行

中国・四姑娘山トレッキング
6月28日(火)～7月4日(月)　7日間
〈28日〉関西空港＝北京発成都経由＝成都（泊）
〈29日〉成都観光＝都江堰—バンダ公園＝臥龍（泊）
〈30日〉臥龍＝把郎山峠＝日隆（泊）
〈1日〉日隆＝双橋溝＝日隆（泊）
〈2日〉日隆—無名峠（4085ｍ）—日隆（泊）
〈3日〉日隆＝成都（泊）
〈4日〉成都発＝北京発成都経由＝関西空港（解散）
成都とその周辺観光の後、30日の把郎山峠（4000ｍ）で、ブルーポピーが咲く高原の散策。1日は四姑娘山の西の谷「双橋溝」で高度順化のハイキング。2日は大姑娘山の前山の無名峠（4085ｍ）に登頂。花イッパイの中国の山を楽しんだ7日間だった。
（参加者）黒田安彦　伊東ナナ子　加藤美芦仁　加藤愛子　小河美奈子　多田昌之　多田馨子　野末あや子　杉野茂樹　杉野祥子　砂原恵美子　高島伸浩　高島洋子　田中まや子　山本順子　白畠忠子　田中三恵子　隣　裕子　伊藤　茂　上田千枝子　篠原義子　◎塚元一彦（計22名）

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で15年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お届けします。

四季の自然に触れながら山を歩き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（ワッペン共）
年会費　3000円（送料共）

入会の申し込み（随時）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1～2回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員（定期購読者）紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5095番から5112番まで（敬称略）。

【愛知】吉田峰子
【岐阜】清水博子
【三重】堀　敏連　奥出八重子
【滋賀】伊澤康夫
【京都】橋本裕子　荒木邦彦　田中　実　林　久美子　井口俊介　荒谷拓磨子　井沢重正　渡辺雅美江
【奈良】平沼駿子　星野安朗
【大阪】岩永滋子　細井良子
【兵庫】芝崎　勉

（18名）

訂正とお詫び

83号（盛夏）10ページ上段14行目「秀衡（ひでより）」は「ひでひら」が正しい。
83号（盛夏）13ページ上段13行目の「園勢」は植物の範疇には入っていない。
83号（盛夏）20ページ中段6行目「ツルアリドウシ」は「ツルアリドオシ」が正しい。23ページ写真説明と同中段25行目「オオバミゾホウズキ」は「オオバミゾホオズキ」が正しい。
83号（盛夏）34ページ見出し「日照伝（にっしょうだけ）」は通称（ひでりだけ）です。
83号（盛夏）44ページ中段9行目「一本の茎に一花」は間違いで、頭花自体が花の集合体で「頭花」一個がすでに「複数の花」で、「一本の茎に一頭花」とします。
83号（盛夏）49ページ下段23行目「筋肉通」は「筋肉痛」が正しい。同文50ページ中段12行目「尾根状」は「尾根上」が正しい。
83号（盛夏）54ページ下段26行目「かくにあらし」は「かくにあるらし」が正しい。同文中55ページ下段19行目「ヨハネの三つの所管」は「ヨハネの三つの書簡」が正しい。
83号（盛夏）75ページ下段21行目「福井県大中町役場」は「福井県上中町役場」が正しい。
83号（盛夏）103ページ一段目4行目から「アヒゼ」は「アセビ」が正しい。
83号（盛夏）106ページ二段目4行目から「ヒカゲカズラ」は「ヒカゲノカズラ」が正しい。

（編集室）